

文献目録―旅・巡り・遊行関係文献目録補遺

Research Materials

西海賢二

本目録は拙編「特別付録「浮浪」はぐれと「宿縁」めぐり文献目録」拙著「絵馬に見る民衆の祈りとかたち」〔批評社・一九九九年〕に所収した四一〇〇編の目録に、その後確認した文献目録を追加したものである。

〔凡例〕

この目録に掲げる文献は、紙幅の都合もあり、編者の恣意的選択によるものであるが、概ね次ぎのような方針をとった。

- 一、原則として執筆者、論文タイトル、掲載誌、発行所、刊行年の順に記載した。
- 一、書籍は『』で論文は「」で示し、雑誌名から括弧をはずした。
- 一、掲載順は、刊行年次による。（ただし一九九〇年以前はこの限りではない）
- 一、発行月のわかるものは月別に不明なものは各年次の先頭に記した。
- 一、各年月日は順不同である。

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 一九九〇年以前 | |
| 田寺寛二 | 『人と猿』先風館書店 一九〇六 |
| 望月秋湖 | 『徳本行者傳』東光社 一九〇七 |
| 森本樵作 | 『東予に於ける特殊民の芸業』民俗と歴史一二 一九二二 |
| 島浪 男 | 『札所名所四国遍路』宝文館 一九三〇 |
| 岡宮自猛 | 『四国霊場に就いて』密宗學報二一八 一九三一 |
| 村上長久 | 『四国巡拝所感』遍路一―七 一九三一 |
| 小林正盛 | 『四国遍礼』中央仏教社 一九三二 |
| 亀尾宥賢 | 『四国巡禮の道』遍路二―七 一九三二 |
| 相原熊太郎 | 『四国遍路の話（一）』遍路二―六 一九三二 |
| 富田學支純 | 『遍路行進』遍路五―五 一九三五 |
| 安達忠一 | 『四国遍路たより』遍路五―四 一九三五 |
| 栗山一夫 | 『説話流布者について』『兵庫県民俗資料』第一六輯
一九三五 |
| 萩原井泉水 | 『遍路日記』婦女界社 一九三九 |
| 淡路興隆 | 『必ず歩け；；』十一―五 一九四〇 |
| 富田學支純 | 『歩け・歩け・歩け』遍路一―四 一九四一 |

三宅右一	『遍路と巡禮 上』私家版 一九四二		
高橋 始	『四国八十八箇所展相』松山高商論集五号 松山高等学校 一九四二	松田富太	『四国八十八箇所霊場巡拝記』私家版 一九六三
宮尾しげお	『画と文 四国遍路』鶴書房 一九四三	伊藤真徹	『一向上人と踊躍念仏』印度学仏教学研究一二卷二号 一九六四、三
田代尚光	『融通念仏縁起之研究』(のち増訂版、名著出版、 一九七六) 一九四七、九	松岡 実	『九州における時宗聖の活躍』岡山民俗 顧問三木行治 前知事追悼創立十五年記念講演特集号 岡山民俗学会 一九六五、五
橋本徹馬	『四国遍路記』紫雲荘出版部 一九五〇、二	五来 重	『高野聖』角川新書 角川書店 一九六五、五
山上伊豆母	『陰陽道の伝統と土御門家「歴代組」の一考察』風俗一、 四 一九五一	小田末吉	『木食行道上人と佐渡』佐渡博物館館報一六 一九六七、二
五来 重	『融通念仏・大念仏および六斎念仏』大谷大学研究年報 一〇集 一九五七、一一	山折哲雄	『アジア・イデオロギーの発掘』勁草書房 一九六七
井上豊太郎	『念仏大行者徳本上人傳』御坊起雲閣 一九八五	小田末吉	『木食行道上人と佐渡』佐渡博物館館報一七 一九六八、八
森宗一編	『人の鏡』岸和田徳本行者奉談会 一九六〇、一〇	関根大仙	『埋納経の研究』隆文館 一九六八
武田浩二	『祝言職序説』愛知教育大学研究報告九 一九六〇	桜井好朗	『鴨長明と念仏聖』日本歴史二五四号 吉川弘文館 一九六九、七
熊谷 勉	『松江藩における鉢屋などについて』鳥根史学一〇号 一九六〇	平幡良雄	『四国八十八カ所』札所研究会 一九六九、一一
五来 重	『一遍上人と融通念仏』大谷学報四一卷一号 大谷大学大 谷学会 一九六一、六	桜井好朗	『隠通と文学』方丈記の略本および広本と関連して』日 本文学一九九号 一九七〇、九
福田 晃	『盲人の一系譜―甲賀望月氏系図をめぐって―』伝承文学 研究一号 伝承文学研究会 一九六一、六	岡田 弘	『尾張万歳 たずねたずねて』前編・中編・後編 名古屋 市教育委員会 一九七〇、一九七一、一九七二
福田 晃	『甲賀の唱門師』伝承文学研究三号 伝承文学研究会 一九六二、九	柴田六五郎	『まんだら和尚行状記』南無山房 一九七一、一一
伊藤真徹	『六斎念仏考』印度学仏教学研究一一卷二号 日本印度仏 教学会 一九六三、三	桜井好朗	『閑居と漂泊―隠通の文化的構造―』国文学解釈と鑑賞 三七卷一一号 至文堂 一九七二、一一
福田 晃	『信州滋野氏と巫祝唱導(上) 甲賀三郎譚の管理をめぐつ て』日本民俗学 一九六三、一〇	長岡一忠	『越中一國観音霊場巡拝のしおり(三十三番札所)』私家 版 一九七二
福田 晃	『信州滋野氏と巫祝唱導(下) 甲賀三郎譚の管理者をくつ て』日本民俗学 一九六三、一〇	桜井好朗	『隠通と芸能―その一面―』国語・国文学五〇巻四号

- 大橋俊雄 『時宗の成立と展開』 吉川弘文館 一九七三、六
- 福田 晃 「巫祝唱導の文芸―「曾我物語」をめぐる―」 国文学解
 釈と鑑賞三九卷一号 一九七四、一
- 出雲寺敬直 「鞍馬寺創考」 京都精華学園研究紀要一二輯 一九七四
- 森 毅 「幕末維新と修験―奥州盛岡総録、自光坊快孝について」
 岩手県立盛岡短期大学研究報告二五号 一九七四
- 高橋善好 『お四国産』 愛媛新聞社
- 土方 鉄 「芸能の底流にその一 夢で見えてさえおいとや申す」 季刊
 芸能東西創刊号 新しい芸能研究室 一九七五、三
- 今村昌平 「棄民たち からゆきさん1」 季刊芸能東西創刊号 新し
 い芸能研究室 一九七五、三
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について往復書簡」 季刊芸能東西創
 刊号 新しい芸能研究室 一九七五、
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考」 季刊芸能東西創刊号 新しい芸能
 研究室 一九七五、一〇
- 石田瑞磨 『中世文学と仏教の交称渉』 春秋社 一九七五、七
- 土方 鉄 「芸能の底流その二 餡色の四ツ竹も虫くいとなり」 季刊
 芸能東西二号 新しい芸能研究室 一九七五、七
- 今村昌平 「棄民たち からゆきさん2」 季刊芸能東西二号 新しい
 芸能研究室 一九七五、七
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について往復書簡」 季刊芸能東西二
 号 新しい芸能研究室 一九七五、七
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に」 季刊
 芸能東西二号 新しい芸能研究室 一九七五、七
- 土方 鉄 「芸能の底流その三 早くいたに巡礼摘こえて」 季刊芸
 能東西三号 新しい芸能研究室 一九七五、一〇
- 今村昌平 「棄民たち からゆきさん3」 季刊芸能東西三号 新しい
 芸能研究室 一九七五、一〇
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について往復書簡」 季刊芸能東西三
 号 新しい芸能研究室 一九七五、一〇
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に2」 季
 刊芸能東西三号 新しい芸能研究室 一九七五、一〇
- 関山和夫 『説経源氏節』 季刊芸能東西三号 新しい芸能研究室
 一九七五、一〇
- 岡本鳳堂 『徳本行者』 岡本鳳堂 一九七五、一〇
- 曾根原駿吉郎 「白道仏」 季刊銀苑二二二号 一九七五、一〇
- 土方 鉄 「芸能の底流その四―雪もちらつくしも泣くし」 季刊芸
 能東西四号 新しい芸能研究室 一九七六、一一
- 今村昌平 「棄民たち からゆきさん4」 季刊芸能東西四号 新しい
 芸能研究室 一九七六、一
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について追う夫授書簡」 季刊芸能東
 西四号 新しい芸能研究室 一九七六、一
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に3」 季
 刊芸能東西四号 新しい芸能研究室 一九七六、一
- 田代尚光 「融通念仏縁起行脚」 大源三一号 総本山大念仏寺
 一九七六、一
- 松原市編さん委員会 『松原市史五「資料編三」松原市役所 一九七六、
 三
- 土方 鉄 「芸能の底流その五―ほんとうに歌うことがすきで
 すねん」 季刊芸能東西五号 新しい芸能研究室
 一九七六、四
- 今村昌平 「棄民たち からゆきさん5」 季刊芸能東西五号 新しい
 芸能研究室 一九七六、四

小沢昭一・永井啓夫	「「才蔵市」について往復書簡」季刊芸能東西五号 新しい芸能研究室一九七六、四	津田一男	本宗教学会 一九七六
丸岡忠雄	「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に5」季刊芸能東西五号 新しい芸能研究室 一九七六、四	辻村泰輔	『死装束の旅―四国八十八カ所―』中国出版社 「南無仏太子像の研究」『元興寺仏教民俗資料研究所年報 一九七六』同研究所 一九七七
石田瑞磨	「浄土教の祖師たち」『親鸞思想と高僧』所収 大藏出版 一九七六、六	浦西 勉	「仏教儀礼地方伝播過程の一考察」奈良県立民俗博物館紀要二号 一九七九
土方 鉄	「芸能の底流その六―番外編・とりはずせる壁」季刊芸能東西六号 新しい芸能研究室 一九七五、七	久田松和則	「中世末期、大村地方における神宮御師の活動について」大村史談二二号 大村史談会 一九七七
今村昌平	「棄民たち からゆきさんさん6」季刊芸能東西六号 新しい芸能研究室 一九七六、七	師岡佑行	「近世京都における最底辺の生活(一)―(三)―中島箱棕隠『都繁盛記』から」『京都部落史研究所報二二―一四 一九七八―一九七九
小沢昭一・永井啓夫	「「才蔵市」について往復書簡」季刊芸能東西六号 新しい芸能研究室一九七六、七	鎌田忠良	「流亡のサーカス芸人たち」期間芸能東西八号 新しい芸能研究室 一九七七
土方 鉄	「芸能の底流その七―念仏くどきのにせるして」季刊芸能東西七号 新しい芸能研究室 一九七六、一〇	土方 鉄	「芸能の底流その8 役者・川浪正二郎のこと」季刊芸能東西八号 新しい芸能研究室 一九七七
今村昌平	「棄民たち からゆきさんさん7」季刊芸能東西七号 新しい芸能研究室 一九七六、一〇	今村昌平	「棄民たち 未帰還兵1」季刊芸能東西八号 新しい芸能研究室 一九七七
小沢昭一・永井啓夫	「「才蔵市」について往復書簡」季刊芸能東西七号 新しい芸能研究室 一九七六、一〇	丸岡忠雄	「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に7」季刊芸能東西八号 新しい芸能研究室 一九七七
丸岡忠雄	「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に6」季刊芸能東西七号 新しい芸能研究室 一九七六、一〇	福田 晃	「曾我語りと唱導(一)」立命館文学三七九―三八一 一九七七、三
浅野次郎	「讃岐の遍路旧道について―自然歩道への展望をふまえて」香川大学農学部 一九七六	福田 晃	「曾我語りと唱導(二)」立命館文学三八二―三 一九七七、三
高木昭作	「幕藩初期の身分と国役」歴史学研究(別冊) 一九七六	五来 重	「一遍の時宗と融通念仏」伝統と現代四四号 一九七七、四
清雲俊之	「古日記にみる木食白道」甲斐路二三号 一九七六	土方 鉄	「芸能の底流その9―春駒とロック、二人音楽活動家」季刊芸能東西九号 新しい芸能研究室 一九七七、四
浜田全真	「融通念仏の成立について」尋源二八号 大谷大学国史学会 一九七六		
根井 浄	「日向の修験、善哉坊について」宗教研究四九卷三輯 日		

- 今村昌平 「棄民たち 未帰還兵2」季刊芸能東西九号 新しい芸能研究室 一九七七、四
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について往復書簡」季刊芸能東西九号 新しい芸能研究室 一九七七、四
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に8」季刊芸能東西九号 新しい芸能研究室 一九七七、四
- 今村昌平 「棄民たち 未帰還兵3」季刊芸能東西一〇号 新しい芸能研究室 一九七七、七
- 小沢昭一・永井啓夫 「「才藏市」について往復書簡」季刊芸能東西一〇号 新しい芸能研究室 一九七七、七
- 丸岡忠雄 「周防じょうげゆき考―大道芸「猿廻し」を主題に9」季刊芸能東西一〇号 新しい芸能研究室 一九七七、七
- 福田 晃 「曾我語りと唱導(三)」立命館文学三九四、三九五号 一九七八、五
- 大橋俊雄 『一遍と時宗教団』教育社歴史新書一七二 教育社 一九七八、一一
- 福田 晃 「曾我語りと唱導(四)」立命館文学四〇〇、四〇二号 一九七八、一一
- 土橋 寛監修 『遍路―彼岸に捨てられたもの』創世記 一九七八
- 石田善人 「「一遍」『世界伝記大事典』しまるぷ出版 一九七八
- 梶田 稔 『徳本流名号考』私家版 一九七八
- 出雲寺敬直 「平安時代の鞍馬寺」京都精華学園研究所紀要十六輯 一九七八
- 五来 重 「融通念仏縁起と六斎念仏」『講座日本の民俗宗教六』 一九七九、一一
- 福田 晃 「念仏聖の伝承文芸―沖縄のニンブチャの場合―」『講座日本の民俗宗教七巻 一九七九、一一
- 出雲寺敬直 「草創期の鞍馬寺をめぐる人々」京都精華学園研究紀要 十七輯 一九七九、一一
- 計良勝範 「檀特山釈迦堂の木食行道奉納額」越佐の歴史と文化 宮 榮二古希記念刊行会 一九八五、三
- 在間宣久 「近世村送りの諸相」『歴史地名通信』平凡社
- 小沢正弘 「近世後期―農民の社寺参詣(上)」埼玉史談一八巻二号 一九七一
- 川嶋将生 「山科家をめぐる散所と河原者」立命館文学五四七 一九六六、九
- 尾張知多万歳保存会 『近世出かせぎの郷』知多町教育委員会 一九六六
- 佐藤久治 『秋田万歳』秋田真宗研究会 一九七〇
- 小沢正弘 「近世後期―農民の社寺参詣(下)」埼玉史談一八巻三号 一九七一
- 西尾市史編さん室編 『西尾市の三河万歳』西尾市教育委員会 一九七二
- 藤沢秀晴 「鉢屋覚書(一)(二)」出雲高等学校研究紀要 一一号 一三三 一九七二、一九七四
- 新井 徹 「吉橋組大師講について」MUSEMちば八号 一九七七
- 神谷和正 「三河万歳のあゆんだ道」「ことほぐ」白水社 一九八〇
- 五来 重 「『融通念佛縁起』と勸進」新修 日本絵巻物全集別巻I 「在外篇」角川書店 一九八〇、一一
- 田代尚光 「融通念仏縁起余話」新修 日本絵巻物全集別巻I 「在外篇」月報 角川書店 一九八〇、一一
- 吉田友之 「融通念仏縁起絵巻について―シカゴ・クリーブランド両美術館蔵本の検討―」新修 日本絵巻物全集別巻I 「在外篇」角川書店 一九八〇、一一

- 浜田全真 「融通念仏宗と民俗」『講座 日本の民俗宗教』二 弘文堂 一九八〇
- 間瀬久美子 「幕藩体制下における『河原巻物』の成立と変遷」部落問題研究六四号 一九八〇
- 網野善彦 「鵜飼の歴史」『岐阜県史通史 原始・古代・中世』岐阜県 一九八〇
- 融通念仏宗教学研究 『良忍上人の研究』融通念仏宗総本山大念仏寺 百華苑 一九八一、五
- 横井 清 『中世を生きた人々』ミネルヴァ書房 一九八一、六
- 田中智彦 「聖地としての秩父札所」埼玉地理五 一九八一、七
- 朝尾直弘 「近世の身分制と賤民」部落問題研究六八号 一九八一
- 小寺平吉 『木喰―その蝦夷地の足跡』学芸書林 一九八一
- 田代尚光 『良忍上人と大念仏寺』ぎょうせい『日本仏教の心八』一九八一
- 塩野芳夫 「融通念仏宗の成立過程―浄土宗との関連において」『千葉乗隆博士還暦記念論集 日本の社会と宗教』同朋舎 一九八一
- 塩野芳夫 「近世融通念仏宗の成立―念仏講から一宗独立へ」『近世畿内の社寺と宗教』和泉書院 一九八一
- 萩野三七彦 「西園寺の妙音天像―西園寺家と琵琶の一節―」『古文書研究一七・一八合併号 日本古文書学会 一九八一
- 広江 清 「近世賢女座頭考」土佐史談 一五七号 一九八一
- 融通念仏宗教学研究 『融通念仏宗年表』融通念仏宗総本山大念仏寺 一九八二、三
- 横田冬彦 「幕藩制前期における職人編成と身分」『日本史研究三三五号 一九八二、三』
- 名古屋大学文学部国史研究室編 『中世鑄物師史料』法政大学出版局
- 五来 重 「勧進の聖たち」歴史公論九卷二号 雄山閣 一九八三、二
- 浅香年木 「古代における紙の流通と生産―手工業史の視点から」澤村守編『美濃紙―その歴史と展開』所収 同和製紙発行 一九八三、二一
- 網野善彦 「中世における紙の生産と流通―中世前期を中心として―」澤村守編『美濃紙―その歴史と展開』所収 同和製紙発行 一九八三、一一
- 元興寺文化財研究所 『法会（御回在）の調査研究報告書』同編 一九八三
- 赤井達郎 「絵解きの系譜 日本海が鑑賞試論1〜13」日本美術工芸五四九〜五六一号 日本美術工芸協会 一九八四〜一九八五
- 田中智彦 「秩父阿熊通りについて」埼玉地理八 一九八四、七
- 徳田和夫 「地獄語りの人形勧進」國學院雑誌八五卷一―号 國學院大學 一九八四、一一
- 後藤紀彦 「辻君と辻子君」文学五二―三 一九八四
- 伊藤善良 「中世後期の雑芸者と狩獵民」小笠原長和編『東国の社会と文化』所収 梓出版 一九八五、二
- 小笠原長和 『東国の社会と文化』同氏編 梓出版 一九八五、二
- 石岡信一 「一遍上人における宗教世界―念仏を中心にして―」宗教研究五八卷四号 日本宗教学会 一九八五、三
- 石岡信一 「一遍上人の念仏思想とその浮流（一）」『時宗史研究創刊号 時宗史研究会 一九八五、一〇』
- 今井雅晴 「遊行上人と時宗」『茨城県史 中世編』茨城県 一九八六
- 高野 修 「『聖絵』にみる踊り念仏と踊屋について」『時宗教学年報』三

田中智彦	一四 時宗教学研究 一九八六、三 「近畿地方における地域的巡礼地」神戸大学史学年報一 一九八六、五	新居関所資料館 『特別展旅と名所』図録 一九九七、一〇
田代尚光	「融通念仏縁起曆訪」大源三九号 総本山大念仏寺 一九八六、五	吉橋 清 「吉橋霊場札所の地図と札書之移動」史談八千代一〇号 一九八五
網野善彦	「中世都市と「場」の問題をめぐって」歴史手帖一四巻 一一号 名著出版 一九八六、一一	吉橋 清 「吉橋大師遍路巡拝その後」史談八千代一一号 一九八六 「山伏が棟別銭を集めた話」『遙かなる中世』七 一九八六 「若狭三十三ヶ所と一宮」『史学雑誌』九九巻 一九九〇 『異人・河童・日本人―日本文化を読む』新曜社 一九八七
田中智彦	「四国・礼絵図」と『四国辺路道指南』神戸大学文学部 紀要一四 一九八七、三	長谷川公茂 『羽島円空展』(展示図録) 円空・羽島フェスノ八八 実 行委員会 一九八八
岩崎佳枝	『職人歌合―中世の職人群像』平凡社 一九八七	和田 萃 「市・女・千々々」『女性の力』日本の古代―二巻所収 中央公論社 一九八七
笹本正治	「院内」考」人文科学論集二二号 信州大学 一九八七	新城美恵子 「坂屋富松市について―有力熊野先達の成立と商人の介 入」法政大学封建社会研究会『封建社会研究』第二号 一九八一
広井忠男	『越後の木食上人』新潟日報事業社 一九八七	木場明志 「地方陰陽師の性格と活動」印度学仏教学研究二―一 一九七一、一二
松島達哉	「三つ峠と空胎上人」郡内研究創刊号 都留市郷土研究会 一九八七	木場明志 「但馬・丹後の陰陽師」山岳修験五 一九八九、九
神谷和正	「森下方歳」西尾市史編纂委員会編「西尾市史」第5巻現 代 一九八〇	田中智彦 「西国巡礼の始点と終点」神戸大学文学部紀要一六号 一九八九、三
上田さち子	「融通念仏の広がり」『新修 大阪市史』2所収 大阪市 一九八三、三	川越兼章 「浄土宗一向上人踊躍念仏について」村山民俗二号 村山 民俗の会 一九八九、三
小野寺正人	「菅江真澄と有隣の翁(2)」東北民俗28輯 東北民俗の 会 一九八八、六	福田 晃 「人々が西行に期待したもの」歴史街道二七号 一九八九、七
大多和朋子	「遊行女婦考―日本古代史における遊女の一起源の研究」 学習院大学人文科学論集七 学習院大学 一九八八、九	田中智彦 「近世の西国巡礼者にみる伊勢参宮」所報・環境文化研究 所一四号 一九八九、九
平 雅行	「放下僧と一向衆」部落問題研究所編『部落史史料集』 一卷古代・中世編 部落問題研究所出版部 一九八八、 一一	金井清光 「融通念仏宗と能」清泉女子大学紀要三七号 一九八九、 一一
小野寺正人	「菅江真澄の故郷と生家」東北民俗三二輯 一九八八、六 東北民俗の会	豊田 武 「延暦寺の山僧と日吉神人の活動」『豊田武著作集三 中

- 世の商人と交通』吉川弘文館 一九八三 初出 一九七四、七五
- 児玉 識 「真宗地帯の風習―『渡り』の宗教生活を探る―」『日本宗教の歴史と民俗』所収 隆文館 一九七六
- 田村栄太郎 『やくざの生活』雄山閣出版 一九六四
- 今川徳三 『江戸時代無宿人の生活』雄山閣出版 一九七三
- 大口勇次郎 「村の犯罪と関東取締出役」『近世の村と町』所収 一九八八
- 川田純之 「改革組合村の内部構造の検討」史学五六―四 一九八八
- 林 正雄 「徳住上人のこと」『郷土』一二五号 新城市郷土研究会 一九八七
- 山口県教育委員会 『周防猿まわし緊急調査報告』一九八〇
- 菊池 武 「村を訪れた勧進者」印度学仏教学研究三六一―一九八七
- 渡邊昭五 「衛門三郎の絵解き」国学院大学日本文化研究所紀要五〇輯 一九八二
- 高木昭夫 「大遍路・中遍路・小遍路」土佐民俗四九号 土佐民俗学会 一九八七
- 高木 豊 『平安時代法華仏教史研究』平楽寺書店 一九七三
- 鈴木昭英 「熊野信仰と美術」仏教芸術八一号 一九七一
- 細川敏太郎 「淡島願人」『民間伝承』一六 一九五二
- 河野 弘 『水戸太神楽』筑波書林 一九八三
- 小島廣次 「伊勢御師と津島御師」歴史地名通信一五 一九八三
- 前田博仁 「修験大円と庶民信仰」宮崎県地方史研究第十五輯 宮崎県立図書館 一九八九、三
- 前田博仁 「近世日向の仏師」宮崎県地方史研究第十六輯 宮崎県立図書館 一九九〇、三
- 前田博仁 「日向国における庶民信仰―伊勢参宮の事例―」宮崎県史研究一三号
- 藤田定興 「経塚の地域的分布―東北―」考古学ジャーナル一五三―号 一九七八
- 関 秀夫 「中世六部の奉納経筒―福島県下上野塚の出土品をめぐって―」考古学雑誌七四―四 一九八九
- 鈴木 浩 「上関村経塚の由来」上総文化一 一九七四
- 京田良志 「越中における六十六部納経の資料」史跡と美術四二九号 一九七二
- 三宅敏之 「塔の越経塚―廻国納経に伴う一例として―」甲斐考古五―二 一九六八
- 田代 孝 「七覚山円楽寺の経筒と廻国納経」山梨考古学編纂一 一九八六
- 塚田芳雄 「千葉県における三十三ヶ所、八十八ヶ所の概況について」千葉の歴史三五号 一九八七
- 長谷川匡俊 「房総の巡礼今昔(上)・(下)」カルチャー千葉九・一〇号 一九八六
- 長谷川匡俊 「房総における巡礼のあゆみ」房総の郷土史一五号 一九八七
- 関 秀夫 「六十六部聖による納経塚」『経塚―関東とその周辺―』所収 東京国立博物館研究目録 一九八八
- 宮田伊津美 「岩国領の雑賤民について」部落問題研究一〇五輯 一九九〇
- 西尾正仁 『薬師信仰と勧進集団―有馬温泉をめぐる中世的世界―』御影史学論集一二号 御影史学研究会 一九八七
- 田代 孝 「近世における廻国納経について―千野家納経帳を中心として―」甲斐路季刊 NO. 五六号 山梨県郷土研究会

	編『論集日本仏教史4鎌倉時代』雄山閣 一九八八	一九九一年	
吉井貞俊	「百太夫を祀る神社」『えびす信仰とその風土』国書刊行会 一九八九	松田憲治	「近世陰陽道の編成と知多の陰陽師・万歳師」『名古屋自由学院短期大学紀要』一三三号 一九九一
近藤喜博	「白拍子以前」国語と国文学四三(一〇) 一九六六	市村高男	「中世鋳物師研究の視点と方法」『考古学と中世史研究』名著出版 一九九一
杉山二郎	『遊民の系譜ユーラシアの漂泊者たち』青土社 一九八八	三月	
梶田美純	「くぐつ <small>の</small> 系譜・芸能村」『大分県地方史』一二三 一九八六	田中智彦	「西国巡礼案内記と東国からの巡礼者―兵庫県内の巡礼路―」兵庫県教育委員会編『歴史の道調査報告書1 西国三十三巡礼道』一九九一、三
半田康夫	「傀儡子から役者へ―豊前北原芝居の研究―」『大分大学学芸学部紀要 人文・社会科学集10』一九六一	田中智彦	「葛井寺への道―巡礼案内記・道中みる堺・大坂―」大阪府教育委員会編『歴史の道調査報告書7 宗教の路・舟の路』一九九一、三
名生昭雄	「播州高室芝居の起源について」『芸能史研究』三三三号 一九七一	田中久夫	「西国巡礼の民俗」『西国三十三所巡礼道』所収 兵庫県教育委員会 一九九一、三
大隅和雄	「聖の宗教活動―組織と伝道の視点から―」日本宗教研究会編『日本宗教史研究組織と伝導』法蔵館 一九六七	五月	
菊池勇次郎	「聖について」歴史教育一四(九) 一九六六、九	佐江衆一	「一休宗純『生死とも自然』で貫いた風狂人生」プレジデント 一九九一、五
山本尚友	「宿・鉢叩きを部落史にどう位置づけるか」こべる一五〇、一五一 一九九〇	佐江衆一	「七十四歳『手まり上人』眠るがごとく逝く」プレジデント 一九九一、五
稲城信子	「巡礼札からみた西国三十三ヶ所信仰」浅野清編『西国三十三ヶ所霊場寺院の総合的研究』中央公論美術出版 一九九〇	六月	
湯之上隆	「足利氏の女性たちと比丘尼御所」『古代中世史論集』吉川弘文館 一九九〇	遠州大念仏保存会編	『ひとにわ』は語る音は不滅』一九九一、六
川戸 彰	「木更津市に存する木食観正塔」研究員紀要第四集 千葉県立上総博物館 一九九〇	七月	
関山和夫	『安楽庵策伝和尚の生涯』法蔵館 一九九〇、五	松原 茂	『絵巻Ⅱ融通念仏縁起』同編『日本の美術』二〇三 至文堂 一九九一、七
田中智彦	「三十三度行者の分布と行者の巡礼経路―住吉・大仏組の事例―」歴史手帖一八巻七号 一九九〇、七	一〇月	
		伊藤唯真	「旅と宗教」『仏教大学学报』四一号 一九九一、一〇
		一一月	

榎本 実	「寛永初期の湯殿権現について―水戸藩領の場合」茨城の民俗三〇号 茨城民俗学会 一九九一、一、一一	大島建彦	所収 西桂町教育委員会 一九九二 「八百比丘尼の伝説」八潮市史研究二二号 八潮市立資料館 一九九二、三
一九九二年		大澤研一	「融通念仏宗の六別時について」大阪市立博物館研究紀要二四冊 一九九二、三
時枝 務	「空胎上人と三ツ峠開山」『三ツ峠山の信仰と民俗』所収 西桂町教育委員会 一九九二	松浦 清	「融通念仏信仰と片袖縁起―大念仏寺所蔵「片袖縁起を中心」に」大阪市立博物館 研究紀要二四冊 一九九二、三
榎原雅治	「中世後期の地域社会と村落祭祀」『歴史学研究』六三八号 歴史学研究会 一九九二	五月	「筆まかせ」―旅芸人の遊歴地―」東北民俗二六輯 東北民俗の会 一九九二、五
田村 治	「中世の商人・子供・乞食・非人」『新しい日本史の授業』山川出版社 一九九二	竹内利美	
鈴木昭英	「近世末期長岡―農民の日本回国納経巡礼」長岡市立科学博物館研究報告二七 一九九二	八月	
吉田徳夫	「中世奈良の非人と声聞師」関西大学法学論集四一、五、六 一九九二	松本瑛子	「近世社会における座頭・替女の考察―土佐・阿波を中心に―」鳴門史学第六集 鳴門史学会 一九九二、八
榎本正三	「総州六阿弥陀詣」印西町の歴史八号 印西町史編さん室 一九九二	一月	「新鷲差別解釈の思想と足跡中世民衆と新鷲の旅」一九九二、一一 三一書房
田中圭一	「村の宗教論」『年報日本史叢』筑波大学 一九九二	松本志郎	「入門民衆と差別の歴史」明石書店 一九九二、一一
一月		一二月	
朝尾直弘	「近世京都の牢人」京都市歴史資料館紀要十号 一九九二	松岡 実	「盆の庭入りとバレーバ論―時衆聖の関与について―」仏教と民俗九号 仏教民俗学会 一九九二、一二
三月			
紙谷威廣	「彈誓寺院と木食修行」『三ツ峠山の信仰と民俗』所収 西桂町教育委員会 一九九二、三	一九九三年	
紙谷威廣	「富士山信仰と木食僧集団」『三ツ峠山の信仰と民俗』所収 西桂町教育委員会 一九九二	村井益男	「牢人」『国史大辞典』一四所収 吉川弘文館 一九九三
久野俊彦	「甲斐の木食僧」『三ツ峠山の信仰と民俗』所収 西桂町教育委員会 一九九二	北原章男	「浪人」『日本史大事典』六所収 平凡社 一九九四
久野俊彦	「御正体山信仰と御正体上人」『三ツ峠山の信仰と民俗』	下重 清	「浪人はどのような存在だったか」『新視点日本の歴史第五卷近世編』所収 一九九三
		片桐 讓	「石橋供養塔と替女」田無地方史研究会紀要一九号 田

	無地方史研究会 一九九三、三		会 一九九三、六
新村 拓	「時衆・遊行聖における病」一遍研究編「一遍聖絵と中世の光景」所収 ありな書房 一九九三	一〇月	大阪狭山市立郷土資料館 『特別展行基と狭山池』図録 一九九三、一〇
宮島潤子	「彈誓派における大日信仰」宮坂宥勝博士古希記念論文集『インド密教学研究』所収 法蔵館 一九九三	堺市博物館編 『秋期特別展河口恵海―仏教の原点と求めた人―』堺市博物館 一九九三、一〇	
立野 晃	「幕末〜近代における信仰組合について」歴史科学と教育 一二号 一九九三	一二月	
三月		砂川 博	「尼崎大覚寺文書・琵琶法師・中世社寺」北九州大学文学部紀要四八号 北九州大学 一九九三、一一
柴田 純	「近世の旅―行旅難渋者救済システムについて」宮津市史編纂室 一九九三、三	懷徳堂友の会編 『道と巡礼―心を旅するひとびと―』和泉書院 一九九三、一一	
田中智彦	「近世末、大坂近在の参詣・物見遊山地」山田安彦教授退官記念論文集記念会編『転換期にまつ地域の科学』一九九三、三	田中智彦	「葉室組三十三度行者宿帳の分析(補遺) 大阪女子短期大学紀要一八 一九九三、一一
浅黄三治	「遊行聖の往来と時宗教線の拡大」村山民俗六号 村山民俗の会 一九九二、三	一九九四年	
砂川 博	「『一遍聖絵』と『一遍上人絵詞伝』時宗教学年報二一巻 時宗教学研究所	石井 修	「来訪者と村」木村礎編著『村落生活の史的研究』所収 一九九四
四月		川田純之	「下野における徘徊する浪人と村の契約」地方史研究 二四八号所収 地方史研究協議会 一九九四
田中久夫	「明石の民俗―牛頭天王と法師陰陽師」明石市立文化博物館ニュース三 一九九三、四	川田純之	「徘徊する浪人の社会―浪人中島圭助殺害一件史料より―」栃木県歴史文化研究会編『歴史と文化』三号 一九九四
六月		井上 薫	「狭山池修理をめぐる行基と重源」奈良大学紀要一三 一九九四
小野寺正人	「菅江真澄と有隣の翁」東北民俗二七輯 東北民俗の会 一九九三、六	蒲池勢至	「真宗門徒の道場と宗教生活―四日市小山町を事例として―」四日市市史研究七号 一九九四
小嶋博巳	「巡礼研究の現状と課題―民俗学の立場から―」巡礼研究会第三回例会報告 大阪市立美術館 一九九三、六、九	北川 央	「旅する舞人・伊勢太神楽現代に生きる『奇跡』の遊行宗教者たち」宗教と現代一五―四・五 一九九四
川島秀一	「陸前北部の座頭について」東北民俗二七輯 東北民俗の	三月	

飯島吉晴	「放浪人と一つ目小僧」情況 情況出版 一九九五、六	平野寿則	「『彈誓上人絵詞伝』をめぐる」巡礼研究会第十四回例会報告大阪市立阿倍野市民学習センター
赤井達郎	「絵解きと念仏」融通念仏宗研究誌「大源」四六号 総本山大念仏寺 一九九五、六	川嶋将生	「庭者の系譜―中世後期から近世へ―」立命館文学 五四二 一九九五、一一
七月		菅根幸裕	「房総の六十六部関係資料について」一 巡礼研究会第十二回例会報告 大阪市立阿倍野市民学習センター 一九九五、七、九
伊藤唯真	『仏教民俗の研究』法蔵館 一九九五、七	門屋光昭	「盛岡藩における芸能集団・七軒丁について」民俗芸能研究 第四号 一九九六
八月		市村高男	「中世後期の津・湊と地域社会」中世都市研究三『津・泊・宿』所収 新人物往来社 一九九六
佐藤英子	「宮城県の時宗板碑」六軒丁中世史研究第三号 東北学院大学中世史研究会 一九九五、八	堤邦彦	「近世仏教説話の研究―唱導と文芸―」翰林書房 一九九六
九月		澤井浩一	「伊勢大神楽と大坂の獅子舞―大神楽研究の課題整理―」大阪市立博物館紀要二八一 一九九六
神奈川県立金沢文庫	『特別展図録 写経と摺経』一九九五、九	井川一良	「民衆教育の普及と里修験」山形史学研究二七―二九合併号 一九九六
曾根ひろみ	「江戸時代の熊野比丘尼について」巡礼研究会第十三回例会報告吹田勤労者会館 一九九五、九、一七	神崎直美	「近世後期における松江藩の刑罰」国学院紀要三四号 一九九六
一〇月		小林文雄	「通り者の世界と地域社会」新しい近世史五所収 新人物往来社 一九九六
岐阜県博物館友の会	『円空さんとわたし―後藤英夫写真展』岐阜博物館友の会 一九九五、一〇	久田松和則	「東葛印旛送り大師について」沼南町史研究四号 一九九六
後藤英夫	『円空さんとわたし―後藤英夫写真集―』岐阜県博物館友の会 一九九五、一〇	宮崎幸子	「九州地方における伊勢信仰の受容と展開(1) 皇學館大學神道研究所紀要一二輯
伊藤唯真	『仏教民俗の研究』法蔵館 一九九五、一〇	二月	
一月		伊藤唯真	『浄土宗史の研究』法蔵館 一九九六、二
横浜歴史博物館	『特別展中世の世界に誘う』図録 一九九五、一一	三月	
田中智彦	「ある廻国供養塔の六部について」巡礼研究会第十四回例会報告 大阪市立阿部野市民学習センター 一九九五、一一、一〇	門屋光昭	「菅江真澄と盛岡藩・仙台藩領の民俗芸能」盛岡大学日本

	文学会誌九号 所収 盛岡大学日本文学会 一九九六、三	近藤隆三郎	「環境計画の視点からみた『写し霊場』の解釈と位置づけについて」巡礼研究会第十七回例会報告 和歌山県立博物館 一九九六、九、八
酒井重夫	「心学者の巡回」福井県史資料第七号所収 福井県総務部文書学事課 一九九六、三		
山下史郎	「勝尾塚出土の六十六部資料」巡礼研究会第十五回例会報告大阪府立阿部野市民学習センター 一九九六、三、三	川嶋将生	「山科家をめぐる散所と河原者」立命館文学 五四七 一九九六、九
日野西真定	「大師の宝号」巡礼研究会第十五回例会報告大阪府立阿部野市民学習センター	小野澤 眞	「時衆の寺々を訪れて」日本史教育研究一三五号 一九九六、九、二九
越智通敏	「念仏勧進はれがいのち―永遠の旅人・一遍―」時宗教学年報二四号 一九九六、三	小野澤 眞	「将門首塚から浅草寺日輪寺へ―民衆の信仰とその包摂―」日本史教育研究一三六号 一九九六、九、二一
末柄 豊	「応仁・文明の乱以降の室町幕府と陰陽道」東京大学史料編纂所研究紀要六 一九九六、三	丸山尚一	『新田空風土記』(株) 里文出版 一九九六、九
戸村浩人	「一遍・聖戎の活動の背景」時宗教学年報二四号 一九九六、三	一〇月	
菊池勇夫	「コモカブリ考―乞食の姿について―」宮城学院女子大・キリスト教文化研究所年報二九号 一九九六、三	一月	
今堀太逸	「浄土宗の時局特別伝道―「特命巡教」の発展」仏教大学総合研究所紀要三号 一九九六、三	山本秀夫	「へんろ道をたどる」『歴史の道・再発見』六卷所収 フォーラムA 一九九六、一一
七月		一二月	
坂本敬司	「因幡の六十六部資料」巡礼研究会第十六回例会報告 一九九六、七、一四	池田睦子	「宮めぐりと巡礼―寺社巡拝に関して―」巡礼研究会第十八回例会報告吹田市勤労者会館 一九九六、二、一五
徳光由実子	「巡礼に関する文化人類学的研究の流れ」巡礼研究会第十六回例会報告	三原幸久	「スペインの聖母像発見の霊験譚について―」巡礼研究会第十八回例会報告吹田市勤労者会館 一九九六、二、一
杉崎行夫	「根岸夜話2」歴研二四号、函南町歴史研究会 一九九六、八	砂川 博	「中世の大覚寺と琵琶法師―『覚―本平語相伝次第』をめぐって―」地域史研究 尼崎市立地域研究史料館紀要第二六卷一号 一九九六、一一
九月		一九九七年	
根井 浄	「湯浅一族・実勝坊の補陀落渡海」巡礼研究会第十七回例会報告 和歌山県立博物館 一九九六、九、八	荻米一志	「遁世僧における顕密教の意義」年報中世史研究二二 一九九七

川田純之	「徘徊する浪人の実態とその社会」 栃木県立文書館研究紀要 創刊号 一九九七	四月	
前田博仁	「日向国における廻国僧―六十六部廻国を中心に―」 宮崎県地方史研究紀要第二十四輯 宮崎県立図書館 一九九七	七月	「雨乞い曼荼羅伝説を語る社会」 富士市立博物館報 平成八年度 富士市立博物館 一九九七、四
久保田和則	「九州地方における伊勢信仰の受容と展開(二) 皇學館大學神道研究紀要二三輯 一九九七	西本幸嗣	「融通念仏宗の『御回在』について」 巡礼研究会第十八回例会報告吹田市勤労者会館 一九九七、七、二六
一月		山田浩之	「大和の社寺参詣と案内記」 巡礼研究会第十九回例会報告吹田市勤労者会館
渡邊昭五	「平家物語観覧説話と大師伝説」 国学院雑誌九八の一	杉本 寿	「木地師史料三州津具山事件の君ヶ尺田側触書」 民俗文化四三〇号 滋賀民俗学会 一九九七、七
二月		根井 浄	「熊野三山の本願と比丘尼たち」 『説話―靈界としての山』 所収 説話伝承学会編輯林書房 一九九七、二
川崎利夫	「高野坊遺跡の中世文学資料が提起するもの」 郷土てんどう二五号 天童郷土研究会 一九九七、二	八月	「弘法大師の足跡をたずねて―四国八十八カ所の形成―」 週間朝日百科『日本の国宝』 朝日新聞社 一九九七、八
三月		遠藤龍地	『托鉢日記』 太陽学院出版 一九九七、九
高木俊輔	「農民日記資料論―「大黒日記(年内諸事日記帳)」 研究序説―」 史料館研究紀要第二八号 国文学研究資料館史料館 一九九七、三	行昭一郎	「勸進上人饅慶と詮海上人―慈雲の流れを汲む人びと―」 大源四七号 総本山大念仏寺 一九九七、九
幡鎌一弘	「近世寺院の脱呪術化と官僚主義について―興福寺学侶引付を一例に―」 仏教史学研究三九巻第二号 仏教史学会 一九九七、三	一〇月	
川田純之	「徘徊する浪人の実態とその社会」 栃木県立文書館紀要一	上野利夫	「道中日記に見る西国巡礼について」 一九九七、一〇、二六
内田啓一	「融通念仏縁起明徳版本の成立背景とその背景とその意図」 佛教藝術二三一号 毎日新聞社 一九九七、三	北川 央	「伊勢大神楽の成立」 巡礼研究会第二十一回例会報告 吹田市勤労者会館
有賀祥隆・高野修	「時宗文化財報告(岩手県) 時宗教学年報二五輯 時宗教学研究 一九九七、三	弦間耕一	「(速報) 天童市高野坊遺跡出土の墨書磔―一四世紀初頭の墨書磔・文学資料―」 考古学ジャーナル四一二号 一九九七、一一
			「明晴寺」 『玉穂町誌』 山梨県中巨摩郡玉穂町 一九九七、一一

一二月		一月	
日野西真定	「高野山で行う加行の壇場と奥院の巡拝」一九九七、二二、二二	根井 淨	「有馬・島原領における伊勢御師の活動」南嶽風土記六号 一九九八
一九九八年		松本 寧	「鞍馬蓋寺縁起」絵巻について」石橋義秀編「仏教文化とその周辺」和泉書院 一九九八
鈴木明子	「近世願人資料(二)」東洋大学大学院紀要三十四集 一九九八	山下隆章	「近世讃岐における被差別民史の研究」部落解放研究一二四号 一九九八
鳴海健太郎	「捨て身の旅路―漂泊文人・菅江真澄」『北の街』所収 一九九八	鈴木明子	「近世願人史料(一)」東洋大学大学院紀要三四集 一九九八
宮島潤子	「法明上人の遺跡と等順大僧正―善光寺大勸進回国関帳記より―」『法明上人六百五十回御遠忌記念論文集』所収 大念仏寺 一九九八	松本公一	「院政期の寺院巡礼記」国文学解釈と鑑賞六三卷一二 至文章 一九九八
金森敦子	『江戸の女俳詣師―奥の細道を行く』晶文出版社 一九九八	山本志乃	「安房の富士講と先達―ある大先達の手記を中心に―」常総の歴史二〇号 崙書房出版 一九九八、一
坂本敬司	「鳥取県東部の廻国供養塔リスト」鳥取県立博物館研究報告三五 一九九八	大江 篤	「律令国家と「巫覡」―王権の危機とへ厭魅をめぐって―」ヒストリア一五八号 一大阪歴史学会 一九九八
大戸安弘	『日本中世教育史の研究―遊歴傾向の展開―』木卒出版社 一九九八	林 淳	「陰陽道と方位」建築雑誌一一三―一四一七 一九九八、一
井上智勝	「近世村落官途成についての覚書」牛久市史研究七 一九九八	和田 勉	「芸能の民「ささら」について―伊勢国を中心に―」ふびと五〇 三重大学歴史研究会 一九九八、一
山本義孝	「民間陰陽師の村笠原院内」部落解放同盟静岡県連合会 一九九八	川元祥一	「門付芸と日本の文化」上方芸能一二八号 上方芸能編集部 一九九八、一
渡辺 和	「栃窪の私蔵木喰仏について―未発表木喰三体の紹介―」鹿沼史林三八号 一九九八	二月	
末満宗治	「下総四郡新四国八十八か所の展開とその特質」松戸史談三八号 一九九八	青山隆幸	「修験者のみた化政期の松本平の庶民生活―『日本九峰修行日記』を素材として―」信濃五〇巻二号 信濃史学会 一九九八、二
村上昭彦	「吉橋大師講の道標」史談二三号 一九九八	杉本 壽	「熊野大社と古代木地師の祖神熊野家木豫樟日命」民俗文化四一七号 滋賀民俗学会 一九九八、二

青木隆幸	「修験者のみた化政期の松本平の庶民生活―」信濃五〇巻 二号 信濃史学会 一九九八、二	小川信雄	「行旅病人取扱規則から行旅病人及行旅死亡人取扱法へ― 「小菅県伺」以後の「行倒れ」の取扱い―」千葉県史研 究六 千葉県 一九九八、三
三月		前田博仁	「日向国における廻国僧―六十六部廻国を中心として―」 宮崎県地方史研究第二十四輯 宮崎県立図書館 一九九八、 三
西岡陽子	「山伏の語る「地神経」―宮崎県高千穂町の盲僧祭文の翻 刻と解題」河南論集第四号所収 大阪芸術大学 一九九八、 三	渡邊昭五	「声聞師の中世文芸その他」大妻国文二九 大妻女子大学 国文学会 一九九八、三
小栗栢健治	「六十六部大願行列絵巻について」巡礼研究会第二十二 回例会報告 兵庫県立歴史博物館 一九九八、三、二九	山田 稔	「御国廻御行程記」その異本について―山口県文書館研 究所紀要二五 山口県文書館 一九九八、三
高木俊輔	「農民日記史料論二―「大黒屋日記（年内諸事日記帳）」 にみる地名・人名記事について―」史料館研究紀要第二 九号 国文学研究資料館史料館 一九九八、三	山下隆章	「高松藩における「乞食」の諸芸興行について」鳴門史学 一一号 鳴門史学会 一九九八、三
深澤秋人	「遍参僧に関する覚書」紀要二三 沖縄県教委・史料編纂 室 一九九八、三	四月	
宮田 登	「民俗宗教史の課題」史友三〇号 青山学院大学史学会 一九九八、三	加納克己	「鉢たたきと歌と浄瑠璃・狂言・俳句」人形劇史七・八合 併号 一九九八、四
津田豊彦	「知多の陰陽師」名古屋民俗叢書三『道教とその周辺窪徳 忠先生八十五の御祝い記念特集』所収 名古屋民俗研究 会 一九九八、三	加納克己	「どうのぼう考―鉢たたきの誇り人形」人形劇史七・八合 併号 一九九八、四
煙山英俊	「近世秋田を訪れた遊行上人」秋田県公文書館研究紀要四 秋田県公文書館 一九九八、三	村上紀夫	「常盤散所小考」芸能史研究一四一 芸能史研究会 一九 九八、四
福江 充	「足峠寺宿坊の廻檀配札活動とその収益の行方」富山日本 海文化研究所報 一九九八、三	高橋庄次	「良寛の出家事情Ⅰ 良寛の遁世と出家」春秋三九八 春 秋社 一九九八、四
佐藤一夫	「福山藩における被差別身分の一形態―茶筌身分について ―」人権と平和ふくくやま二 福山市人権平和資料館 一 九九八、三	融通念仏宗教学研究	『融通念仏中興の聖・法明上人―その信仰―』 同編 融通念仏宗総本山大念仏寺 一九九八、四
五月		五月	
白井永二	「菅江真澄と矢根森八幡宮縁起及びその周辺」伝統研究六 号 一九九八、三	金井清光	「近世の遊行について」日本史教育研究会東京支部例会報 告 清浄光寺 一九九八、五、一七
		伊藤唯真	「琉球念仏の祖」『知恩』六四八―六五一号 知恩院 一

六月	九九八、五〇八	六月	九九八、八
小野寺正人	「菅江真澄の故郷と生家」東北民俗三二輯 東北民俗の会 一九九八、六	杉本 壽	「寺川御談」の故地2」民俗文化四一八号 滋賀民俗学会 一九九八、八
坂本敬司	「新発見の六十六部巡礼札」一九九八、六、二八	樋口政市	『新しい巡礼歌』四国巡礼歌奉賛会 一九九八、八
佐藤晶子	「西宮夷願人と神事舞太夫の家職争論をめぐって」橋本政宜・山本信吉編『神主と神人の社会史』所収 思文閣出版 一九九八、六	渡辺昭五	「太平記語り手としての禪律僧」國學院雜誌九九一八 國學院大學広報部 一九九八、八
黒野こうき	『播隆上人の近況』東海の夜明け二十四号所収 東海考現社 一九九八、六	杉本 壽	「寺川御談」の故地3」民俗文化一九九 滋賀民俗学会 一九九八、八
岩田 勝	「神子と法者―近世前期における郷村祭祀の祭司層」『講座日本の伝承文学5 宗教伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九八、六	倉田正邦	「伊勢太神楽」本多安次自作集一六 日本の伝統芸能付録 錦正社 一九九八、三
大森恵子	「宗祖・高僧信仰―弘法大師行状絵詞」と稲荷信仰をめぐって―」『講座日本の伝承文学5 宗教伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九八、六	九月	
渡邊昭五	「阿弥陀信仰―選撰本願念仏集」を中心に―」『講座日本の伝承文学5 宗教伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九八、六	小野澤 眞	「遊行寺宝物館における特別展観」日本史教育研究一四三号 一九九八、九、二四
神戸市立博物館辺	『特別展 中世を旅する聖たち展―一遍上人と時宗―』神戸市スポーツ教育公社 一九九八、六	高島弘志	「北海道における湯殿山信仰についての覚書―大日坊 大網精吉の巡錫を中心として―」日本海地域史研究一四号 一九九八、九
杉本 壽	「寺川御談」の故地1」民俗文化四一七号 滋賀民俗学会 一九九八、六	杉本 壽	「若狭国小浜藩山と一ツ谷国有林」民俗文化四二〇号 滋賀民俗学会 一九九八、九
七月		知名定寛	「近世琉球における隠遁僧について」神女大史学一五 神戸女子大学 一九九八、九
小山正文	「西国順礼三十三所普陀洛伝記」の新出写本」同朋大学仏教文化研究所報十一 同朋大学仏教文化研究所 一九九八、七	田中久夫	「八百比丘尼のこと」神女大史学十五号 神戸女子大学 一九九八、九
		一〇月	
		堺市博物館編	『没一二五〇年記念特別展行基―生涯・事跡と菩薩信仰―』堺市博物館 一九九八、一〇
		吉田靖雄	「行基の生涯と事跡」堺市博物館編『没一二五〇年記念特別展行基―生涯・事跡と菩薩信仰―』堺市博物館 一九九八、一

- 九九八、一〇
- 岡本桂典 「『土佐裏門地蔵堂の鰐口と四国八十八ヶ所』『考古学論叢』中巻 吉川弘文館 一九九八、一〇
- 吉田伸之 「講中と民衆世界」年報都市史研究六「宗教と都市」所収 山川出版社 一九九八、一〇
- 西岡寿美子 『四国おんな遍路記』新人物往来社 一九九八、一〇
- 杉本 壽 「参州北設楽郡津具郷事件における白川神祇伯殿の役割」民俗文化四二一号 滋賀民俗学会 一九九八、一〇
- 融通念仏宗教学研究 所 「法明上人六五十回忌御遠忌記念論文集」同編
- 梅谷繁樹 「融通念仏総本山大念仏寺・百華苑 一九九八、一〇
- 戸田孝重 「融通念仏宗と時宗―各種側面の比較―」融通念仏宗研究所 一九九八、一〇
- 行昭一郎 「法明上人伝の研究」横田兼章との共同執筆 融通念仏宗教学研究 所 一九九八、一〇
- 横田兼章 「法明上人の研究（戸田孝重との共同執筆） 融通念仏宗学研究 所 一九九八、一〇
- 吉田智之 「融通念仏宗の教義」融通念仏宗教学研究 所 一九九八、一〇
- 保立道久 『物語の中世―神話・説話・民話の歴史学―』東京大学出版会 一九九八、一一
- 木下光生 「近世大坂における墓所聖と葬道・諸死体処理」日本史研究四三三五号 日本史研究会 一九九八、一一
- 新谷尚紀 『死・墓・霊の信仰民俗史』（財）歴史民俗博物館振興会 一九九八、一一
- ロビン・B・スクリブニック 「私と融通念仏縁起」新修・日本絵巻物全集別巻Ⅰ「在外編」月報 角川書店 一九九八、一一
- 杉本 壽 「安養寺山城小辰越前守の事Ⅰ」民俗文化四二二号 滋賀民俗学会 一九九八、一一
- 長谷川賢二 「中世後期における山伏集団の地域的展開―阿波国吉野川流域の場合―」大阪大学文学部日本史研究室編『古代中世の社会と国家』所収 清文堂出版 一九九八、一二
- 原田正俊 『日本中世の禅宗と社会』吉川弘文館 一九九八、一二
- 牛山佳幸 「善光寺と「修験」文化史信濃二五卷三三号 長野県文化財保護協会 一九九八、一二
- 喜代吉榮徳 「四国遍路順拝の種々相」普通寺教学研究振興会紀要五号 一九九八、一二
- 内田啓一 「融通念仏縁起明徳版本の版画史的考察―大念仏寺を中心に―」日本美術集稿佐々木剛三先生古希記念論文集 一九九八、一二
- 松尾剛次 「中世の都市と非人」法蔵館 一九九八、一二
- 鈴木明子 「近世願人資料（二）」東洋大学大学院紀要三十五集 一九九八、一一
- 井原今朝男 『中世のいくさ・祭り・外国との交わり―農村生活の断面』校倉書房 一九九八、一一
- 横田正吾 『あが父母の国吉田菅江真澄』自家版 一九九八、一一
- 阿部 昭 『江戸のアウトロー』講談社 一九九八、一一
- CERALO GROEMER 「The arts of the Gannin」asian folklore studies volume111-2 南山大学 一九九八、一一

上野勝己	「葉室組の成立と初期葉室組三十三度行者」『太子町立竹内街道』歴史資料館報五 一九九九	浅野祥子	「絵島事件に関する考察―祐天上人関与の噂をめぐって―」季刊ぐんしょ四六号 続群書類従完成会 一九九九
安城市歴史博物館	『東海の木喰仏―二百年の微笑の魅力』展示図録 一九九九	一月	
岐阜県編	『魂の形を求めつけた旅人円空』一九九九	佐藤和彦	「旅と救済の日々―『一遍聖絵』を読む―」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
佐々木剛三	『神道曼荼羅の図像学―神から人へ―』ぺりかん社 一九九九	松岡心平	「踊り念仏の興行師」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
堤邦彦	『近世説話と禅僧』和泉書院 一九九九	伊藤博明	「一遍と夢告」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
メタカンパニー	『瞽女うた―長岡瞽女編』一九九九	脇田晴子	「一遍聖絵・遊行上人縁起絵と被差別民」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
田代孝	「近世六十六部の廻国納経―新井得参の納経帳―」甲斐路九五号 山梨郷土研究会 一九九九	兵藤裕己	「琵琶法師・市・時衆―当道(座)の形成をめぐって―」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
林 淳	「土御門家配下の知多の陰陽師と出稼ぎ・方歳」『人間文化』一四号 一九九九	西垣晴次	「伊勢神宮と一遍・真教」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
神田由築	『近世の芸能興行と地域社会』東京大学出版会 一九九九	松井吉昭	「『一遍聖絵』に見る神社参詣の諸相」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
辻 ミチ子	『転生の都市・京都 民家の社会と生活』阿吽社 一九九九	小野一之	「国府をめざす他阿真教―中世都市と時衆―」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
末満宗治	「下総四郡新四国八十八か所の展開とその特質」松戸史談三九号 一九九九	長島尚道	「一遍の舍利」武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く―動きだす静止画像―』所収 吉川弘文館 一九九九、一
村上昭彦	「石造物が語る吉橋大師講の変遷」史談八千代二四号 一九九九		
村上昭彦	「続・石造物が語る吉橋大師講の変遷」史談八千代二四号 一九九九		
浜近仁史	「ケガレ意識と差別の歴史(香川県の一近世資料から)」しこく部落史一 一九九九		
西川阿羅漢	『歩く四国遍路千二百キロ』現代書館 一九九九		
山本義孝	「遠江国十一院内の比定」静岡県博物館協会研究紀要二二二号 静岡県博物館協会 一九九九		
高山秀嗣	「法然の伝導についての一考察」龍谷大学大学院紀要研究紀要―人文科学二二号 一九九九		

喜代吉榮徳	「中務茂兵衛の道標」小松史談一二五号 小松町温芳図書館内 一九九九、一		
高山秀嗣	「一遍上人と蓮如上人における伝道の比較研究」龍谷大学大学院紀要研究—人文科学二〇集 龍谷大学大学院研究紀要編集委員会 一九九九、一	西垣晴次	郷土博物館紀要九号 大田区立博物館 一九九九、三、二五 「大河戸・葛西御厨と伊勢信仰」八潮市史研究七号 八潮市立資料館 一九九九、三
二月		小山靖憲	「日本の巡礼と熊野古道」『熊野学シンポジウムV《巡礼と熊野詣》報告書』所収 和歌山県 一九九九、三
田中久夫	『祖先祭祀の展開—日本民俗学の課題—』清文堂 一九九九、二	パネル・デイスカッション 「世界の巡礼と熊野詣」那智勝浦町体育文化会館 一九九九、三、六	
千本英史	「無能の『近代奥羽念仏験記』と『補忘記』」福田晃編『唱導文学研究第二集』所収 三弥井書店 一九九九、二	鈴木利章	「西欧の巡礼とサンティアゴへの道」『熊野学シンポジウムV《巡礼と熊野詣》報告書』所収 和歌山県 一九九九、三
池上良正	『民間の巫女信仰の研究—宗教学の視点から—』未来社 一九九九、二	小嶋博巳	「巡礼の諸形態と熊野」『熊野学シンポジウムV《巡礼と熊野詣》報告書』所収 和歌山県 一九九九、三
堤 邦彦	『近世説話と禪僧』和泉書店 一九九九、二	田中智彦	「近世の道中日記にみる西国巡礼の実態」『熊野学シンポジウムV《巡礼と熊野詣》報告書』所収 和歌山県 一九九九、三
田中久夫	『祖先祭祀祭祀の展開—日本民俗学の課題—』清文堂出版 一九九九、二	前田博仁	「日向国における庶民信仰—伊勢参宮の事例」宮崎県史研究一三三号 一九九九、三
三月		関口 健	「下沢中坪星野茂夫家蔵六十六部関係資料について」かぬま歴史と文化四号 鹿沼市史編さん室 一九九九、三
長沢詠子	「菅江真澄の随筆 花の真寒泉」『水のフィールド東海民具学会研究報告』所収 東海民具学会 一九九九、三	藤沢靖介	「民間宗教者・芸能民・「賤民」—舞々二神事舞太夫と民間宗教者統制の研究から」解放研究明石を拓く一二号 一九九九、三
西田かほる	「西園寺家の妙音天信仰について」学習院大学資料館紀要第十号所収 学習院大学資料館 一九九九、三	山村雅史	「中世奈良と山水河原者」史料センター事業ニュース五号 奈良県立同和問題関係史料センター 一九九九、三
福岡留太郎	「菅江真澄の人間像を追って(5) —」史友十七号所収 合川地方史研究会 一九九九、三	山村雅史	「中世奈良における河原者の—様相—」『坂の機多』を題材として—」奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要六号 一九九九、三
上野勝巳	「葉室組の成立と初期葉室組三十三度行者」太子町立竹内街道歴史資料館報五 一九九九、三	中川みゆき	「座頭祝銭に関する研究ノート—座頭と寺院の争論—」
田中高之	「宗教の変遷と四国霊場の信仰」史談いばら二六号 井原史説会 一九九九、三		
櫻井邦夫	「近世の道中日記にみる手荷物の時預けと運搬」大田区立		

奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要六号 一九九九、三	川嶋将生 「移行期における河原者の動向―十六世紀後半から―十七世紀前半にかけて―」世界人権問題研究センター『研究紀要』四一九九九、三
藤田和義 「研究ノート中世奈良における「鏡槌聖」奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要六号 一九九九、三」 「神事舞太夫斎藤家と稲荷社」『開成町史通史編』所収 神奈川県足柄上郡開成町 一九九九、三	神田由築 「近世大坂の浄瑠璃渡世集団―天保期から幕末にかけて―」『東京大学研究紀要』三 東京大学日本史学研究室 一九九九、三
柴田 純 「近世の旅行旅難済者救済システムについて」宮津市史編さんだより一五号 宮津市教育委員会市史編さん 一九九九、三	左右田昌幸 「ほうらい(蓬莱・宝来)「考」世界人権問題研究センター『研究紀要』四 一九九九、三」 「京師五三昧」再考』『桃山歴史・地理』三四号 一九九九、三
吉田昌彦 「久留米藩「浪人」制度に関する基礎的考察」九州文化研究史紀要四二・四三 一九九九、三	土居 浩 「中世奈良における河原者の―様相―」『坂の穢多』を題材として―」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』六号 一九九九、三
鬼頭秀明 「木偶師・住田仁兵衛を探る―半田市立博物館所蔵引札をめぐって―」研究紀要二〇号 半田市立博物館 一九九九、三	山本雅史 「御師と富士講―吉田御師小瓶子屋を例に―」富士吉田市史研究一四号 富士吉田市史編纂室 一九九九、三
藤田定興 「近世南奥における日課念仏による信者を中心として―」福島県歴史資料館研究紀要二二号 福島県文化センター 一九九九、三	堀内 真 「相絵村落の「内」と「外」―上総国殖生郡立木村高橋家の「御用留」を素材として―」千葉県史研究第七号別冊 一九九九、三
野本寛一 「本地師終焉記」民俗文化一一号 近畿大学民俗研究所 一九九九、三	久留島 浩 「近世の廻国納経帳」ノートルダム清心女子大学生活文化研究所所収第十二輯 ノートルダム清心女子大学生活文化研究所 一九九九、三
金井達雄 「研究ノート 関所法令の変遷と諸問題―出女法令を中心として―」博物館研究紀要第六号 葛飾区郷土天文の博物館 一九九九、三	小島博巳 「三信遠地域修正会の芸能構成と伝播」芸能科学二七号 一九九九、三
林 淳 「相模国の舞太夫集団の展開」愛知学院大学文学部紀要二八号 一九九九、三	中村茂子 「融通念仏宗史の研究―中祖法明上人伝をめぐって―」宗教学研究三二九号 一九九九、三
金井清光 「近世遊行の研究について」時宗教学年報二七 時宗教学研究所 一九九九、三	大月市郷土資料館『特別展木喰白道展』図録 大月市郷土資料館 一九九九、三
阿部 昭 『江戸のアウトロー―無宿と博徒』講談社 一九九九、三	戸田孝重 「融通念仏宗史の研究―中祖法明上人伝をめぐって―」宗教学研究三二九号 一九九九、三

- 山野良子 「法明上人史伝の研究―法明寺の石塔ならびに遺蹟」大阪
春秋九四号 一九九九、三
- 渡辺昭五 「芸能と芸能者」天野文雄・須田悦生・渡辺昭五編『講座
日本の伝承文学6 芸能伝承の世界』所収 三弥井書店
一九九九、三
- 徳田和夫 「絵画と唱導芸能―和泉式部の熊野詣で説話をめぐって
―」『講座日本の伝承文学6 芸能伝承の世界』所収
三弥井書店 一九九九、三
- 山路興造 「『田楽踊』の芸能『講座日本の伝承文学6 芸能伝承の
世界』所収 三弥井書店 一九九九、三
- 大森恵子 「信仰のなかの芸能―踊念仏と風流」『講座日本の伝
承文学6 芸能伝承の世界』所収 三弥井書店
一九九九、三
- 有賀祥隆・高野修 「時宗文化財調査報告」時宗教学年報二七輯 時宗
教学研究所 一九九九、三
- 四月
- 宮島潤子 「『彈誓上人絵詞伝』―塔の峰阿弥陀寺本を中心として
―」むしくら文流会ニュースレター
一九九九、四
- 柳沢光恵 「小川村の木食仏―山居仏を中心として―」むしくら二七
号 むしくら文流会ニュースレター 一九九九、四
- 鈴木昭英 「信州の論文 宮島潤子著 「大日信仰・阿弥陀信仰・薬
師信仰」むしくら二七号 むしくら文流会ニュースレ
ター 一九九九、四
- 神崎寿弘 「供奉帳にみる御回在」巡礼研究会第二十六回例会報告
大神神社大札記念館会館本館 一九九九、四、二五
- 岩井宏實 『イラストで見る人の旅、物の旅心の旅・人と物の旅百科
』
- 栗田美由紀 「I、御利益をねがって」河出書房所収 一九九九、四
「猪名川町の木食仏―調査概報―」文化財予報一七輯
奈良大学文化財学科 一九九九、四
- 萩野裕子 「富士山南口案内絵図―村山修験者と南麓富士登山
―」平成十年度富士市立博物館編 富士市立博物館
一九九九、四
- 五月
- 福岡九太郎 「菅江真澄と鷹巣地方(4)―羽州街道の旅(1)―鷹巣
地方史研究四十四号所収 鷹巣地方史研究会
- 渡辺一弘 「南九州のシャーマニズム」下野敏見編『民俗宗教と生
活伝承―南日本フォークロア論集』所収 岩田書院
一九九九、五
- 溝辺浩司 「南九州の修験道―金峰山と地域社会―」前掲同
一九九九、五
- 田口昌樹 「ひなのひとふし」秋田ほんこの会 一九九九、五
- 大澤 廣 「近世の旅―大和巡り」長野二〇五号 一九九九、五 長
野郷土史研究会
- 西海賢二 「東海道すじの練り歩き―小田原周辺を中心にして―」コ
ロス七七号 常民文化研究会 一九九九、五
- 安城市歴史博物館編 『東海の木喰仏―二百年の微笑の魅力―』一九九九、
五 安城市歴史博物館
- 塩山市中央公民館歴史民俗資料室 『第48回企画展 廻国の僧木喰白道
の足跡を訪ねて』塩山市教育委員会 一九九九、五
- 伊藤正敏 『中世の寺社勢力と境内都市』吉川弘文館 一九九九、五
- 蒲池勢至 「杖にあらわれたヒジリ性」『親鸞がわかる』朝日新聞社
一九九九、五
- 六月

田口充志	「総会記念講演参加記雑感」神奈川地域史研究会会報 五十五号 神奈川地域史研究会 一九九九、六、三〇	民俗文化四二九号 一九九九、六 滋賀民俗学会
佐藤晶子	「『西宮神社社用日記』について」悠久七十七号 (株)お うふう 一九九九、六、一五	神田由樂 『近世の芸能興行と地域社会』東京大学出版会 一九九九、六
奥村隆彦	「『六十六部満願成就行列絵巻』について」宗教民俗研究 九号	七月
喜代吉榮徳	『へんろ人列伝―行基菩薩より中司茂兵衛まで』海王舎 一九九九、六、一五	長曾我部光義 「井崎甚吉廻国のこと」二百年めの再会―染屋金六氏に 会う―石に聴く三十八号 「石が語るふるさと」研究 会 一九九九、七
西川寿勝	「大阪府の発掘調査から(3) 遍歴の鏡工人」大阪春秋 九五号 一九九九、六	めぐみ新聞五一号 「四十年心にあつた木喰仏上人に支えられた油絵 個展」―木喰展を催した石井清嗣さん―上 群馬県渋 川市明保野四四一八 社会福祉・恵の国 一九九九、七
野村文字	「広瀬浩二郎著『障害者の宗教民俗学』書評」宗教と社 会第五号所収 宗教と社会学会 一九九九、六	小河 久 「捨身三部小説・木喰上人最後の旅(3)」めぐみ新聞 五一号 一九九九、七
長曾我部光義	「鹿児島県隼人町湯田荒瀬の延国塔」石に聴く三十七号	浜田全集 「遠州大念仏の考察」日本文化史研究三〇号
鈴木明子	「半田稲荷社の略縁起と願人坊主」宗教民俗研究九号	林 淳 「西尾市の森下方歳について」愛知県史民俗調査報告書二 「西尾・佐久島」一九九九、七
北川 央	「伊勢太神楽の展開―檀那場の形成をめぐって―」宗教民 俗研究九号 日本宗教民俗学研究会 一九九九、六	小栗栖健治 「江戸時代の六十六部について」『兵庫県立歴史博物館特 別展狩野永納』図録所収 一九九九、七、一七
北川 央	「旅する舞人・伊勢太神楽 現代に生きる『奇跡』の遊行 宗教者たち」宗教と現代 一五―四・五	伊東久之 「矢作川の竹筏とその終焉」『愛知県史民俗調査報告書2 西尾・佐久島』所収 愛知県総務部 一九九九、七
小野寺正人	「旧仙台藩領におけるカマ神の成立」東北民俗第三三輯 一九九九、六	小嶋博巳 「六十六部日本廻国について」岡山民俗学会例会報告 一九九九、七、一七
北川 央	「伊勢太神楽の展開―檀那場の形成をめぐって―」宗教民 俗研究九号 宗教民俗研究会 一九九九、六	宮島潤子 「弾誓上人絵詞伝」―塔の峰阿弥陀寺本を中心として(2) ―むしくら二八号 むしくら交流会ニュースレター 一九九九、七
小嶋博巳	「日本廻国の旅と信仰」浅草寺仏教文化講座五二三回 一九九九、六、二五	宮島潤子 「山居上人作の小仏(こぼとけ)と西善寺の神仏御影入大 数珠(1)」むしくら二八号 むしくら交流会ニュース レター 一九九九、七
杉本 寿	「木地師史料越前国大野郡旧伊勢村の伊勢宮由来(後)」	

- 小野富雄 「四国霊場八十八ヶ所遍路」新居浜史談二八七号 新居浜郷土史談会 一九九九、七
- 水藤 真 『歴博甲本洛中洛外図屏風を読む』(財)歴史民俗博物館振興会 一九九九、七
- 胡桃澤勘司 「憂い旅から楽しむ旅へ」児玉幸多編『日本史小百科 宿場』所収 東京堂出版 一九九九、七
- 胡桃澤勘司 「信仰の旅を守り続けた者達」児玉幸多編『日本史小百科 宿場』所収 東京堂出版 一九九九、七
- 柳田和久 「徘徊した無宿・浮浪の遊民」児玉幸多編『日本史小百科 宿場』所収 東京堂出版 一九九九、七
- 三好昭一郎 「徳島藩の駅路寺と四国遍路宿」児玉幸多編『日本史小百科 宿場』所収 東京堂出版 一九九九、七
- 八月
- 原 淳一郎 「江戸庶民の寺社参詣―相模国大山参詣を中心として」地方史研究二八〇号 所収 地方史研究協議会 一九九九、八
- 豊橋市美術博物館 『菅江真澄展』図録 一九九九、八、三一
- 水藤 真 「一遍と縄文系漂泊民」大法輪六六巻八号 大法輪閣 一九九九、八
- 錦 仁 「佐渡の流人―順徳院・冷泉為兼・世阿弥など・中世文学の始発へ遡る―」国文学解釈と鑑賞八一九号 至文堂 一九九九、八
- 榎本千賀 「佐渡と熊野比丘尼」国文学解釈と鑑賞八一九号 至文堂 一九九九、八
- 田中圭一 「近世鉢山町の寺とやしろ」国文学解釈と鑑賞八一九号 至文堂 一九九九、八
- 白木悦生 「佐渡と遊行上人」国文学解釈と鑑賞八一九号 至文堂
- 山田奈菜恵 「近世民間信仰と宗教者」日本民俗学二一九号 日本民俗学会 一九九九、八
- 村上紀夫 「墓所狐塚とオンボウ―本願寺文書から」『本願寺史料研究 究所報23』 一九九九、八
- 遠藤龍地 「托鉢日記第二集」宗教法人大師山隆葉寺 一九九九、八
- 新野道吉 「北行した菅江真澄と」その学問『菅江真澄展』図録 一九九九、八、三一
- 横田正吾 「菅江真澄について」『菅江真澄展』図録 一九九九、八、三一
- 田口真樹 「菅江真澄の見た秋田の民俗」『菅江真澄展』図録 一九九九、八、三一
- 九月
- 木下睦美 「菅江真澄その後の信濃路―「菅江真澄と飯田」の続編」伊那八五六号第四十七巻九号 伊那史学会 一九九九、九
- 大原千和喜 「秋葉道に寄せる人々の心―宿帳を通してみた、あきはみち(一)―」伊那八五六号 第四十七巻九号所収 伊那史学会 一九九九、九
- 青柳周一 「人の移動と地域社会史・試論―参詣旅行史の視点から」関東近世史九月度月例会報告 報告於早稲田大 一九九九、九、二五
- 大阪市立美術館 『役行者と修験道の世界―山岳信仰の秘宝―』役行者神変大菩薩一三〇〇年遠忌記念特別展覧会図録 毎日新聞社 一九九九、九、一〇
- 西川新次 「役行者像から見た修験の世界」役行者神変大菩薩一三〇〇年遠忌記念特別展覧会図録 毎日新聞社

宮家 準	一九九九、九、一〇 「修験道の歴史と役行者」役行者神変大菩薩一三〇〇年遠 忌記念特別展覧会図録 毎日新聞社 一九九九、九、一〇	加古川総合文化センター 『特別展絵馬と旅の信仰―社寺に遺る資料か ら―』一九九九、九、二五 加古川総合文化センター
宮城泰年	「葛城の修験とその遺品」役行者神変大菩薩一三〇〇年遠 忌記念特別展覧会図録 毎日新聞社 一九九九、九、一〇	小林一好 「信濃三十三ヶ所巡礼(1)」群馬歴史散歩一五六号 群 馬歴史散歩の会 一九九九、九
首藤善樹	「金峯山上下山と大峯」役行者神変大菩薩一三〇〇年遠 忌記念特別展覧会図録 毎日新聞社 一九九九、九、一〇	木下陸美 「菅真澄その後の信濃路―「菅真澄と飯田」の続編― 伊那八五六号 伊那史学会 一九九九、九
塩沢裕一	「中世後期における鎌倉街道周辺の宿と地域社会」歴史地 理一九五号 歴史地理学会 一九九九、九	杉本 寿 「木地師史料湯布院と栲木栽培―大分県湯布院町―」民俗 文化四三二号 滋賀民俗学会 一九九九、九
胡桃沢友男	「真澄遊覧記信濃の部」の刊行をめぐって」長野県民俗 の会会報二二号 長野県民俗の会 一九九九、九	喜代吉榮徳 「誌上講座遍路学事始め」新居浜史談二八九号 新居浜郷 土史談会 一九九九、九
林 淳	「土御門家配下の知多の陰陽師と出稼ぎ万歳」愛知学院大 学人間文化研究所紀要第一四号 一九九九、九	鈴木景二 「熊野詣と熊野古道」和歌山地方史研究三七号 一九九九、九
長曾我部光義	「六十六部に身をやつし尋方の旅」は甚吉だけではなかつ た」石に聞く三九号 一九九九、九、二〇	山本殖生 「熊野比丘尼曼荼羅」を解く」和歌山地方史研究三七号 一九九九、九
宮島潤子	「信州善光寺三国一如来茶湯供養碑」日本の石仏九一号 一九九九、九 日本石仏協会	高橋 修 「和歌山県立博物館蔵「熊野権現縁起絵巻」について」 和歌山地方史研究三七号一九九九、九
佐藤晶子	「浅草寺ばなし」《三十三》西宮神社江戸支配所と浅草市」 浅草寺四七三号 一九九九、九、一 浅草寺教化部	村松仙太郎 「聖円空とその神仏習合芸術」明星大学・研究紀要(人文 学部)第三五号 一九九九、九
伊藤辰典	「仙台藩における本山派修験の組織について」文化第六三 巻第一号 香芝市二上山博物館編 一九九九、九、二四	林 淳 「土御門家配下の知多の陰陽師と出稼ぎ―万歳―人間文化 一四号 愛知学院大学人間文化研究所 一九九九、九
安城市歴史博物館	「東海の木喰仏―二百年の微笑の魅力―」展示目録 一九九九	西岡陽子 「首僧と瞽女」南海日日新聞 一九九九、九
岐阜県編	「魂の形を求めつづけた旅人円空」一九九九	西岡陽子 「修験と巫女」平成十一年度巫現盲僧学会公開シンポジウ ム『巫と現の職能』報告 奄美博物館 一九九九、九
小野澤 眞	「将門首塚から浅草日輪寺へ―民衆の信仰とその包摂―」	徳田和夫 「東日本の在地伝承―室町後期の『鼠の草子絵巻』にみる

- 東国文化」『講座日本の伝承文学第7巻 在地伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九九、九
- 小林幸夫 「大蛇の裔・山村將軍―鈴鹿山立烏帽子伝承と巫覡―」『講座日本の伝承文学第7巻 在地伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九九、九
- 西澤美仁 「東国の西行伝承」『講座日本の伝承文学第7巻 在地伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九九、九
- 川島秀一 「東北の山伏祭文」『講座日本の伝承文学第7巻 在地伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九九、九
- 岩瀬 博 「越後の瞽女」『講座日本の伝承文学第7巻 在地伝承の世界』所収 三弥井書店 一九九九、九
- 小野澤眞 「一遍遊行における念仏札の問題」日本宗教学会第五八回学術大会報告 南山大学 一九九九、九
- 一〇月
- 古賀克彦 「融通念仏宗と念仏系他宗との交流史を巡って」地方史研究協議会第五十回大会自由論題報告 於サンスクエア堺 一九九九、一〇
- 小野澤眞 「港湾と都市に展開する念仏僧たち―中世大阪湾岸における四条道場系時衆―」地方史研究協議会第五十回共通論題報告 於サンスクエア堺 一九九九、一〇
- 初山智美 「近代における知多新四国巡礼の盛況」日本福祉大学知多半島総合研究所編『知多半島の歴史と現在10』校倉書房 一九九九、一〇
- 三輪修三 「川崎大師信仰の展開」地方史研究協議会編『都市・近郊の信仰と遊山、観光―交流と変容―』所収 雄山閣出版 一九九九、一〇
- 鳥居和郎 「戦国時代における参詣活動について―相・甲間の政治的状況との関連から―」地方史研究協議会編『都市・近郊の信仰と遊山、観光―交流と変容―』所収 雄山閣出版 一九九九、一〇
- 西海賢二 「村々を訪ねる宗教的職能者たち―小田原藩領を中心にして―」地方史研究協議会編『都市・近郊の信仰と遊山、観光―交流と変容―』所収 雄山閣出版 一九九九、一〇
- 大和田公一 「道中記類資料に見る近世箱根の遊覧について―温泉観光地箱根の認識―」地方史研究協議会編『都市・近郊の信仰と遊山、観光―交流と変容―』所収 雄山閣出版 一九九九、一〇
- 大阪狭山市立郷土資料館 『特別展高野街道と狭山』一九九九、一〇
- 笹森建英 「巫覡と音・音楽―津軽地方のイタコ・ゴミソ・ヨリ―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇
- 福田 晃 「イタコ祭文「岩木山一代記」の生成」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇
- 川島秀一 「巫女が語るオシラサマ由来譚―岩手・宮城のオシラサマの伝承―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇
- 西海賢二 「訪れる宗教者たち―生き仏と生き神さまを求めて―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇
- 真下 厚 「神役・巫者と神話―沖繩宮古諸島から―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇
- 加藤 貴 「江戸近郊名所への誘い」加藤貴編『大江戸歴史の風景』

外山 徹	所収 山川出版社 一九九九、一〇 「江戸周辺の霊山と寺社信仰」加藤貴編『大江戸歴史の風景』所収 山川出版社 一九九九、一〇	加藤 貴	学編集二四号 御影史学研究会 一九九九、一〇 「江戸近郊明所への誘い」加藤貴編『大江戸歴史の風景』所収 山川出版社 一九九九、一〇
荒木博之	「盲僧の始原」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、二〇 「吉野宮の盲僧伝承―宮崎県東臼村郡諸塚村―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	八尾市立歴史民俗資料館	『平成11年度特別展融通念仏行者薬山上人と幕末の八尾』一九九九、一〇
山口保明	「肥前盲僧と笑話」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	久保田展弘	「役行者と日本宗教一千三百年遺跡特別展」の意味」大法輪六六卷一〇号 大法輪閣 一九九九、一〇
宮地武彦	「盲僧の漢字表記の「釈文」について」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	安斎信人	「近世後期における「改革組合村」制について―「組合村」の設置と警吏「道案内」の社会的役割― 関東近世史研究会大会報告 一九九九、一〇、三一
高松敬吉	「明治期の肥後琵琶改良」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	中村茂子	「三信遠地域修正会の芸能構成と伝播」芸能史研究一四七号 芸能史研究会 一九九九、一〇
安田宗生	「山口県地神盲僧ききがき―竜玉山と盲僧―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	奥村隆彦	「六十六部満願成就行列絵巻」についての一考察」近畿民俗一五五号 近畿民俗学会 一九九九、一〇
伊藤芳枝	「周防伊陸の小南寺盲僧史料について」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	宮島潤子	「弾誓上人絵詞伝」―塔の峰阿弥陀寺本を中心として― 一九九九、一〇
金谷匡人	「盲僧研究の意義と可能性―視覚障害者の立場から―」福田晃、荒木博之編『巫覡盲僧の伝承世界第一集』所収 三弥井書店 一九九九、一〇	松原久男	「関・善光寺と等順大僧正」むしくらニュースレター三〇号 むしくら交流会 一九九九、一〇
広瀬浩二郎	「江戸時代の「日記」を読む」茨城民俗学会会報二五号	田口昌樹	「菅江真澄の旅」―車北学のために―東北学VOL.一 東北芸術工科大学東北文化研究センター 一九九九、一〇
榎本 実	「山岳修験宗への道―平安末期の禪定と山林料敷」御影史	野口武彦	『江戸のヨブーわれらが同時代・幕末』中央公論社 一九九九、一〇
田中久夫	「山岳修験宗への道―平安末期の禪定と山林料敷」御影史	杉本 寿	「木地師の定着過程」民俗文化四三三三号 滋賀県民俗学会 一九九九、一〇
		石井 修	「地域民衆と寺院」地方史研究協議会編『都市・近郊の

- 信仰と遊山・観光―交流と変容』所収 雄山閣出版
一九九九、一〇
- 鳥居和郎
「戦国時代における参詣活動について」地方史研究協議会
編『都市・近郊の信仰と遊山・観光―交流と変容』所収
雄山閣出版 一九九九、一〇
- 小林幸夫
「願人坊の話芸―化け物寺の昔話」伝承文学研究四九号
伝承文学研究会 一九九九、一〇
- 中村茂子
「三信遠地域修正会の芸能と伝播」芸能史研究一四七号
芸能史研究会
- 牛山佳幸
「『善光寺縁起』の発展と諸類型」第三十二回日本古文書
学会口頭初表
- 一月
- 網野善彦
「系譜・伝承資料学の課題」古文書研究第五〇号 月本古
文書学会 一九九九、一一
- 渡辺和敏
「元和元年発行の関所手形をめぐって」近世関所フォーラ
ム新居報告 新居町民センター 一九九九、一一、三
- 永松 敦
「山人と来訪神」民具マンスリー三三巻八号 神奈川大学
日本常民文化研究所 一九九九、一一、一〇
- 厚木市郷土資料館 『第二回特別展出開帳聖地と人との結縁システム』
厚木市郷土資料館 一九九九、一一、三
- 大越良裕
「戦国後期伊達氏と修験者」第二〇回日本山岳修験学会国
東大会報告 大分県立歴史博物館議堂 一九九九、一一、
一四
- 時枝 務
「里修験と霊信仰―近世上野国の事例―」第二〇回日本
山岳修験学会国東大会報告 大分県立歴史博物館議堂
一九九九、一一、一四
- 中山和久
「お接待再考―大分県のオセツタイ行事を中心に―」第
二〇回日本山岳修験学会国東大会報告 大分県立歴史博
物館議堂 一九九九、一一、一四
- 田中純子
「北陸時衆について」日本宗教文化史学会第三回大会口頭
発表 京都府立大学 一九九九、一一、二七
- 井上隆弘
「祭祀の構造と祭祀者―長野県天龍村坂部を中心として―」
民俗芸能研究二九号 民俗芸能学会 一九九九、一一
- 長曾我部光義
「六十六部と廻国塔と現場」みやざき民俗五三号 宮崎民
俗学会 一九九九、一一
- 河野 弘
「六十六部廻国塔」茨城の民俗三八号 茨城民俗学会
一九九九、一一
- 小林幸夫
「願人坊の話芸―(化け物寺)の昔話―」伝承文学研究
四九号 伝承文学研究会 一九九九、一一
- 澤 博勝
『近世の宗教組織と地域社会―教団信仰と民間信仰―』
吉川弘文館 一九九九、一一
- 佐々木剛三
『神道曼荼羅の図像学―神から人へ―』ぺりかん社
一九九九、一一
- 日野原正
「本邦初演の薩摩琵琶弾き語りによる道鏡禪師物語」道鏡
を守る会二二号 一九九九、一一
- 小島 勲
「徳本上人の足立での足跡から」足立史談三八一号 足
立区教育委員会足立史談編集局 一九九九、一一
- 平山元也
「目黒にあった瞽女宿と瞽女唄講演」目黒郷土研究五三八
号 目黒区郷土研究会 一九九九、一一
- 池田勇次
「飛弾と円空覚書(21)」飛弾春秋四六六号 飛弾郷土学
会 一九九九、一一
- 赤羽二三男
「瞽女宿」伊那八五八号 伊那史学会 一九九九、一一
- 田代 孝
「近世の六十六部の廻国納経―新井得参の納経帳―」甲斐
路九五号 山梨郷土研究会 一九九九、一一

鈴木景二	「熊野詣と熊野古道」和歌山地方史研究三七 和歌山地方史研究会 一九九九、一一	西本照真	説話会「木食行道」大倉山記念館ホール 大藏精神文化研究所 一九九九、一一
山本殖生	「熊野比丘尼曼荼羅を解く」和歌山地方史研究三七 和歌山地方史研究会 一九九九、一一	小椋 博	「成田山新勝寺の江戸出開帳について」法談四四号 成田山新勝寺法談会 一九九九、一二
林 淳	「相模国の舞太夫集団の展開」愛知学院大学文学部紀要 二八 愛知学院大学文学部 一九九九、一一	二〇〇〇年	
新行和子	「ぼう大な紀行文随筆を遺した菅江真澄」『江戸時代人づくり風土記23愛知』農山村文化協会 一九九九、一一	今井雅晴	『一遍と中世の時衆』大蔵出版 二〇〇〇
飯村富美子	「茨城県の齋行屋と念仏衆」茨城民俗学会一〇五回談話会報告 茨城民俗学会 一九九九、一一、二八	鯨井千佐登	『境界紀行―近世日本の生活文化と権力―』勁草書房 二〇〇〇
土居 浩	「京師五三味」再考』『桃山歴史・地理』三四号 一九九九、一一	田中圭一	「島の木食上人」『日本列島に生きた人たち』岩波書店 二〇〇〇
一二月		宮島潤子	「近世における関東・信州の融通念仏」(融通念仏信仰の歴史と美術) 東京美術 二〇〇〇
山本尚友	『被差別部落史の研究』岩田書院 一九九九、一一	石橋美和子	『六十六部塚』鹿児島市文化スポーツ振興事業団 二〇〇〇
田丸太郎	「戒法寺の木食―道碑(一)―」目黒区郷土研究五三九 一九九九、一二 目黒郷土研究会	小野澤 眞	「中世庶民信仰の勧進と定着―山形県天童市出土墨書磔から見た一向衆の実相―」『鎌倉』九一号 二〇〇〇
青野薄芳	「富士の托鉢考」富士民俗の会報一二号 一九九九、一二	菅野康二	『茅葺きの文化と伝統』歴史春秋社 二〇〇〇
宮島潤子	「能楽と融通念仏」文化財信濃(社)長野県文化財保護協会 九九七号 一九九九、一二	桃崎祐輔	「忍性の東国布教と叡尊諸大弟子の活動」『叡尊・忍性と律宗系集団』同シンポジウム実行委員会 二〇〇〇
林 淳	「戦後民俗宗教研究の再検討」愛知学院大学人間文化研究所報二五号 愛知学院大学人間文化研究所 一九九九、一二	豊島 修	「熊野三山の庵主・本願寺院と願職比丘尼」大谷学報八〇 一 二〇〇〇
網野善彦	「不自由民と職能民」『波』三六〇号 新潮社 一九九九、一二	山路興造	「近世都市における「遊民」の諸相」世界人権問題研究紀要五 二〇〇〇
大月市郷土資料館	『大月市の木食「木食修行について」資料』一九九九、一二	林 淳	「伊勢の曆師集団」『人間文化』一五号 愛知学院大学 二〇〇〇
林 大斐	『四国もみじ遍路ひとり歩き』文芸社 一九九九、一二	林 淳	「土御門家配下の地方触頭の機能」『愛知学院大学文学院紀要』二九号 二〇〇〇

末満宗治	「下総四郡新四国八十八か所の展開とその特質」 松戸史談四〇号 二〇〇〇	馬歴史散歩の会 二〇〇〇、一
北川 央	「伊勢大神宮は私の心の原風景」伊勢人 一一八号 二〇〇〇	山内 讓 「瀬戸内の船運と港」自然と文化六二号 二〇〇〇、一
塚田 孝	『身分から歴史学を考える』校倉書房 二〇〇〇	森本 孝 「家船漁師の思い出」自然と文化六二号 二〇〇〇、一
一月		小池淳一 「史料紹介」『弘法の置文』―解題と翻刻― 青森県史研究第四号 二〇〇〇、一 青森県
田中史生	「〈異人〉〈異域〉と古代の交通」歴史評論五九七号 校倉書房 二〇〇〇、一	大月市郷土資料館 「大月市の木食「白道とその作品」資料」二〇〇〇、一
松永勝巳	「湯屋の集会」歴史学研究七三二号 歴史学研究会 二〇〇〇、一	吉田伸之 「巨大城下町江戸の分節構造」山川出版社 二〇〇〇、一
岡部貞一	「酒井の神楽師」県史史談三九号 県史史談会 二〇〇〇、一	松本麻子 「廻国商人と芸能―売業商人と説教を中心として―」青山学院大学文学部紀要四一号 二〇〇〇、一
戎光祥出版編纂部	「参詣曼荼羅集成―絵国でたどる西国三十三ヶ所」『観音信仰事典』戎光祥出版株式会社 二〇〇〇、一	二月
戸田芳実・田中智彦	「西国巡礼の歴史と信仰」『西国三十三ヶ所観音霊場の美術』大阪市立美術館・毎日新聞社一九八七田中稿のみ一部改稿して『観音信仰事典』所収 二〇〇〇、一	五味文彦編 「芸能の中世」吉川弘文館 二〇〇〇、二
兵藤裕巳	『平家物語の歴史と芸能』吉川弘文館 二〇〇〇、一	長曾我部光義 「甚吉廻国―二百年目の再会承前―井崎甚吉六十六部日本廻国のこと」『しゃりんばい』第二二号「寺原仲次浪の廻国塔その他」―宮崎県教職員互助会 二〇〇〇、二
時枝 務	「新田郡の里修験―当山派修験を中心として―」群馬文化二六一号 群馬県地域文化研究協議会 二〇〇〇、一	織田寿文 「尾張万歳の来歴―保存会員と惣万歳―」歴史民俗資料学研究五号 神奈川大学歴史民俗資料学研究 二〇〇〇、二
堀部るみ子	「痔の神様秋山人」あわじ一七号 淡路地方史研究会 二〇〇〇、一	渡辺昭五 「中近世放浪芸の系譜」岩田書院 二〇〇〇、二
杉本 寿	「木地師史料美濃屋木地店舗―愛知県稲武町―」民俗文化四二六号 滋賀民俗学会 二〇〇〇、一	伊藤正敏 「日本の中世寺院 忘れられた自由都市」吉川弘文館 二〇〇〇、二、一
岡部真一	「酒井の神楽師」県史史談三九 県史史談会 二〇〇〇、一	白本利幸 「四国遍路の歴史」大法輪六七卷二二号 大法輪閣 二〇〇〇、二
竹内 寛	「大間々の円空仏をめぐって」群馬歴史散歩一五八号 群馬歴史散歩の会 二〇〇〇、一	立松和平 「空海と木喰」大法輪六七卷二二号 大法輪閣 二〇〇〇、二
		脊古真哉 「民俗宗教研究・民俗芸能研究の来し方―五来重氏の業績をめぐって―」宗教史研究会民俗宗教・民俗芸能シンポジウムパネラー報告 愛知学院大学 二〇〇〇、二、一九

木場明志	「五来宗教民俗学が教えたもの―民俗宗教・民俗芸能シンポジウムに寄せて―」宗教史研究会民俗宗教・民俗芸能シンポジウムパネラー報告 愛知学院大学 二〇〇〇、二、一九	大澤 廣	阪の歴史五五号 二〇〇〇、二 「中山道往来の人々―浪人・船頭、参宮犬など―」千曲 一〇四号 二〇〇〇、二
西海賢二	「民俗芸能と民間宗教者(徘徊者・浮浪者)の研究をめぐって」宗教史研究会民俗宗教・民俗芸能シンポジウムパネラー報告 愛知学院大学 二〇〇〇、二、一九	鈴木明子	「近世願人史料(三)」東洋大学院紀要三六号 二〇〇〇、二
山路興造	「民俗芸能―五来氏の所学をめぐって―」宗教史研究会民俗宗教・民俗芸能シンポジウムパネラー報告 愛知学院大学 二〇〇〇、二、一九	鈴木昭英	「警女芸道軌跡(1) 渡世の業」会報警女創刊号一 警女文化を顕彰する会 二〇〇〇、二
林 淳	「民俗宗教・民俗芸能研究における分類」宗教史研究会民俗宗教・民俗芸能シンポジウムパネラー報告 愛知学院大学 二〇〇〇、二、一九	田中正明	「終焉期の警女の態様―メディアと書目を通して―」二松学舎大学附属高等学校研究紀要I 二〇〇〇、二
高沢正樹	「警女文化を顕彰する会―その発足報創刊にあたって―」会報警女一号 警女文化を顕彰する会 二〇〇〇、二	田中智彦	「石造物にみる太夫名―桑名市太夫墓地調査報告」岐阜聖徳学園大学紀要三九号 岐阜聖徳学園大学 二〇〇〇、二
駒形 彪	「ごぜさ勉強事始め」会報警女一号 警女文化を顕彰する会 二〇〇〇、二	三月	
宮島潤子	「弾誓上人絵詞伝」―塔の峰阿弥陀寺本を中心として(4)―むしくら三二号 むしくら交流会ニュースレター 二〇〇〇、二	長曾我部光義	「なんとあったのです、寺原仲次浪の廻国塔が」石に聴く 四四号 二〇〇〇、三、一
辻 桂	「魚行商「引き売り」の現状」くちくまの一六号 紀南文化財研究会 二〇〇〇、二	佐藤正英	「西行と隠遁」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三
岩崎真幸	『日本九峰修行日記』にみる「年宿」の分析」東北学院大学論集歴史学地理学三三 二〇〇〇、二	中西満義	「西行と四国への旅―崇徳院との関わりを中心にして」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三
妹尾周三	「安芸・備後の鋳物師(一) 海田の植木氏について」芸備地方史研究二一九号 二〇〇〇、二	白田昭吾	「西行と吉野山」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三
井上智勝	「吉田家大坂関所の設置と神祇道取締役・神道方頭役」大	山田昭全	「西行の大峰修行」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三
		小峯和明	「西行と聖地」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三
		坂口博規	「西行と奥州旅行」国文学解釈と鑑賞六五卷三号 至文堂 二〇〇〇、三

島津忠夫	「西行と家隆―西行勸進二見浦百首を中心に―」国文学解 釈と鑑賞六五巻三号 至文堂 二〇〇〇、三	西海賢二	『葛飾区の墓碑―近世を中心に―』葛飾区教育委員会 二〇〇〇、三、三一
菊地 仁	「西行説話の展開―その伝承像―」国文学解釈と鑑賞六五巻 三号 至文堂 二〇〇〇、三	木下光生	「近代身分制研究の成果と課題（一九九八）」部落問題 研究一五〇号 社団法人部落問題研究所 二〇〇〇、三
時枝 務	「近世後期における里修験の生活と文化―上野国大間々町 大泉院の事例―」群馬歴史民俗二一号 群馬歴史民俗 研究会 二〇〇〇、三	布川 弘	「近代部落史研究成果と課題」部落問題研究一五〇号 社団法人部落問題研究所 二〇〇〇、三
板橋春夫	「いのちの個別化―産死における「身二つ」慣行から―」 群馬歴史民俗二一号 群馬歴史民俗研究会 二〇〇〇、 三	上島敏昭	「大道芸と現代」歴史と民俗一六号 神奈川大学常民文化 研究所論集一六 平凡社 二〇〇〇、三
藤原正己	「仏の旅・ひとの旅―示視と巡礼からみた平安社会―」 巡礼研究会編『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究の可能性』所収 岩田書院 二〇〇〇、三	三木一彦	「下総国海上郡高神村の形成と紀州移民」歴史地理学調査 報告第九号 筑波大学歴史・人類学系歴史地理学研究室 二〇〇〇、三
山本殖生	「熊野本願聖の巡礼―中世末期の断片的足跡から―」巡礼研 究会編『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究の可能性』所収 岩田 書院 二〇〇〇、三	山澤学・蓼沼綾子	「飯沼観音信仰と17世紀の銚子―「飯沼山観世音縁 起」を中心に―」歴史地理学調査報告第九号 筑波大学 歴史人類学系 歴史地理学研究室 二〇〇〇、三
鈴木昭英	「一百三十六部妙興の回国納経について」巡礼研究会編 『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究の可能性』所収 岩田書院 二〇〇〇、三	西海賢二	「村に入り来る勸進たち」神奈川地域史研究一八号 神奈 川地域史研究会 二〇〇〇、三
田中智彦	「巡礼と順礼―文献史料と納札からみた中世西国巡礼の表 記」巡礼研究会編『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究の可能性』 所収 岩田書院 二〇〇〇、三	渡邊昭五	「四国遍路と衛門三郎の絵解き」岩瀬博・福田晃・渡邊昭 五編『講座日本の伝承文学第八巻在地伝承の世界―西日 本―』所収 三弥井書店 二〇〇〇、三、二七
下仲一功	「巡礼歌（御詠歌）」の性質をめぐって（一）―特に御詠 歌の視点から―巡礼研究会編『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究 の可能性』所収 岩田書院 二〇〇〇、三	山中耕作	「小宰相―クグツの末裔たちの遊行唱導―」『講座日本の 伝承文学第八巻在地伝承の世界―西日本―』所収 三弥 井書店 二〇〇〇、三、二七
佐藤久光	「平成期における西国巡礼の動向と実態」巡礼研究会編 『巡礼論集Ⅰ』『巡礼研究の可能性』所収 岩田書院	須田悦夫	「『大頭舞之系図』が語るもの―九州への伝来と伝播のあ り方―」『講座日本の伝承文学第八巻在地伝承の世界― 西日本―』所収 三弥井書店 二〇〇〇、三、二七
		西岡陽子	「地神盲僧の伝承詞章―「地神経」および釈文について―」

	『講座日本の伝承文学第八巻在地伝承の世界―西日本―』 所収 三弥井書店 二〇〇〇、三、二七		木地業を一側として―』民俗文化四三八号 滋賀民俗学 会 二〇〇〇、三
千秋謙治	「砺波地方における近世里修験とその祭祀」砺波散村地域 研究所研究紀要一七号 砺波市立砺波散村地域研究所 二〇〇〇、三	夢枕獭監修 北川 央	『七人の役小角』桜桃書房 二〇〇〇、三 「観光都市大阪の横顔―全国から多くの人が集まる―」江 戸時代人づとり風土論大阪の歴史」所収 社団法人農山 漁村文化協会 二〇〇〇、三
山本義孝	「民間陰陽師村院内の設定」『浅羽町史―通史編―』所収 静岡県磐田郡浅羽町 二〇〇〇、三	林 淳	「土御門配下の地方触頭の機能―但馬国安谷家文書から見 た―」愛知学院大学文学紀要二九号 二〇〇〇、三
山本義孝	「里の修験者と陰陽師」『浅羽町史―通史編―』静岡県磐 田郡浅羽町	千秋謙治	「砺波地方における近世里修験とその祭祀」砺波散村 地域研究紀要一七号 砺波市立砺波散村地域研究所 二〇〇〇、三
長曾我部光義	「なんとあったのです、寺原仲次浪の廻国塔が」石に聴く 四四号 二〇〇〇、三、一	前田博仁	「日向国における庶民信仰―四国遍路の事例―」平成 十一年度宮崎県研究紀要第二十六輯 宮崎県立図書館 二〇〇〇、三
三橋 正	『平安時代の信仰と宗教儀礼』続群書類従完成会 二〇〇〇、三	飯村富美子	「寮の景観と機能―新治郡八郷町大塚を事例に―」土浦市 立博物館紀要一〇 土浦市立博物館 二〇〇〇、三
森下 徹	「近世瀬戸内地域における石林業の展開と石工」社会経済 史学六五巻六号 二〇〇〇、三 社会経済史学会	伊藤芳枝	「盲僧と民間信仰」山陰民俗研究五号 二〇〇〇、三
時枝 務	「日記史料と民俗―『大泉院日記』をめぐって―」『民俗と 考古の世界』和田文史先生頌寿記念献論文集 二〇〇〇、 三	山村雅史	「地域の声聞師研究―試論―中世法隆寺辺の声聞師から ―」奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要七号 二〇〇〇、三
時枝 務	「在郷町における里修験の活動」『大間々町誌別巻6』所 収二〇〇〇、三	中川みゆき	「幕末・明治初期の巡在座頭に関するノート」奈良県立 同和問題関係史料センター研究紀要七号 二〇〇〇、三
横田正吾	「菅江真澄のこと」史友一八号 合川地方史研究会 二〇〇〇、三	時枝 務	「修験道の展開」『新編高崎市史通史編2中世』所収 二〇〇〇、三
荒井貞次郎	「巡礼・遍路の民俗祖型考―四国地方の聖地信仰―」奥武 蔵三一二号 奥武蔵研究会 二〇〇〇、三	五十嵐文蔵	「鉄門上人は無欲の人」庄内民俗三三三号 二〇〇〇、三
杉本 寿	「定位できなかった人びと―山窩・山賤・野合・土産・天 人」民俗文化四三八号 滋賀民俗学会 二〇〇〇、三	坂部哲之	「秋葉道と女性の旅」地方史静岡二八号 地方史静岡刊行 会編 二〇〇〇、三
加部 聡	「越中木地師覚書(1) 越中における木地師の認識―庄川		

大森恵子	「聖と豊穡の祈り―特に三田市の駒宇佐八幡神社百石踊りを中心にして―」近畿民俗NO. 一五八、一五九 近畿民俗学会 二〇〇〇、三	田中夕子	「わが国における遊行僧の研究―鹿角の杖を持つ遊行像を中心に―」印度学仏教研究四八―二 二〇〇〇、三
藤田和議	「踊り出た被差別民―天正一七年七月奈良町の風流―」史料センター事業ニュース六 奈良県立同和問題関係史料センター 二〇〇〇、三	米村直之	「北野社の勧進と造営」史学研究集録二五 二〇〇〇、三
林 譲	「一遍の踊り念仏研究ノート―特に歳末別時日本念仏その関連を中心にして―」時宗教学年報二八 時宗教学研究所 二〇〇〇、三	米村直之	「中世後期の勧進芸能―興行の場をめぐる―」国学院大学院紀要三一 二〇〇〇、三
金井清光	「一遍・真教の初賦算」時宗教学年報二八 時宗教学研究所 二〇〇〇、三	岡 佳子	「近世の比丘尼郷所(上)―宝鏡寺を中心に―」仏教史学研究四二―二 二〇〇〇、三
金井清光	「当麻派近世遊行の一史料」時宗教学年報二八 時宗教学研究所 二〇〇〇、三	神田由築	「江戸の役者と地方興行―甲府と会津若松」服部幸雄編『寛政期の前後における江戸文化の研究』千葉大学大学院社会文化科学研究プロジェクト報告書 二〇〇〇、三
山路興達	「近世都市における「遊民」の諸相―下級宗教者、大遊芸、門付け物売り、職人―」世界人権問題研究センター『研究紀要』五 二〇〇〇、三	河野 弘	「宗吾信仰の展開」常総の歴史二四号 崙書房 二〇〇〇、三
中川みゆき	「幕末・明治初期の巡在座頭に関するノート」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』七 二〇〇〇、三	高山秀嗣	「茨城の廻国塔」常総の歴史二四号 崙書房 二〇〇〇、三
山村雅史	「地域の声聞師研究―試論―中世法隆寺辺の声聞師から―」奈良県立同和問題関係史料センター『研究紀要』七 二〇〇〇、三	高山秀嗣	「親鸞の伝導」印度学佛教研究四八巻二号 二〇〇〇、三
山本義孝	「遠江国における民間陰陽師村院内の立地と成立背景」宗教研究三三三 二〇〇〇、三	伊藤唯真	「親鸞の伝導」研究ノート」真宗研究会紀要三二二号 龍谷大学大学院真宗研究会 二〇〇〇、三
野原敏彦	「明和二・三四年美濃国各務郡山後村遠藤文右衛門日本廻国記に見る廻国修行―江戸時代の旅の―一典型として―」岐阜県歴史資料館二三輯 二〇〇〇、三	四月	『日本人と民俗信仰』法蔵館 二〇〇〇、三
大塚活美	「中世の巡礼札」朱雀一二号 二〇〇〇、三	長宗我部光義	「寺原仲次郎廻国塔その後(1)」石に聴く四五号 私家版 二〇〇〇、四
		長曾我部光義	「寺原仲次郎その後(2)」石に聴く四六号 二〇〇〇、四、五
		小山靖憲	『熊野古道』岩波書店二〇〇〇、四
		池上良正	「津軽のカミサマ一丁お婆さんの思い出によせて」東北学VOL. 二 東北芸術工科大学東学文化研究センター

川村邦光	二〇〇〇、四 「東北 近代の盲巫女―宮城県の巫女をめぐる―」東北学VOL.二 東北芸術工科大学東学文化研究センター 二〇〇〇、四	村山修一	「修験道の歴史」大法輪六七巻五号 大法輪閣 二〇〇〇、五
鳥兎沼宏之	「オナカマ」考―神子と瞽女の関連について―東北学VOL.二 東北芸術工科大学東学文化研究センター 二〇〇〇、四	志村有弘	「役者の生涯とその後継者たち」大法輪六七巻五号 大法輪閣 二〇〇〇、五
赤坂憲雄	「菅江真澄考(1) 巫女とオカマ神」東北学VOL.二 東北芸術工科大学東学文化研究センター 二〇〇〇、四	後藤越司	「庄内の里と山伏たち」大法輪六七巻五号 大法輪閣 二〇〇〇、五
編集子	「東海道を徒歩で西下する失業者群プロ乞食の縄張り荒し」豆州歴史通信二二七号 二〇〇〇、四	田中純子	「北陸時衆について―長崎称念寺の変遷を通して―」日本宗教文化史研究第四巻一号 日本宗教文化史学会 二〇〇〇、五
田中 信	「絵巻物の食膳具を読む―『一遍聖絵』を中心に―」物質文化六九号 物質文化研究会 二〇〇〇、四	菅根幸裕	「空也聖と空也絵伝―空也系三昧聖に関する考察―」風俗史フォーラム 口頭発表 日本風俗史学会 二〇〇〇、五、一九
砂川 博	「一遍の「捨てる」思想―今井雅晴著『捨聖』を読んで―」時衆文化創刊号 時衆文化研究会 二〇〇〇、四	横山陽子	「近世会津地域における賤民の存在形態―エタ・イタカを中心に―」『記録史料と日本近世社会一九九七―一九九九年度千葉大学大学院社会科学文化科学研究科プロジェクト研究成果報告書』所収 千葉大学大学院社会科学文化科学研究科 二〇〇〇、五
小野澤 眞	「時衆とは何か―時衆研究への視座」時衆文化創刊一号 時衆文化研究会 二〇〇〇、四	渡辺みゆき	「武相の徳本行者をめぐる」民俗一七二号 相模民俗学会 二〇〇〇、五
牛山佳幸	「『善光寺縁起』の発展と諸類型」古文書研究五一号 日本古文書学会 二〇〇〇、四	広井忠男	「小栗山に木喰五行を誘った広井信之の人物像」長岡郷土史三七号 長岡郷土研究会 二〇〇〇、五
五月	「『恋文』旅情一子遍路の鈴の音高く過ぎにけり」THE GOLD二〇八号(株)ジュシーシービー 二〇〇〇、五	田代 孝	「中世十六部聖の笈」山梨県考古学協会誌一一号 帝京大学 山梨文化財研究所内 二〇〇〇、五
黛 まどか	「巡礼研究の可能性」地方史情報二五号 岩田書院 二〇〇〇、五	牧野和春・池田勇次	『円空と木喰 作仏遊行廻国その生きさま』惜水社 二〇〇〇、五
豊島 修	「木食行道検証二件 水津から漁浜までの足取り 善助堂・出水釈迦像の作者」長岡郷土史三七号 長岡郷土史研究会 二〇〇〇、五	田中圭一	「島の木食上人―佐渡鉢山の歴史とともに―」『ものがたり日本列島に生きた人たち10景観』所収 岩波書店
大久保憲次			

六月	二〇〇〇、五	高田洋介	「三味聖」高埜編「シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者」所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六
武田 正	『山姥登場―昔話学への招待―』置賜民俗学会 二〇〇〇、六	澤 博勝	「道場主」高埜編「シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者」所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六
大桑 齊	『近世における仏教治国論の史料論の史料的研究、平成一〇、一一年度科学研究費 補助金（基盤研究（C）―（一））研究成果報告書』二〇〇〇、六	保坂裕興	「虚無僧」高埜編「シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者」所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六
曾根原理	「浄土宗における生身仏の系譜」大桑齊編『近世における仏教治国論の史料論の史料的研究、平成一〇、一一年度科学研究費 補助金（基盤研究（C）―（一））研究成果報告書』二〇〇〇、六	梅田千尋	「陰陽師」高埜編「シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者」所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六
田代 孝	「南巨摩の信仰―近世の経塚について」山梨考古七六号	藤原千恵子編	「浮世絵に見る江戸の旅」河出書房新社 二〇〇〇、六
毛利郁美	「飯田の円空仏」伊那八六五号 伊那史学会 二〇〇〇、六	鶴崎裕雄	「戦国を往く連歌師宗長」角川書店 二〇〇〇、六
松田千鶴	「人々の暮らしを支えた売薬さん―越中富山の葉売りとその営業活動を通して」郷土研究岐阜八五号 岐阜県郷土資料研究協議会 二〇〇〇、六	丹生谷哲一	「中性河原のくらし」『ものがたり日本列島に生きた人たち3 文書と記録上』所収 岩波書店 二〇〇〇、六
高埜利彦	「民間に生きる宗教者」高埜編『シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六	神崎宣武	「流浪する人たち」『ものがたり日本列島に生きた人たち9 民具と民俗下』所収 岩波書店 二〇〇〇、六
井上智勝	「神道者」高埜編『シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六	七月	
西田かおる	「神子」高埜編『シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六	宮家 準	『役行者と修験道の歴史』吉川弘文館 二〇〇〇、七
幡釜一弘	「祭礼奉仕人」高埜編『シリーズ近世の身分的周縁1 民間に生きる宗教者』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、六	佐川和裕	「守屋家所蔵「四季耕作図」について」民具マンスリー三三卷四号 神奈川大学日本常民文化研究所 二〇〇〇、七
		庄司恵一	「近世の村と修験院―仙台領内桃生郡北方の場合」民具マンスリー三三卷四号 神奈川大学日本常民文化研究所 二〇〇〇、七
		福原敏男	「諸職由緒書と職祖信仰」歴博一〇一号 国立歴史民俗博物館 二〇〇〇、七
		河島一仁	「奥三河における芸能従事者と行商人の活動―若松屋の宿帳を用いて―」『愛知県史民俗調査報告3 東栄・奥三河』所収 愛知県総務部 二〇〇〇、七
		小早川道子	「津具村・若松屋宿帳」『愛知県史民俗調査報告3 東栄・

	奥三河』所収 愛知県総務部 二〇〇〇、七		毛利郁美	「飯田の円空仏」伊那八六六号 伊那史学会 二〇〇〇、七
長曾我部光義	「宮崎県の廻国塔と陸奥路廻国塔」石に聴く四七号 二〇〇〇、七		飯尾恭之	「尾張サンカ研究八」廻還竹細工師「オタカラシユウ」の面談・聞き書き・検証調査歴史民俗学一七号 歴史民俗研究会 二〇〇〇、七
川添 裕	『江戸の見世物』岩波書店 二〇〇〇、七		田村 勇	「エブネ(永船)生活者」歴史民俗学一七号 歴史民俗研究会 二〇〇〇、七
横田冬彦	「芸能・文化の世界」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		利田 敏	「最後のサンカ面談記録」歴史民俗学一七号 歴史民俗研究会 二〇〇〇、七
小川朝子	「楽人」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		片山美洋	「太平洋戦争とコジキ」歴史民俗学一七号 歴史民俗研究会 二〇〇〇、七
母利美和	「能役者」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		飯尾恭之	「フダウリ」廻国宗教者の小道具」歴史民俗学一七号 歴史民俗研究会 二〇〇〇、七
北川 央	「伊勢太神楽―その成立をめぐる―」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		石川知彦・小澤弘	「図説役行者修験道と役行者絵巻」河出書房新社 二〇〇〇、八
森田竜雄	「鉢叩」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		山下隆章	「高松藩における「乞食」の諸芸興行について」鳴門史学 一― 鳴門史学会 二〇〇〇、八、三
永井彰子	「寺中」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		黒野こうき	「レポート」ネットワーク播隆」SIDE LIGHT ON TOKAI 二九号 鈴木美美子方 二〇〇〇、八
杉本史子	「絵師―渡辺華山、「画工」と「武士」のあいだ」横田冬彦編『シリーズ近世の身分的周縁2、芸能、文化の世界』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、七		喜代吉榮徳	『遍路の大先達中司茂兵衛義教』(株)正林書院 二〇〇〇、八
小島 勲	「徳本上人と庶民(1)」足立史談三八九号 足立区教育委員会足立史談編纂局 二〇〇〇、七		小島 勲	「徳本上人と庶民(2)」足立史談三九〇号 足立区教育委員会足立史談編纂局 二〇〇〇、八
池田勇次	「飛弾と円空覚書(22) 岩舟不動堂の円空仏(1)」飛弾春秋四七四号 飛弾郷土学会 二〇〇〇、七		田代 孝	「近世の六十六部について―甲州山梨県萩原村文右衛門―」甲斐路九七号 山梨郷土研究会 二〇〇〇、八
杉本 寿	「木地師史料近江国小椋荘と小金三河守神崎郡永源寺町」民俗文化四四二号 滋賀民俗学会 二〇〇〇、七		水本正人	「エビス舞の背後にあるもの」しこく部落史 二二〇〇〇、八

鈴木昭英	「瞽女芸道の軌跡(2) 中世の盲御前」会報瞽女二二〇〇、八				
渡辺みゆき	「信濃の木食行者をめぐる」地方史研究二八六号 地方史研究協議会 二〇〇〇、八	久下正史	「尊恵将来経伝承の形成―有馬における『冥途蘇生記』―」宗教民俗研究一〇号 日本宗教民俗学研究会 二二〇〇、九		
平野寿則	「県急報告 富士行者身祿の宗教的世界」日本宗教民俗学研究会通信八四号 日本宗教民俗学研究会 二〇〇〇、八	宮島潤子	「万治の石仏」文化財信濃第二七卷二号 社団法人 長野県文化財保護協会 二〇〇〇、九		
木場明志	「緊急報告 安倍清明研究の現状」日本宗教民俗学研究会通信八四号 日本宗教民俗学研究会 二〇〇〇、八	宮島潤子	「近世における関東・信濃の融通念仏」『融通念仏信仰の歴史と美術』所収 東京美術 二〇〇〇、九		
香月洋一郎	「技をもつ人々の旅」『ものがたり日本列島に生きた人たち8 民具と民俗上』所収 岩波書店 二〇〇〇、八	池上良正	「宗教学の方法としての民間信仰・民俗宗教論」宗教研究三二五号 日本宗教学会 二〇〇〇、九		
可児弘明	「ハンボウ行商―商いの道筋をみつけた女性たち―」『ものがたり日本列島に生きた人たち8 民具と民俗上』所収 岩波書店 二〇〇〇、八	神田より子	「民俗宗教と妹の力」宗教研究三二五号 日本宗教学会 二〇〇〇、九		
九月		真野俊和	「民間信仰」は実在したか 宗教研究三二五号 日本宗教学会 二〇〇〇、九		
坂本正夫	「高知県葉山村の千人宿」西郊民俗一七二号 西郊民俗談話会 二〇〇〇、九	中村生雄	「加藤玄智の神道学と生祠研究」宗教研究三二五号 日本宗教学会 二〇〇〇、九		
吉田伸之	「商いの場と社会」吉田伸之編『シリーズ近世の身分的周縁4商いの場と社会』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、九	宮家 準	「なぜ民俗宗教」宗教研究三二五号 日本宗教学会 二〇〇〇、九		
渡辺祥子	「薬種中買」吉田伸之編『シリーズ近世の身分的周縁4商いの場と社会』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、九	井川一良	「湊町酒田の民衆教育と里修験」歴史九五輯 東北史学会 二〇〇〇、九		
杉森玲子	「古着商人」吉田伸之編『シリーズ近世の身分的周縁4商いの場と社会』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、九	小林計一郎	「泉光院の回國」長野二二三号 二〇〇〇、九		
神田由築	「鉛売商人」吉田伸之編『シリーズ近世の身分的周縁4商いの場と社会』所収 吉川弘文館 二〇〇〇、九	小林計一郎	「木地師の善光寺参り」長野二二三号 二〇〇〇、九		
副島弘道	『運慶その人と芸術』吉川弘文館 二〇〇〇、九	菊池大樹	「中世社会と修験道」歴史と地理五三七号 山川出版社 二〇〇〇、九		
大森恵子	「三田市の田楽踊―特に、芸能と宗教性を中心にし	林 淳	「土御門家と伊勢の曆師集団」人間文化一五 愛知学院大学人間文化研究所 二〇〇〇、九		
		浜田全真	「融通念仏と勧進―名帳・絵巻物と芸能を通して―」伊藤		

唯真監修・融通念仏宗教研究所編『融通念仏信仰の歴史と美術』所収 東京美術 二〇〇〇、九	砂川 博	「時衆と琵琶法師の関係」時衆文化二号 時衆文化研究会 二〇〇〇、一〇
杉本 寿	金井清光	「一遍聖絵」十二名画とその宗教的意味(一)「時衆文化二号 時衆文化研究会 二〇〇〇、一〇
「木地師史料九州絵の木地商」民俗文化四四四二〇〇〇、九	小野澤 眞	「時衆とは何か―時衆史の再構成―」時衆研究二号 時衆文化研究会 二〇〇〇、一〇
落合延孝	梅谷繁樹	「遊行回国十二道具秘釈の出現背景」時衆文化二号 時衆文化研究会 二〇〇〇、一〇
「幕末を旅した男」『ものがたり日本列島に生きた人たち4 文書と記録下』所収 岩波書店 二〇〇〇、九	菅根幸裕	「近世俗聖の身分をめぐる諸問題―空也聖と空也堂の本末を中心に―」『日本風俗史学会合編『日本の風と俗』所収 つくばね舎 二〇〇〇、一〇
井川一良	林 淳	「奈良暦と陰陽道―土御門家と陰陽師集団―」日本風俗史合編『日本の風と俗』所収 つくばね舎 二〇〇〇、一〇
「湊町酒田の民衆教育と里修験」歴史九五輯 東北史学会 二〇〇〇、九	高埜利彦	「山伏たち―中世から近世へ―」『ものがたり日本列島に生きた人たち6 伝承と文学上』所収 岩波書店 二〇〇〇、一〇
一〇月	青柳周一	「人の移動と地域社会史・試論―参詣旅行史研究視点から―」関東近世研究四八号 関東近世史研究会 二〇〇〇、一〇
小野澤 眞	宮島潤子	「弾誓上人絵詞伝―塔の峰阿弥陀寺本を中心として―」むしくら交流会ニュースレターNO. 三六 むしくら交流会 二〇〇〇、一〇
「中世の港湾都市に描かれる勸近聖―摂津・和泉に屠関する四条道場平時衆を中心として」『地方史研究協議会編『巨大大都市大阪と摂河泉』所収 雄山閣出版 二〇〇〇、一〇	酒井幸則	「大島の山論文書に見る但唱(彈誓二世)の追い出し(その五)」むしくら交流会ニュースレターNO. 三六 むしくら交流会 二〇〇〇、一〇
長野 覚	小泉健男	「大師送り」足立史談三九二号 足立区教育委員会足立史談編集局 二〇〇〇、一〇
「ものがたり修験道史」別冊太陽NO. 二二号 平凡社 二〇〇〇、一〇		
「行者銘々伝」別冊太陽NO. 一一一号 平凡社 二〇〇〇、一〇		
西海賢二		
「修験道の誕生と日本宗教」別冊太陽NO. 二二号 平凡社 二〇〇〇、一〇		
久保田展弘		
「羽黒修験の峯入り―生命の円還運動」別冊太陽NO. 一一一号 平凡社 二〇〇〇、一〇		
久保田展弘		
「羽黒修験―その歴史と峰入―」岩田書院 二〇〇〇、一〇		
宮家 準		
『祈願・祭祀習俗の文化史』岩田書院 二〇〇〇、一〇		
奥野義雄		
『土佐源氏』の成立』柳田国男研究年報三『柳田国男・民俗の記述』所収 岩田書院 二〇〇〇、一〇		
井出幸男		
「近世村落における修験同行の役割」第三十三回日本古文書学会大会研究発表 二〇〇〇、一〇		
宮本義己		

村田 熙	「薩摩盲僧史の諸問題」鹿兒島民俗一八号 鹿兒島民俗学会 二〇〇〇、一〇	飛田美世	二〇〇〇、一一 「六十六部聖・神力坊の郷里を訪れて」茨城の民俗三九号 茨城民俗学会 二〇〇〇、一一
簾内敬司	「ふたつの真澄」月刊百科四六八号 平凡社 二〇〇〇、一〇	榎本 実	「湯殿供養塚について」茨城の民俗三九号 茨城民俗学会 二〇〇〇、一一
保坂和子	「宿帳にみる大正期の農村―西多摩 福生村の場合―」女性と経験二六 二〇〇〇、一〇 女性民俗学研究会	浅川泰宏	「客死遍路―阿波南方における近世過去帳調査―巡礼研究史会通信三二号 巡礼研究会 二〇〇〇、一一
長谷川賢二	「四国遍路の形成と山伏の関係をめぐる覚書」瀬戸内海地域史研究八 二〇〇〇、一〇	坂田友宏	「山町伝説と安養比尼伝説」伯耆文化研究三三号 伯耆文化研究会 二〇〇〇、一一
佐藤博信	「中世東国における―連歌師の軌跡―安房の作夢斎紹旨の場合―」金沢文庫研究三〇五号 二〇〇〇、一〇	鈴木昭英	「瞽女の具・桑松坂の語り」軍記語りと芸能 二〇〇〇、一一
利田 敏	「最後のサンカ面談記録2」歴史民俗学一八号 歴史民俗学研究会 二〇〇〇、一〇	八見詳子	『四国娘廻禮記』吉備人出版 二〇〇〇、一一
飯尾恭之	「尾張サンカの研究9・廻遊所細工師「オタカラシユウ」の面談、聞き書き、検証調査」歴史民俗学一八号 歴史民俗学研究会 二〇〇〇、一〇	藤原良章	「中世の芸能」『ものがたり日本列島に生きた人々5 絵画』所収 岩波書店 二〇〇〇、一一
池田勇次	「来世に導く円空仏」歴史民俗学一八号 歴史民俗学研究会 二〇〇〇、一〇	黒田日出男	「洛中洛外図を読む―人々の姿の変貌―」『ものがたり日本列島に生きた人々5 絵画』所収 岩波書店 二〇〇〇、一一
小林めぐみ	「研究ノート 江戸時代の塗師の訴訟」季刊博物館だより 五八号 福島県立博物館 二〇〇〇、一〇	石井正巳	「菅江真澄の旅―肉筆絵が語る歴史―」『ものがたり日本列島に生きた人々5 絵画』所収 岩波書店 二〇〇〇、一一
高埜利彦	「山伏たち―中世から近世へ―」『ものがたり日本列島に生きた人々6 伝承文学上』所収 岩波書店 二〇〇〇、一〇	谷口 貢	「シャーマン(巫者)と成巫過程」櫻井徳太郎編『シャーマニズムとその周辺』所収 第一書房
利田 敏	「最後のサンカ面談記録(二) 歴史民俗学一八号 歴史民俗学研究会 二〇〇〇、一〇	高見寛孝	「盲僧とシャーマン―シャーマニズムの盲僧研究序説」櫻井徳太郎編『シャーマニズムとその周辺』所収 第一書房 二〇〇〇、一一
吉原治人	「仏教文学」『日本仏教研究会編第11期日本の仏教第2巻日本仏教の研究法―歴史と展望』所収 法蔵館	西田圓我	『古代・中世の浄土教信仰と文化』思文閣出版 二〇〇〇、一一

金井清光	二一	『一遍の宗教とその変容』岩田書院 二〇〇〇、一一一	大山孝正	二〇〇一年	「バクロウ」にみる伝統的商行為―民俗学における交
福江 充	二一	「江戸中期における江戸の立山信仰」富山史壇一三三号 越中史談会 二〇〇〇、一一一	福江 充	二〇〇〇、一一一	「研究ノート 江戸中期における江戸の立山信仰」富山史 談一三三号 越中史談会 二〇〇〇、一一一
鈴木孝庸	二一	「口頭演誦とその詞章―「道行」の扱方をめぐって―」人文 科学研究一〇四輯 新潟大学人文学部 二〇〇〇、一一一	高本きよ子	二〇〇一年	『西行―捨て果ててきると思ふ我身に』大明空 二〇〇一
小野澤 眞	二一	「中世庶民信仰の勧進と定着―山形県天童市出土墨書牒か ら見た一向宗の実相―」鎌倉九一号 鎌倉文化研究会 二〇〇〇、一一一	桐生清次	二〇〇一年	『最後の瞽女―小林ハルの人生』二〇〇一
大山孝正	二一	「バクロウ」にみる伝統的商行為―民俗学における交易研究 への―視点―」信濃五二―一二 信濃史学会 二〇〇〇、 一一一	安田宗生	二〇〇一年	『肥後の琵琶師』三弥井書店 二〇〇一
鬼頭勝之	二一	「尾張藩における虚無僧の活動について」郷土文化五五― 二一 二〇〇〇、一一一	小嶋博巳	二〇〇一年	『隠岐西ノ島の廻国行者史料』ノートルダム清心女子大学 紀要文化学編二六号 二〇〇一
河合清子	二一	「特集・民間宗教者」花祭りを伝える人びと―東栄町 「御霊」と「足込」を中心に―」比較日本文化研究六 二〇〇〇、一一一	由谷裕哉	二〇〇一年	「山伏家から見た近世本山派修験」北陸宗教文化一三三号 二〇〇一
金子 毅	二一	「特集・民間宗教者」祇園祭に見る政治と民俗―会津 田島祇園祭の形成過程をめぐる試論―」比較日本文化研 究六 二〇〇〇、一一一	砂川 博	二〇〇一年	『平家物語の形成と琵琶法師』おうふう 二〇〇一
斉藤英喜	二一	「特集・民間宗教者」いざなぎ流「太夫」考―「御崎 神」の祭文と神楽をめぐる―」比較日本文化研究六 二〇〇〇、一一一	阿部泰郎	二〇〇一年	『聖者の推参―中世の声とヲコなるもの―』名古屋大学出 版会 二〇〇一
梅野光興	二一	「特集・民間宗教者」神子・博士・陰陽師―いざなぎ流 祭儀の生成―」比較日本文化研究六 二〇〇〇、一一一	森 正人	二〇〇一年	「遍路道にみる宗教的意味の現代性」人文地理五三―二 二〇〇一
湯浅照弘・湯浅壽男	二一	「操南の塵屑」岡山民俗二二四号 岡山民俗学会 二〇〇〇、一一一	田村良子	二〇〇一年	「接待慣行から見る地方巡礼―千葉県佐倉組十善講社印 旛印組大廻りを事例として―」政治学研究論集一四 明 治大学大学院 二〇〇一
			細川涼一	二〇〇一年	『漂泊の日本中世』ちくま学術文庫 二〇〇一
			松井松夫	二〇〇一年	「史料「秤の本地」と「連釈の大事」―その紹介と中世の 市―上田盆地三六号 二〇〇一
			浅野 明	二〇〇一年	「松戸市近郊八八大師」房総の石仏一三三号 房総石造文 化財研究会 二〇〇一

石井保満	「旧佐原市内の八十八札所について」房総の石仏一三号 房総石造文化財研究会 二〇〇一	箭内敬司	7 伝承と文学下』所収 岩波書店 二〇〇一、一 『菅江真澄 みちのく漂流』岩波書店 二〇〇一、一
村上昭彦	「八十八所道」『ふるさと再発見八千代の道しるべ』八千 代市郷土歴史研究会 二〇〇一	二月	
西尾市資料館	『西尾の三河万歳』西尾市資料館 二〇〇一	湯之上隆	『日本中世の政治権力と仏教』思文閣出版 二〇〇一、二
前田博仁	「宮崎の修験僧申間円立院延寿院」みやざき民俗第五号 宮崎民俗学会 二〇〇一	中尾 堯	『中世の勧進聖と舍利信仰』吉川弘文館 二〇〇一、二
鬼頭勝之	「尾張藩における虚無僧諸派の活動について」郷土文化 五七巻二号 名古屋郷土文化会 二〇〇一	原淳一郎	「大山参詣をめぐる寺社参詣者の動向―藤沢、江ノ島 鎌倉との関連で―」史学七〇巻二号 三田史学会 二〇〇一、一
櫻井英二	「天皇と鋳物師」『岩波講座 天皇と王権を考える 第三 巻 生産と流通』岩波書店 二〇〇一	駒形 颯	「瞽女文化を後世に」会報瞽女三号 瞽女文化を顕彰する 会 二〇〇一、二
脇田晴子	『日本中世被差別民の研究』岩波書店 二〇〇一	成島継紀	「わが家は瞽女宿だった瞽女が残してくれたふるさとの文 化」会報瞽女三号 瞽女文化を顕彰する会 二〇〇一、 二
愛媛県教育委員会	『四国遍路の歩み』平成一二年度遍路文化の学術調 査報告書 二〇〇一	鈴木昭英	「瞽女芸道の軌跡(3)―近世の瞽女仲間」会報瞽女三号
斎藤英喜・武田比呂男編	『安倍清明の文代学』新紀元社 二〇〇一	桐生清次	「瞽女文化を顕彰する会 二〇〇一、二
岡田啓介	『鉢かづき研究』おうふう 二〇〇一	宮島潤子	「瞽女さんたちの生きた社会」会報瞽女三号 瞽女文化を 顕彰する会 二〇〇一、二
一月			
掛斐 高・上野洋三・月村辰雄・鈴木 淳(司会)	「《座談会》日本隠 者考」文学第二巻第一号 岩波書店 二〇〇一、一、二	安田宗生	「肥後の琵琶師―近世から近代への変遷―」三弥井書房 二〇〇一、二
川口 洋	「牛痘種痘法導入期の武蔵国多摩郡における痘瘡によ る疾病災害」歴史地理学二〇二号 歴史地理学会 二〇〇一、一	神田より子	「神子と修験の宗教民俗的研究」岩田書院 二〇〇一、
小松和彦	「異界をつむぎ出した想像力」『ものがたり日本列島に生き た人たち7 伝承と文学下』所収 岩波書店 二〇〇一、二	田中智彦	「巡礼の成立と展開」遠日出典編『日本の宗教文化(上)』 高文堂出版 二〇〇一、二
真野俊和	「巡礼が来る町」『物語日本列島に生きた人たち7 伝承 と文学下』所収 岩波書店 二〇〇一、一	三宅雅子	『円空微笑の旅路』叢文社 二〇〇一、二
赤坂憲雄	「旅する異邦の女」『ものがたり日本列島に生きた人たち	稲田道彦	『景観としての遍路道と遍路の行程変化』香川大学

永井辰雄	二〇〇一、二 「触売り―振売り・ぼてふり・行商」伊那八七三号 伊那史学会 二〇〇一、二	立野 晃	「史料紹介上総国における神仏分離令直後の宗教者の動向」千葉県史研究九別冊 千葉県史料研究財団 二〇〇一、三
三月		宮本袈婆雄	「里修験の歴史と展開」民俗学講演会 相模原市立博物館 二〇〇一、三
佐々木宏幹	「生活仏教の諸相―宗教人類学的視点から―」宗教研究七四巻第四輯 日本宗教学会 二〇〇一、三	鈴木良明	「里修験の歴史と展開」民俗学講演会 相模原市立博物館 二〇〇一、三
小野澤 眞	「時衆における天皇観―主として近世から廃仏解釈にかけて―」宗教研究七四巻第四輯 日本宗教学会 二〇〇一、三	田村 寿	「木食観正と石材業者広井長十郎」日本の石仏九七号 日本石仏協会 二〇〇一、三
山本義孝	「院内山伏の自葬祭」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	山本義孝 片桐 讓	「里の修験者と陰陽師」『浅羽町史』所収 二〇〇一、三 「古代伊那谷の観音信仰―揺籃期明のもう一つの民俗史―」伊那民俗研究一〇号 柳田国男記念 伊那民俗学研究所 二〇〇一、三
米井輝圭	「陰陽師の代理参仕について」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	菊池勇夫	「近世飢饉下の捨子、子殺し―東北地方を事例に―」キリスト教文化研究所研究年報三四号 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 二〇〇一、三
小池淳一	「陰陽師と大雑書」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	由谷裕哉	「一山伏家から見た近世本山派修験」北陸宗教文化一三三号 北陸宗教文化学会 二〇〇一、三
根井浄	「江戸期・霊仙岳の噴火と仏僧の活動」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	細川涼一	「三昧聖研究成果と課題」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
菊池 武	「但馬国大屋郷の修験山伏と熊野信仰」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	田中淳一郎	「南山城の三昧聖」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
青木 淳	「一遍の「踊屋」と茶堂習俗」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	山本尚友	「上品蓬台寺と墓所聖について」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
横井教章	「日本仏教と湯の文化」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	吉田敏幸	「中世―近世の三昧聖の組織と村落」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
木場明志	「教化と受容―仏教者の介在をめぐって」宗教研究三二七号 日本宗教学会 二〇〇一、三	吉田栄治郎	「近世大和の三昧聖」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 財団 二〇〇一、三
吉田伸之	「農間渡世ノート」千葉県史研究九別冊 千葉県史料研究財団 二〇〇一、三		

- 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「撰州三昧聖の研究」細川涼一編『三昧聖の研究』所収
 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「近世大坂における墓所聖と葬送」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「近世河内国における三昧聖の存在形態」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「阿弥薩廢寺にみる三昧聖の活動」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「近世の聖におんぼう身分と村落」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「田辺地域における鉢坊の存在形態」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「近江の三昧聖・煙亡について」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「近世丹波地方における隱墓の存在形態」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 「隱坊から茶筌へ」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 杉田善雄 「元祿の東大寺大仏殿再興と吉政権」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 日野西真定 「高野山三昧聖の研究」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 原 宏一 「東寺地藏堂三昧について」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
 村上紀夫 「近世京都における無縁寺院」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三
- 池田勇次 「來世に導く円空仏」歴史民俗学一九号 歴史民俗学研究会 二〇〇一、三
 小澤勇一 「山北の唯念名号塔をめぐって」足柄乃文化二八号 山北町地方史研究会 二〇〇一、三
 鵜飼久市 「白山神を祀る人たち祈る人たち(5)―近世被差別者たちの「宗教」的屬性について―」白山の会紀要五号 白山の会 二〇〇一、三
 奈良県立同和問題関係史料センター編 『奈良の被差別民衆史』奈良県教育委員会 二〇〇一、三
 門屋光昭 「東国の太子信仰研究序説―岩手のまじりの仏と会津の太子守宗を中心として―」盛岡大学紀要二〇号 二〇〇二、三
 かくれ念仏研究会編 『薩摩のかくれ念仏―その光と影』法蔵館 二〇〇一、三
 松本純子 「行き倒れ人と他所者(モリモノ)の看病・埋葬―奥州郡山における行き倒れ人の実態―」東北文化研究室紀要四二号 東北大学文学研究会 二〇〇一、三
 吉田 清 『法然浄土教成立史の研究』岩田書院 二〇〇一、三
 奈良県立同和問題関係資料センター 『奈良の被差別民衆史』奈良県教育委員会 二〇〇一、三
 林 淳 「近世陰陽道研究史覚書」愛知学院大学文学部紀要三〇 愛知学院大学文学会 二〇〇一、三
 田村良子 「地方巡礼の一形態―千葉県佐倉組十善講社中印幡組大廻りを事例として―」成田市史研究二五号 成田市立図書館 二〇〇一、三
 吉田伸之 「農間渡世ノート」千葉県史研究九別冊 千葉県史料研究財団 二〇〇一、三
 イアン・リーダ 「あれは宗教これが信仰―現世利益と日本の宗教の構

	造―」国立歴史民俗博物館研究報告第九一集 国立歴史民俗博物館 二〇〇一、三				
中山和久	「巡礼をめぐる理解と誤解」国立歴史民俗博物館研究報告第九一集 国立歴史民俗博物館 二〇〇一、三	小島博巳	二〇〇一、四	「日本廻国の旅と信仰―②」浅草寺四九四号 浅草寺教化部 二〇〇一、四	
ジェラルド・グローム	「甲斐国の瞽女」山梨大学教育人間科学部紀要第三卷一号 二〇〇一、三	田口昌樹		「菅江真澄庄内の旅」東北学四号 東京芸術工科大学東北文化研究センター 二〇〇一、四	
皆川善孝	「下野の経塚資料とその特徴」栃木県立博物館紀要―人文― 一八号 栃木県立博物館 二〇〇一、三	宮島潤子		「彈誓上人絵詞伝」―塔の峠阿弥陀寺本を中心として(10)―むしくら三九号 虫倉交流会ニュースレター 二〇〇一、四	
時枝 務	「里修験と憑霊信仰―近世上野国の事例」山岳修験二七 日本山岳修験学会 二〇〇一、三	湯浅 隆		「村のなかの社や寺―徳島県吉野川中流域の事例―」むしくら三九号 虫倉交流会ニュースレター 二〇〇一、四	
ジェラルド・グローム	「江戸東京の瞽女」東京都江戸東京博物館研究報告七号 二〇〇一、三	五月 柄澤 守		「絵画史料で学ぶ鎌倉時代―『一遍上人絵伝』から何を学ぶ―歴史地理教育六二四号 歴史教育協議会 二〇〇一、五	
細川涼一	「三昧聖の研究成果と課題」細川涼一編『三昧聖の研究』所収 戎光祥出版 二〇〇一、三	日野西真定		「弘法大師空海の宝号と信仰の展開」国文学解釈と鑑賞八四〇号 至文堂 二〇〇一、五	
部落解放・人権研究所編	『達田良善文書』解放出版社 二〇〇一、三	斉藤日信		「今に生きる弘法大師信仰」国文学解釈と鑑賞八四〇号 至文堂 二〇〇一、五	
文化庁文化財部	『無形の民俗文化財記録第44輯茶堂の習俗Ⅱ―徳島県・香川県―』文化庁 二〇〇一、三	岡澤廣澄		「遍路道めぐって」国文学解釈と鑑賞八四〇号 至文堂 二〇〇一、五	
四月		日野西真定		「加持祈禱と民衆」国文学解釈と鑑賞八四〇号 至文堂 二〇〇一、五	
三角 寛	『三角寛サンカ選集第六卷サンカ社会の研究』現代書館 二〇〇一、四	志村有弘		「安倍晴明と陰陽道(下)―現代にいきるその影響力とは―」大法輪六八巻五号 大法輪閣 二〇〇一、五	
辰野和男	『四国遍路』岩波書店 二〇〇一、四	高遠奈緒美		「あの世の絵解き」歴博一〇六号 国立歴史民俗博物館 二〇〇一、五	
木下光生	「近世葬具業者の基礎的研究」大阪の歴史五七号 大阪市編纂所 二〇〇一、四	菅根幸裕		「空也聖にみる近世民間宗教者の「身分」―「身分的周	
岩鼻通明	「権現さまに参ろじゃなか」『地域文化』No.五六 八十二文化財団(長野市) 二〇〇一、四				
大口勇次郎	『徳川時代の社会学』吉川弘文館 二〇〇一、四				
砂川 博	「『一遍聖絵』とは何か」時衆文化三号 時衆文化研究会				

	縁」論の再考」風俗史学一五号 日本風俗史学会 二〇〇一、五		大学経済論叢七四卷一号 香川大学経済学部 二〇〇一、 六
栗田 勇	『捨ててこそ生きる―一遍遊行上人―』日本放送出版協会 二〇〇一、五	宮島潤子	『彈誓上人絵詞伝』―塔の峠阿弥陀寺本を中心として (11)―むくしら四〇号 虫倉交流会ニュースレター 二〇〇一、六
六月		柳原みえ	「木喰上人日向の足跡」森の風八号 みやぎ歴史文化館 ポランティアの会 二〇〇一、六
西木正明	「漂泊者たちを抱きとめた秋田」トランヴェール一五九号 東日本旅客鉄道株式会社 二〇〇一、六	草間孝弘	「松前における伊勢御師の活動」明治聖徳記念会紀要三五 二〇〇一、六
原淳一郎	「近世期名所のセットと富士・大山参詣」日本歴史 二〇〇一、六	喜代吉榮徳	「1910年代 明治末期から大正・昭和にかけての遍路 講通事情」四国霊場・案内記」明治44年本より」四国遍 路研究一九号 二〇〇一、六
光谷拓実	「岐阜県・愛知県の円空仏」同氏編『日本の美術四二一年 輪年代と文化財』所収 至文堂 二〇〇一、六	小松勝記	「土佐西国観音巡り」とさ国三十三番観世音霊場記」毎 日新聞高知支局
日野西真定	「霊場詣りと名改め―高野山の祖霊信仰―あしなな二五七 号 山村民俗の会 二〇〇一、六	七月	
喜代吉榮徳	「隔夜僧残像」日本の石仏九八号 日本石仏協会 二〇〇一、 六	山内 讓	「一遍聖絵」と伊予国岩屋寺」上横手雅敬編『中世の時 社と信仰』所収 吉川弘文館 二〇〇一、七
村山正市	「夜念仏行事と習俗をめぐって」村山民俗一五号 村山民 俗学会 二〇〇一、六	岩崎佳枝	「点景として描かれた「職人」部落解放四八八号 解放出 版社 二〇〇一、七
加藤和徳	「夜念仏塔と後生車塔の習合石塔」村山民俗一五号 村山 民俗学会 二〇〇一、六	田中洋平	「近世における修験寺院の回壇と祈祷寺壇関係―武州入間 郡上寺山村本山派修験・林蔵院を中心として―」風俗史 学通巻一四六号 日本風俗史学会 二〇〇一、七
岩鼻通明	「紀行文と旅日記にみる立石寺」村山民俗一五号 村山民 俗学会 二〇〇一、六	高原豊明	『晴明伝説と吉備の陰陽師』岩田書院 二〇〇一、七
中山 薫	「写真でみる岡山の民俗廻国行者の墓」岡山民俗二二五号 岡山民俗学会 二〇〇一、六	吉田久・長谷川匡俊	『日本仏教福祉思想史』法蔵館 二〇〇一、七
岸 吉郎	「中井出世不動尊」おちあい六六号 「おちあい」編集委 員会 二〇〇一、六	山口保明	「回檀琵琶盲僧」青第四号 宮崎県 二〇〇一、七
高野 修	『一遍聖人と聖絵』岩田書院 二〇〇一、六	潮田鉄雄	「四国阿波路へん路旅―10時間の草鞋ばき体験」民具マン スリー三十四巻四号 神奈川大学日本常民文化研究所
稲田道彦	「江戸時代末期と明治初期の二家族の四国遍路の旅」香川		

八月	二〇〇一、七		
岩崎佳枝	「職人」の虚像と実像『三十二番職人歌合』から」部落解放四九〇号 解放出版社 二〇〇一、八	保坂和子	「宿帳にみる大正期の農村―西多摩部福生村の場合―」女性と経験二六 女性民俗学研究会 二〇〇一、一〇
関山和夫	「節談説教の隆替(上)」大法輪六八巻八号 大法輪閣 二〇〇一、八	長谷川公茂	「今、円空に何を学ぶか」浅草寺仏教文化講座五五一回 安田生命ホール 二〇〇一、一〇
九月		松崎かおり	「社会のなりたちと移りかわり」『紀勢町史』所収 二〇〇一、一〇
小嶋博己	「日本廻国の旅と信仰①」浅草寺四九三号 二〇〇一、九	新行和子	『菅江真澄と近世岡崎の文化』桃山書房 二〇〇一、一〇
河島一仁	「奥三河における芸能従事者と行商人の地域的展開―若松屋宿帳(1899-1927)に関して―」歴史地理学 二〇五号 歴史地理学会 二〇〇一、九	脇田晴子	『日本中世被差別民の研究』岩波書店 二〇〇一、一〇
小林計一郎	「木地師の善光寺参り」長野二二三号 二〇〇一、九	小松和彦	「通世という生き方―アウトサイダーの系譜」『ウェッジ選書9 西行と兼好乱世を生きる智慧』株式会社ウェッジ 二〇〇一、一〇
小林計一郎	「泉光院の回国」長野二二三号 二〇〇一、九	松永伍一	「西行とは何者か―聖なる伝説のヴェールを剥ぐ―」『ウェッジ選書9 西行と兼好乱世を生きる智慧』株式会社ウェッジ 二〇〇一、一〇
林 淳	「土御門家江戸役所の組織改革」人間文化一六号 愛知学院大学人間文化研究 二〇〇一、九	山下隆章	「寺院と門付芸―長尾寺芝居一件如―から」『鳴門史学』一六集 鳴門史学会 二〇〇一、一〇
小山一成	「山形県最後の祭文師」あしな二五八号 山村民俗の会 二〇〇一、九	重本哲也	「四国における大師信仰の構造―阿波脇町における大師講の遍路―」『鳴門史学』一六集 二〇〇一、一〇
宮島潤子	「弾誓上人絵詞伝―塔の峰阿弥陀寺本を中心として(十七)」むしくら四八号 むしくら交流ニュースレター 二〇〇一、九	吉田幸平	「佐渡における弾誓上人と木食上人の一考察―木食上人の軌跡の疑問」日本佐渡学四号 日本佐渡学会 二〇〇一、一〇
田中智彦	「巡礼からみる熊野の海と山」瀬戸内海三一 二〇〇一、九	芝 英一	「猿まわし芸委任と近世身分制」くちくまの一二三号 紀南文化財研究会 二〇〇一、一〇
一〇月		田中智彦	「近世・西国巡礼の諸相」和歌山市立博物館『参詣曼茶羅と社寺縁起』目録 二〇〇一、一〇
今西 一	『文明開化と差別』吉川弘文館 二〇〇一、一〇	野地芳男	「風外慧薫禅師」小田原史談一八七号 小田原史談会 一一月
坂本憲一	『なにかわかるか、社寺境内図』所収 国立歴史民俗博物館 二〇〇一、一〇		

解放出版社	「漂泊に生きた人々」解放出版社 二〇〇一、一一	岩下紀之	「連歌師の生活」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一
坂田友宏	「山町伝説と安養比尼伝説」伯耆文化研究3号 伯耆文化研究会 二〇〇一、一一	小嶋博巳	「日本廻国の旅と信仰―③」浅草寺四九五号 浅草寺 二〇〇一、一一
沖浦和光	「漂泊氏「サンカ」の実像その歴史と民俗」部落解放 四九三号 解放出版社 二〇〇一、一一	村上春樹	「時頼廻国と将門伝来」茨城の民俗第四〇号 茨城民俗学会 二〇〇一、一一
作田 清	「漂泊者からの逆照射古老たちのアイデンティティー」部落解放四九三号 解放出版社 二〇〇一、一一	飯島吉晴	「一つ目小僧と瓢箪―性と犠牲のフォークロア」新曜社 二〇〇一、一一
柳原一徳	「ルポルタージュ 川と生きる「世間師」たち」部落解放 四九三号 解放出版社 二〇〇一、一一	根井 浄	『補陀落渡海史』法蔵館 二〇〇一、一一
作田 晃	「あるおばあさんの半生―川魚漁を中心に―」部落解放 四九三号 解放出版社 二〇〇一、一一	沖浦和光	『幻の漂泊民・サンカ』文芸春秋 二〇〇一、一一
木村照一	「遍路資料館づくりとその後」月刊社会教育四五卷一一号 国土社 二〇〇一、一一	星野英紀	『四国遍路塔の宗教学的研究』法蔵館 二〇〇一、一一
島津忠夫	「連歌師宗祇の魅力」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	新行和子	『菅江真澄と近世岡崎の文化』桃山書房 二〇〇一、一一
廣木一人	「地下の連歌師登場」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	飯尾恭之	「尾張サンカの研究完結編」歴史民俗学二〇号 歴史民俗研究会 二〇〇一、一一
岩下紀之	「連歌師の生活」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	利田 敏	「最後の「サンカ」加藤今朝松一代記」歴史民俗学二〇号 歴史民俗研究会 二〇〇一、一一
綿拔豊昭	「幕府の職制に組み込まれた連歌師」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	堀場 博	「セブリサンカ辰さんの作った箸とその周辺」歴史民俗学二〇号 歴史民俗研究会 二〇〇一、一一
奥田 勲	「宗祇の師匠たち―連歌は誰に学んだか」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	小嶋博巳	「日本廻国の旅と信仰―④」浅草寺四九六号 浅草寺 二〇〇一、一一
三輪正胤	「連歌師と旅―富士の姿」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	金谷匡人	「山師・柚師・木地屋・売薬行商の世界」小川国治編『長州と萩街道』所収 吉川弘文館 二〇〇一、一一
鶴崎裕雄	「連歌作者層の拡大」国文学解釈と鑑賞六六卷一一号 至文堂 二〇〇一、一一	縣 敏夫	「村落結衆の板碑―近世石仏との接点―」日本の石仏 一〇〇号 日本石仏協会 二〇〇一、一一
		宮島潤子	「念仏供養塔―釘板念仏を中心として―」日本の石仏 一〇〇号 日本石仏協会 二〇〇一、一一

小川直之	「石仏誌」の方法」日本の石仏一〇〇号 日本石仏協会 二〇〇一、一一一	澤 博勝・井上智勝 「湯尾峠茶屋と孫嫡子信仰」『北陸道Ⅱ・丹後街道』歴史の道調査報告書二、福井県教育委員会 二〇〇二
小嶋博巳	「廻国供養塔の重出人名―倉敷百太郎のこと―」岡山民俗二一六号 岡山民俗学会 二〇〇一、一一一	林 淳 「王権と陰陽道」岩波講座『天皇と王権を考える四』岩波書店 二〇〇二
森 正人	「近代における空間の編成と四国遍路の変容―両大戦間期を中心に―」人文地理第五四巻第六号 二〇〇一、一一一	川和田晶子 「近世に岩出山地方に伝わった安家天文道とその影響について」『天文学者名取春伸と門人たち』岩出山町史編纂委員会 二〇〇二
喜代吉榮徳	「光明真言袖鏡全（伊予三島市河村家文書）」善通寺教学振興会紀要八号 二〇〇一、一一一	勝浦令子 「往来・遍歴する女性たち」『天皇と王権を考える』七岩波書店 二〇〇二
久田松和則	「伊勢御師の為替と仏教寺院との関係」山岳修験三〇号 日本山岳修験学会 二〇〇一、一一一	岡 佳子 「近世の比丘尼御所（上、下）」『仏教史学研究』四二―二四四―二 二〇〇〇、二〇〇二
古川修文	「民俗建築からみた伝承文化の意義」日本民俗学会八〇〇回談話会報告（口頭）國學院大學 二〇〇一、一一一	中島圭一 「諸薬商売千駄檀の文書」年報三田中世史研究九 二〇〇二
二〇〇二年		脇田晴子 「日本中世被差別民の研究」二〇〇二
菅野洋介	「羽州先達の編成と社家・修験・村―奥州伊達郡を事例として―」駒沢史学五八 二〇〇二	草間孝廣 「松前における伊勢御師の活動」紀要明治聖徳記念学会三五 二〇〇二
吉岡浅一	『封建社会の風穴六十六部の軌跡』三好郡郷土研究会 二〇〇二	脇田晴子 「勧進と民間信仰」脇田晴子 『日本中世被差別民の研究』岩波書店 二〇〇二
岡本桂典・泉 誠司	「平成13年度寄贈資料から―安芸郡野根郷真砂瀬村榎本家所蔵の納経帳について―」高知県立歴史民俗博物館研究紀要一一号 二〇〇二	林 淳 「近世三河万歳の組織」『人間文化』一七号 愛知学院大学 二〇〇二
岸野俊彦	「民間宗教者の地誌編纂、吉田正直の世界」同氏書『尾張藩社会の文化・情報・学問』所収 清文堂 二〇〇二	梅谷繁樹 「時宗の遊行上人の旅と食」神崎宣武編『旅と食』所収 ドメス出版 二〇〇二
森 正人	「戦後から一九八〇年代までにみる四国88カ所巡礼の動態」人文論究五一―四 二〇〇二	吉岡浅一 「六十六部の軌跡」三好郡郷土史研究会 二〇〇二
御師廃絶一三〇年記念シポジウム実行委員会編	『伊勢の町と御師―伊勢参宮を支えた力―』二〇〇二	野地秀俊 「中世における寺社参詣と『穢』」伊藤唯真変『日本仏教の形成と展開』法蔵館 二〇〇二
		一月
		白井永二 「曲りなりに祀職の道筋」悠久八八号 二〇〇二、一
		印南敏秀 『東和町誌―資料編四 石風呂民俗誌 もう一つの入浴文

長曾我部光義	「出雲廻国塔の銘文追加について」石に聴く五七号 石が語るふるさと 二〇〇二、一	山口県大島郡東和町 二〇〇二、一	三月
朝尾直弘	「生駒家と座頭・警女仲間」京都橘女子大学研究紀要二八 二〇〇二、一	林 幸治郎	「近世・寺院社会の地域史」歴史評論六二三号 特集シンポジウム「身分的周縁をめぐって」二〇〇二、三
細川淳一	『漂泊の日本中世』筑摩書房 二〇〇二、一	中山 郁	「チンドンの再生と大阪」自然と文化六九号 日本ナシユナルトラスト 二〇〇二、三
永井彰子	『日韓盲僧の社会史』葦書房 二〇〇二、一	小野澤 眞	「普寛行者の開山活動の一考察―木曾御獄山の事例を中心として―」宗教研究三三二号 日本宗教学会 二〇〇二、三
倉地克直	「身分的周縁をめぐって―近世史の立場から―」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	小池淳一	「九州南部における念仏勧進と禁制―時衆と一向宗との対比から―」宗教研究三三二号 日本宗教学会 二〇〇二、三
大山喬平	「身分的周縁をめぐって―中世からカースト社会―」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	鈴木一馨	「皆川家旧蔵資料」に見られる陰陽道祭祀について」宗教研究三三二号 日本宗教学会 二〇〇二、三
鈴木 良	「身分的周縁をめぐって―近代史の立場から―」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	根井 浄	「補陀落渡海僧・日透の行動―熊野那智出帆説をめぐって―」宗教研究三三二号 日本宗教学会 二〇〇二、三
吉田伸之	「乞食・勧進と芸能者の所有について」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	小野寺淳	「道中日記にみる東海道の景観イメージ―関東地方農村部からの伊勢参宮」文化史研究四九号 文化史研究会 二〇〇二、三
塚田 孝	「近世の身分的周縁」によせて「兵農分離社会の種姓的構造」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	田中智彦	「道中日記にみる機内・近国からの社寺参詣」文化史研究四九号 文化史研究会 二〇〇二、三
山本 憲	「泉州の堺「四ヶ所」長吏と郡中非人参」部落問題研究一五九号 部落問題研究所 二〇〇二、二	桜井邦夫	「旅日記に見る近世の旅と宿泊」文化史研究四九号 文化史研究会 二〇〇二、三
渡辺尚志・塚田 孝	「諸身分・諸集団による「場」の所有」渡辺尚志・五味文彦編『新体系日本史3土地所有史』所収 山川出版社 二〇〇二、二	渡辺和敏	「新居宿旅籠の紀伊国屋について」文化史研究四九号 文化史研究会 二〇〇二、三
大戸安弘	「中世社会における教育の多面性」辻本雅史・沖田行司編『新体系日本史16教育社会史』所収 山川出版社 二〇〇二、二		

長曾我部光義	「高知県佐川町の六部堂その後について」石に聴く五八号 みやざき歴史文化協会 二〇〇二、三	大磯町教育委員会	『高来神社蔵木迄神像群』大磯町文化財調査報告書 第四五輯 二〇〇二、三
金谷匡人	「国防の木地屋・二題」『山口県史資料編民俗Ⅰ』所収 二〇〇二、三	皆川義孝	「布教者の活動から見た中世日光山」山岳修験二九号 日本山岳修験学会 二〇〇二、三
杉本 寿	「国防国の木地師制度」『山口県史資料編民俗Ⅰ』所収 二〇〇二、三	小嶋博巳	「六十六部縁起の諸本について(一)」生活文化研究所年報 報一五 ノートルダム清心女子大学 二〇〇二、三
土屋真夫	「売薬(行商)の習俗」『山口県史資料編民俗Ⅰ』所収 二〇〇二、三	林 淳	「天保十三年の宗教者市中取締の触れをめぐる諸問題」 愛知学院大学文学紀要三一 愛知学院大学文学会 二〇〇二、三
織田紘二	「国防における猿まわし―その生活と旅を主体として」『山 口県史資料編民俗Ⅰ』所収 二〇〇二、三	岩崎真幸	「近世回国行者野田泉光院の旅―奥州南部に視点をめぐつ て―」福島県の民俗三〇 福島民俗学会 二〇〇二、三
宮本常一	「出稼ぎ」『山口県史資料編民俗Ⅰ』所収 二〇〇二、三	皆川義孝	「中世日光山の布教者たち」文書館だより三一号 二〇〇二、三
田中徳一	「旅回り役者・筒井徳二郎の足跡」芸能第八号 芸能学会 二〇〇二、三	印南敏秀	「戦前の女四国遍路」岩井宏實編『技と形と心の伝承』慶 友社 二〇〇二、三
小嶋博巳	「六十六部縁起の諸本について(二)」生活文化研究所年報第 二五輯 ノートルダム清心女子大学生活研究所 二〇〇二、 三	四月	
菅原征子	「桐生町の仏教事情―文化・文政・天保期の名主の役用日 記から―」国立歴史民俗博物館研究報九五輯 二〇〇二、 三	小嶋博巳	「六十六部縁起の諸本について」巡礼研究会第三八回例会 二〇〇二、四
原田英祐	「平成13年度寄贈資料から―安芸郡根真砂瀬村・榎家所 蔵の納経帳」高知県歴史民俗資料館研究紀要一一号 二〇〇二、三	五月	
西海賢二	「物貰い考―村に入り来る宗教的職能者―」立正史学九一 号 立正大学史学会 二〇〇二、三	関山和夫	「語り芸・話芸―絵解き・浪花節・落語―」大法輪六九卷 五号 大法輪 二〇〇二、五
小形信夫	『念仏剣舞発生・伝播・変容の資料』東日本ハウス文化振 興事業団 二〇〇二、三	福江 充	『近世立山信仰の展開』岩田書院 二〇〇二、五
佐江衆一	『わが屍は野に捨てよ―遍遊行―』新潮社 二〇〇二、三	砂川博編	『一遍聖絵の総合的研究』岩田書院 二〇〇二、五
		金井清光	「一遍の天王寺賦算と乞食」砂川博編『一遍聖絵の総合的 研究』所収 岩田書院 二〇〇二、五
		松尾恒一	「一遍聖絵」における一遍の社寺参詣」砂川博編『一遍 聖絵の総合的研究』所収 岩田書院 二〇〇二、五

金井清光	「『一遍聖絵』に見る草履・草鞋と被差別民の草履作り」 砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』所収 岩田書院 二〇〇二、五	森 正人	「一九三〇年代を中心とする四国遍路の編成―「モダン遍路」の登場と遍路同行会の設立」 『巡礼研究会通信三八号』 二〇〇二、六
砂川 博	「『医聖』としての一遍」 砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』 所収 岩田書院 二〇〇二、五	小嶋博巳	「六十六部縁起の諸本について」 『巡礼研究会通信三八号』 二〇〇二、六
高野 修	「『一遍聖絵』もう一人の編者」 砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』 所収 岩田書院 二〇〇二、五	喜代吉榮徳	「郷土古文書史料集(218) 誌上遍路文化辰中納経帳から (2)」 『新居浜史談三三二号』 二〇〇二、六
古賀克彦	「『一遍聖絵』と『遊行上人縁起絵』―特に「丙本系」の「遠山本」と土佐派粉本を用いて―」 砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』 所収 岩田書院 二〇〇二、五	三大権現協賛会記念誌編集委員会編	『役行者千三百年御遠忌記念天王山と修験』 本山修験宗天王山大覚院 二〇〇二、六
砂川 博	『踊り念仏論』砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』 所収 岩田書院 二〇〇二、五	七月	『踊りの宇宙―日本の民俗芸能』 吉川弘文館 二〇〇二、七
矢島雅之	「円空ものがたり首をがしげた観音さま」 飛弾春秋四九六号 飛弾郷土史学会 二〇〇二、五	三隅治雄	『絵図と景観の近世』 校倉書房 二〇〇二、七
北川 央	「陰陽師と芸能」 大阪人五六巻五号 大阪都市協会 二〇〇二、五	山本邦彦	『キリシタン禁制と民衆の宗教』 山川出版社 二〇〇二、七
山川 均	「一遍の墓に誰がたてたか―石工・聖・そして民衆―」 帝京大学山梨文化財研究所 二〇〇二、五	村井草苗	「西行の生涯と心」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
六月	「坂東観音三十三札所徒歩巡礼の記」 浅草寺五〇一号 浅草寺 二〇〇二、六	大隅和雄	「一遍上人の生涯とその心」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
野萩光子	「伊勢に参る聖と王―『東大寺衆徒参詣伊勢大神宮』をめぐって」 今谷明編『王権と神祇』 所収 思文閣出版 二〇〇二、六	長島尚道	「行基の生活とその心」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
阿部泰郎	「近江国の聖と村落」 三味聖研究会口頭発表 二〇〇二、六	米山孝子	「役行者の生涯とその教え」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
坂本亮太	「わが家は瞽女宿だった村人は瞽女さの調べに陶酔」 会報	田中利典	「放浪について―山頭火」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
吉原敦子		早坂 暁	「隠通した人々とその心」 浅草寺仏教文化講座大四六輯 浅草寺 二〇〇二、七
		佐藤正英	

長谷川公茂	浅草寺 二〇〇二、七	「今円空に何を学ぶか」浅草寺仏教文化講座第四六輯 浅草寺 二〇〇二、七	松尾剛次	卷二輯 日本宗教学会 二〇〇二、九	「四国遍路八十八札所の成立―四国遍路絵図を手がかりとして―」宗教研究七六卷第二輯 日本宗教学会 二〇〇二、九
奥村隆彦	「和泉の三味聖文書と釈迦信仰について」宗教民俗研究 一二号 日本宗教学民俗研究会 二〇〇二、七	「近世真言律僧の唱導・勸化―超海通性筆『薬師如来瑞応伝』『瑞応座露集』論法を通して―」宗教民俗研究 一二号 日本宗教学民俗研究会 二〇〇二、七	新野直吉	「遊覧記に見る信仰と学門」菅江真澄研究四八号 菅江真澄研究会 二〇〇二、九	
加藤基樹	「近世真言律僧の唱導・勸化―超海通性筆『薬師如来瑞応伝』『瑞応座露集』論法を通して―」宗教民俗研究 一二号 日本宗教学民俗研究会 二〇〇二、七	「近世六十六部廻国行者の造像例―松江市所在の二例を中心に―」歴史考古学五〇号 歴史考古学研究会 二〇〇二、七	有元正雄	『近世日本の宗教社会史』吉川弘文館 二〇〇二、一〇	
島谷芳雄	「近世六十六部廻国行者の造像例―松江市所在の二例を中心に―」歴史考古学五〇号 歴史考古学研究会 二〇〇二、七	喜代吉榮徳	繁田信一	「安倍晴明の実像」『陰陽道の講義』所収 嵯峨野書院 二〇〇二、一〇	
鈴木一馨	『陰陽道』講談社 二〇〇二、七	荒川裕紀	柳原敏昭	「室町時代の陰陽道」『陰陽道の講義』所収 嵯峨野書院 二〇〇二、一〇	
前田博仁	「現代社会における四国遍路の機能―歩き遍路の属性、体験分析から―」巡礼研究会発表 二〇〇二、七	板谷 繁	林 淳	「近世の陰陽道」『陰陽道の講義』所収 嵯峨野書院 二〇〇二、一〇	
板谷 繁	「宮崎の修験僧串間円立院・延寿院」みやざき民俗55号 宮崎県民俗学会 二〇〇二、七	畠山 繁	山本義孝	「陰陽師と山伏」『陰陽道の講義』所収 嵯峨野書院 二〇〇二、一〇	
八月	「千葉市十善講大師巡行を取材して(1)」郷土史研通信 三九号 八千代郷土歴史研究会 二〇〇二、七	北川 央	林 淳	「陰陽師の活動」『陰陽道の講義』所収 嵯峨野書院 二〇〇二、一〇	
九月	「千葉市十善講大師巡行を取材して(2)」郷土史研通信 三九号 八千代郷土歴史研究会 二〇〇二、七	長谷部八朗	梅谷繁樹	「時宗の遊行上人の旅と舎」神崎宣武編『京都と京街道』所収 二〇〇二、一〇	
	「西国巡礼と熊野信仰」熊野別冊太陽 平凡社 二〇〇二、八		上島 享	「中世禅僧の天橋紀行」水本邦彦編『京都と京街道』所収 二〇〇二、一〇	
	「日本仏教と行者―「行者仏教」の世界」宗教研究七六		水本邦彦	「山伏修行と丹後・丹波路」水本邦彦編『京都と京街道』所収 二〇〇二、一〇	

- 石井啓文 「三島暦・相模国の弘暦網(一)」小田原史談一九一号
小田原史談会 二〇〇二、一〇
- 日本史研究会・大会報告テーマ近世における宗教者組織の歴史的展開
『日本史研究四八二号』日本史研究会 二〇〇二、一〇
- 米井輝圭 「12世紀日本の儀礼における陰陽師」歴史学研究七六八号 青木書店 二〇〇二、一〇
- 土浦市立博物館 『祈る・集う・巡る―信仰と旅の民俗誌―』土浦市立博物館第二八回特別展図録 土浦市立博物館 二〇〇二、一〇
- 山本志乃 「遊興の旅」のはじまり―江戸時代の庶民と旅―土浦市立博物館『祈る・集う・巡る―信仰と旅の民俗誌―』所収 二〇〇二、一〇
- 旅の文化研究所編 『絵図に見る伊勢参り』河書房新社
- 西山 克 「伊勢御師の実像」土浦市立博物館『祈る・集う・巡る―信仰と旅の民俗誌―』所収 二〇〇二、一〇
- 坂本佳子 「土浦における伊勢外宮御師の活動について―久保念大夫と幸福出雲」土浦市立博物館『祈る・集う・巡る―信仰と旅の民俗誌―』所収 二〇〇二、一〇
- 梅田千尋 「近世本所支配の諸相―陰陽道本所土御門家の組織展開―」二〇〇二年度日本史研究会総合・大会報告テーマ近世における宗教者組織の歴史的展開『日本史研究482号』日本史研究会 二〇〇二、一〇
- 井上智勝 「近世本所の成立と展開―神祇管領長吉田家を中心に―」二〇〇二年度日本史研究会総合・大会報告テーマ近世における宗教者組織の歴史的展開『日本史研究482号』日本史研究会 二〇〇二、一〇
- 高橋俊和 「能因・西行・芭蕉―東北の山河と旅情―」季刊河川レビュー 二〇〇二、一〇 新公論社 二〇〇二、一一
- 原淳一郎 「近世参詣地名所における参詣者意識―江戸十里以上の江の島参詣」交通史研究五一号 交通史研究会 二〇〇二、一一
- 宮島潤子 「『彈誓上人絵詞伝』―塔の峯阿弥陀寺本を中心として(18)―むしくら四九号 むしくら交流会ニュースレター 二〇〇二、一一
- 藤井洋一 「へんろ墓のこと」香川の民俗六六号 香川民俗学会 二〇〇二、一一
- 一二月
- 久保田和則 「伊勢御師の為替と仏教寺院との関係―肥前島原半島の場合―」山岳修験三〇号 日本山岳修験学会 二〇〇二、一一
- 二〇〇三年
- 林 淳 「土御門家配下の地方触頭の機能」愛知学院大・文学部紀要二九号 二〇〇三
- 松井松夫 「中世市のうつりかわり―川原の市から「連釈之の事」に見られる市町へ―」信濃五五〇七 二〇〇三
- 京都博・郡山市立美術館読売新聞社大阪本社編 『安倍晴明と陰陽師展』読売新聞大阪本社 二〇〇三
- 大阪人権博物館 「『安部晴明と被差別民』『安倍晴明の虚像―語られた歴史・由緒と被差別民―』二〇〇三
- 大阪人権博物館 「『安部晴明伝説』―展示を見るために―『安部晴明の虚像―語られた歴史・由緒と被差別民―』二〇〇三
- 高橋久敬 「白井鑄物師の由緒と伝説」群馬歴史散歩一八〇

一二月

塚田 孝	二〇〇三	「身分的周縁と勸進の併存」高木昭作・杉森哲也編『近世日本の歴史』放送大学教育振興会 二〇〇三	相山聖子	二〇〇三、一	「近世女性の移動」歴史だより四六号 栃木県歴史文化研究会会報 二〇〇三、一
林 淳		「陰陽師と神事舞太夫の争論」『人間文化』一八号 愛知学院大学 二〇〇三	川田純之		「徘徊し続ける浪人」歴史だより四六号 栃木県歴史文化研究会会報 二〇〇三、一
川田純之		「天保期以降の徘徊浪人の動向」歴史と文化一二号 二〇〇三	池田勇次		「ごあいさつ弾誓と円空について」むしくら五〇号 むしくら交流会 二〇〇三、一
藤田勇信		『私の小さな旅 寺社巡拝総集編』私家版 二〇〇三	酒井幸剛		「江戸時代初期の民衆宗教家弾誓・但唱たち―大島の木食行者とその足跡」むしくら五〇号 むしくら交流会 二〇〇三、一
田上善夫		「北陸および広域における霊場と風祭の分布とのかかわり」富山大学教育学部紀要五七号 二〇〇三	鷺野正昭		「尾張万歳の出自―山路説を踏まえて」まつり通信五〇三 二〇〇三、一
田上善夫		「地方霊場の立地環境と展開について」富山大学教育学部論集六号 二〇〇三	桜井治男		「道中日記から読む伊勢参宮の人々とそのプロセス」悠久九二号 二〇〇三、一
辻 穰		『ふるさと巡行紀行高岡新西国三十三観音霊場』北日本新聞販売 二〇〇三	岡 宏三		「内山真龍の出雲大社参詣」悠久九二号 二〇〇三、一
一月			佃 雅文		「厳島参詣紀行について」悠久九二号 二〇〇三、一
小峯和明		「聖地の表現世界―厳島参詣と願文、表白」同氏編『平家物語の転生と再生』所収 笠間書院 二〇〇三、一	印南敏秀		「金毘羅参詣の旅日記と絵図」悠久九二号 二〇〇三、一
長谷川公茂		「今、円空に何を学ぶか②」浅草寺五〇七号 浅草寺 二〇〇三、一	鈴木良明		「大山参り」悠久九二号 二〇〇三、一
恋田知子		「曾我物語と瞽女」『国文学解釈と鑑賞』別冊「曾我物語の作品学会」至文堂 二〇〇三、一	田中善信		「鹿島参詣紀行について」悠久九二号 二〇〇三、一
菅野洋介		「富士山御師と陰陽師の組織化」富士信仰研究会 第一回研究報告 二〇〇三、一	岩鼻通明		「近世の出羽三山参詣」悠久九二号 二〇〇三、一
城崎陽子		「武蔵村山の富士講」富士信仰研究会 第一回研究報告 二〇〇三、一	高橋千剣破		「近世の旅と旅事情」悠久九二号 二〇〇三、一
曾根ひろみ		『娼婦と近世社会』吉川弘文館 二〇〇三、一	田代 孝		「六十六部回国納経の発生と展開」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一
久野俊彦		「市神を祀る人々」歴史だより四六号 栃木県歴史文化研究会	藤田定興		「六十六部聖行者の廻国目的とおこない」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一
			小嶋博巳		「近世六部の組織性」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の

川島秀一	「民俗社会の六部伝承」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一		
小栗栖健治	「六十六部を描く行列絵巻―その解釈における一試論―」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』岩田書院 二〇〇三、一		
鈴木宗朔	「六十六部中山作太夫の廻国修行日記」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一	福江 充	「もと高野山学侶龍淵の加賀藩での宗教活動」富山史壇 一三九号 越中史談会 二〇〇三、一
長谷川賢二	「近世阿波の藍商人盛家の巡礼資料」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一	田村良子	「地域社会と地方巡礼―千葉県印西大師を事例として―」巡礼研究会通信第四一号 二〇〇三、一
日野西眞定	「高野山の六十六部史料」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一	菅沼晃次郎	「自然信仰を民衆宗教に昇華させた修験者たち―」信教の自由は統制できない」民俗文化四七三号 滋賀民俗学会 二〇〇三、一
小嶋博巳・田中智彦編	「六十六部研究文献一覽」巡礼研究会編『六十六部回国巡礼の諸相』所収 岩田書院 二〇〇三、一	利田 敏	「荒川族サンカ辰さん一家の記録」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
武田信一	「江戸末から明治初期の淡路巡礼」あわじ第二〇号 淡路地方史研究会 二〇〇三、一	青木秀樹	「平成サンカ発見の日」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
永松 敦	「獵師の由緒書の成立」古希記念論集刊行委員会編『伝承文化の展望―日本の民俗・古典・芸能―』所収 三弥井書店 二〇〇三、一	飯尾恭之	「サンカの人々の共有文化の検証」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
西海賢二	「巫覡僧と身分的周縁―「身分的周縁をめぐる」シンポジウムによせて―」古希記念論集刊行委員会編『伝承文化の展望―日本の民俗・古典・芸能―』所収 三弥井書店 二〇〇三、一	堀場 博	「下田市箕作の竹細工と廻遊竹細工師、加藤一太郎氏の覚書」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
西岡陽子	「近代の放浪―ある浪花節語りの日記から―」古希記念論集刊行委員会編『伝承文化の展望―日本の民俗・古典・芸能―』所収 三弥井書店 二〇〇三、一	礪川金次	「沖浦サンカ論を読む」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
小林幸夫	「鮭の神の説話伝承・乾鮭の宮伝説と鮭の大助―」古希記念論集刊行委員会編『伝承文化の展望―日本の民俗・古典・芸能―』所収 三弥井書店 二〇〇三、一	加藤良治	「国勢調査と移動・漂泊民」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一
		宮崎良子	「犬娘中山道を疾走する」歴史民俗学二二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一

研究会 二〇〇三、一	永島 恵	「近世庶民における情報伝播の一考察―勸化本『新撰善悪因果集』の分析を通じて―」常民文化二六号 成城大学常民文化研究会 二〇〇三、三
渡辺 靖	小嶋博巳	「六十六部縁起の諸本について(二)」生活文化研究所年報第一六輯 ノートルダム清心女子大学生活文化研究所 二〇〇三、三
鈴木昭英・豊島修・根井浄・山本殖生・熊野本願文書研究会編 『熊野本願史料』清文堂出版 二〇〇三、二	高本薫明	「大正期町を流して商売していた職人や商売人」土佐史談 二〇〇三、二
水谷 類	圭室文雄	「江戸時代の遊行上人―五代賦存―」『仏教文学』二七 二〇〇三、二
三月	岡本桂典	「四国霊場の札納」―土佐神社遍路納札と札について―
小林鎌光	林 淳	「寛政三年諸国陰陽師支配の触れをめぐる一考察」愛知学院大学文学部紀要三二 二〇〇三、三
山村雅史	山本 準	「四国八十八か所所写し霊場―徳島県内の事例を中心として―」『四国遍路の研究』四国遍路八十八か所の総合的研究』プロジェクト報告書一 鳴門教育大学 二〇〇三、三
大隈和子	長谷川賢二	「四国遍路史研究の課題をめぐって―霊場ネットワークの形成と巡礼行動について」『四国遍路の研究』四国遍路八十八か所の総合的研究』プロジェクト報告書一 鳴門教育大学 二〇〇三、三
加藤之晴	重本哲也	「四国における大師信仰の構造―阿波脇町における大師講と遍路―」『四国遍路の研究』四国遍路八十八か所の総合的研究』プロジェクト報告書一 鳴門教育大学 二〇〇三、三
鈴木一瞥	井馬 学	「徳島藩の遍路政策と村落の対応」『四国遍路の研究』四
浅川泰宏		
勝浦令子		
繁田信一		
研究会 二〇〇三、一		
「山の民考」歴史民俗学二二号 歴史民俗学研究会 二〇〇三、一		
鈴木昭英・豊島修・根井浄・山本殖生・熊野本願文書研究会編 『熊野本願史料』清文堂出版 二〇〇三、二		
「ラントウ考試論―下総東部のミヤボトケを手掛かりとして―」地方史研究三〇一号 地方史研究協議会 二〇〇三、一		
三月		
小林鎌光		
「富士山東口より登拝した西相模の富士講社と行者たち」		
秦野市研究二二号 秦野市史編纂会 二〇〇三、三		
「中世奈良の河原者考―岩井川河原者を主題材として―」奈良県立同和問題関係史料センター研究紀要九 二〇〇三、三		
「『遍聖絵』巻一について」都府核三四号 (財)古都大宰府保存協会 二〇〇三、三		
「中九州地方の民間宗教に関する研究」宗教研究七六巻第四輯 日本宗教学会 二〇〇三、三		
「陰陽道の調伏について」宗教研究七六巻第四輯 日本宗教学会 二〇〇三、三		
「遍路者接待における宗教性の位相―フォークタームの比較より―」宗教研究七六巻第四輯 日本宗教学会 二〇〇三、三		
『古代・中世の女性と仏教』山川出版 二〇〇三、三		
「平安時代中期の宮人陰陽師・安倍晴明の同業者たち―歴史民俗資料学研究八号 神奈川県大学大学院歴史民俗資料学研究科 二〇〇三、三		

河野通之	国遍路八十八か所の総合的研究」プロジェクト報告書1 鳴門教育大学 二〇〇三、三 「四国遍路における若者の変容」『四国遍路の研究』四国 遍路八十八か所の総合的研究」プロジェクト報告書1 二〇〇三、三	松山 修	礼研究会講演会 徳島県立博物館 二〇〇三、三 「真澄研究の現状と課題—研究史を交えて」東奥文化七三 号 青森県文化財保護協会 二〇〇三、三 「矢立峠を越えた人達」東奥文化七三号 青森県文化財保 護協会 二〇〇三、三
町田哲・井馬学	「後藤家文書遍路関係史料」『四国遍路研究』四国遍 路八十八か所の総合的研究」プロジェクト報告書1 二〇〇三、三	吉田 豊	「出羽三山石碑群と「行人行事の覚」」房総の郷土史三一 号 千葉県郷土史研究連絡協議会 二〇〇三、三 「菅江真澄と西行伝承—「かすむ駒形」『橋和の若葉』を 中心にして」國學院雑誌一〇四卷第三号 國學院大學 二〇〇三、三
石井啓文	「三島暦・相模国の弘暦網(三)」小田原に暦会所 があった—」小田原史談一九三号 小田原史談会 二〇〇三、三	小堀光夫	「新潟白山神社 祭礼の見世物と物売口上」仏教文化第 三二号 儀礼文化学会 二〇〇三、三
坂田 聡	「中世後期〜近世前期の家・家格・由緒」歴史評論六三五 号 歴史科学協議会 二〇〇三、三	福原敏男	「わが家は替女宿だった替女が残してくれたふるさ との文化」会報替女三号 替女文化を顕彰する会 二〇〇三、四
山本英二	「近世の村と由緒」歴史評論六三五号 歴史科学協議会 二〇〇三、三	成島継紀	「絵巻にみる捨聖・一遍上人①」大法輪七〇巻四号 大法 輪閣 二〇〇三、四
澤 博勝	「近世の地域秩序形成と宗教」歴史評論六三五号 歴史科 学協議会 二〇〇三、三	長島尚道	「中世の癩者と差別」岩田書院 二〇〇三、四 「真澄という人」季刊悠久九三三号 おうふう 二〇〇三、 四
高野 修	『時宗教団史—時宗の歴史と文化—』岩田書院 二〇〇三、三	金井清光	「西国巡礼三十三度満願供養札四人行者順正と教音の納 札」河内長野郷土研究誌四五号 二〇〇三、四
徳原聡行	『常総・寛永期の大日石仏』筑波書林 二〇〇三、三	白井永仁	「日本近世の身分制と神国観」部落問題研究一六四号 部 落問題研究所 二〇〇三、四
小嶋博巳	「四国遍路と六十六部」巡礼研究会講演会 徳島県立博物 館 二〇〇三、三	椋本 進	「近世身分制研究の現段階」部落問題研究一六四号 部 落問題研究所 二〇〇三、四
岡本桂典	「四国遍路の成立」巡礼研究会講演会 徳島県立博物館 二〇〇三、三	高木昭作	「ムラの大師考と四国遍路—阿波脇町を中心として—」巡 重本哲也
長谷川賢二	「阿波の六十六部—盛家所蔵資料について—」巡礼研究会 講演会 二〇〇三、三	塚田 孝	「ムラの大師考と四国遍路—阿波脇町を中心として—」巡 重本哲也

五月			
長島尚道	「絵巻にみる捨聖・一遍上人②」大法輪七〇巻五巻 大法輪閣 二〇〇三、五	殿南直也	「但馬・大谷太左衛門夫妻の六十六部廻国」日本の石仏 一〇六号 日本仏教協会 二〇〇三、六
宮島潤子	『彈誓上人絵詞伝』―塔の峰阿弥陀寺本を中心として (21) むしくら五二号 むしくら交流ニュースレター 二〇〇三、五	徳田和夫	「唱導と絵解き」国文学解釈と鑑賞六八巻六号 至文堂 二〇〇三、六
池田勇次	「飯田市・願王寺蔵 円空作 観音菩薩立像」むしくら五二号 むしくら交流ニュースレター 二〇〇三、五	根井 淨	「地獄絵」の絵解き」国文学解釈と鑑賞六八巻六号 至文堂 二〇〇三、六
中村 洋	「如意輪寺の「円空作 葉師如来像」郷土研究誌みなみ七五号 南知多郷土研究会 二〇〇三、五	根井 淨	「熊野比丘尼と絵解き」国文学解釈と鑑賞六八巻六号 至文堂 二〇〇三、六
六月		七月	
一矢典子	「モノモライの名の由来」久里二三・一四 合併号 神戸女子大学民俗学会 二〇〇三、六	長島尚道	「絵巻にみる捨聖・一遍上人④一遍上人の念仏」大法輪七〇巻七号 大法輪閣 二〇〇三、七
鈴木聖雄	『解説無能和尚行業記併びに行業遺事』山形県西村山郡河北町谷地甲八三 乙誓願寺内 二〇〇三、六	西山郷史	「白比丘尼」能登のくに刊行会編『能登のくに―半島の風土と歴史―』北国新聞社 二〇〇三、七
長島尚道	「絵巻にみる捨聖・一遍上人③―遊行の旅へ―」大法輪第七〇巻六号 大法輪閣 二〇〇三、六	西山郷史	「江戸の道順拝の道―定往する人巡る人―」能登のくに刊行会編『能登のくに―半島の風土と歴史―』北国新聞社 二〇〇三、七
長田純佳	「近世の村落における宗教者―甲斐国都留郡上吉田村を例に―」地方史研究三〇三号 二〇〇三、六 地方史研究協議会	青木忠雄	「口絵解説徳本阿弥陀如来像」埼玉史談五〇巻二号 二〇〇三、七
川口 洋	「幕末期の神事舞太夫武蔵国入間郡氷川村石山家による祈禱の実態」第四六回歴史地理学大会報告 二〇〇三、六	鈴木一馨	「近世陰陽道祭儀の分析」第十三回日本宗教民俗学会口頭発表 二〇〇三、七
船杉力修	「江戸初期機内農村における伊勢信仰の拡大―山城国久世郡寺田村を中心に―」第四六回歴史地理学大会報告 二〇〇三、六	梅田千尋	「近世京都における陰陽師の活動」第十三回日本宗教民俗学会口頭発表 二〇〇三、七
平井松午	「近世阿波五街道の成立と遍路道」第四六回歴史地理学大会報告 二〇〇三、六	林 淳	「神事舞太夫と陰陽師の家職争論―神子をめぐって―」第十三回日本宗教民俗学会大会口頭発表 二〇〇三、七
		山本義孝	「甲斐国における中世末期の民間陰陽師の足跡」第十三回日本宗教民俗学会大会口頭発表 二〇〇三、七
		小池淳一	「東方朔と八百比丘尼―陰陽道の伝承態―」第十三回日本

齋藤英喜	宗教民俗学会大会口頭発表 二〇〇三、七 「高知県物部村いざなぎ流の祈祷世界―修行する姫宮・博士の系譜をめぐって―」第十三回日本宗教民俗学会大会口頭発表 二〇〇三、七	川口 洋	「幕末期の神事舞太夫・武蔵国入間郡氷川村石山家にある祈祷の実態―歴史地理学二一五号 二〇〇三、九 「唱導談義と説話形成―法相宗の法脈を語る『春日権現記絵』の説話伝承―」国文学四八巻一一号 二〇〇三、九 「聖地・霊場の語り」国文学四八巻一一号 二〇〇三、九
小松和彦	「民俗社会の中の「陰陽師」の存在形態」第十三回日本宗教民俗学会大会公開講演 二〇〇三、七	阿部美香	「霊場の思想」吉川弘文館 二〇〇三、一〇
木場明志	「陰陽道の歴史―室町時代以降の展開」京都文化博物館郡山市立美術館編『安倍清明と陰陽道』図録 読売新聞大阪本社 二〇〇三、七	佐藤弘夫 小林健二	「中・近世芸能と熊野芸能・浄瑠璃にみる熊野比丘尼の面影」国文学解釈と鑑賞六八巻一〇号 至文堂 二〇〇三、一〇
山下克己	「陰陽道の歴史―その成立と特質―」前掲同	金山秋男	「一遍上人と熊野―熊野権現の夢告を中心にして―」国文学解釈と鑑賞六八巻一〇号 二〇〇三、一〇
八月		根井 浄	「熊野の本願所」国文学解釈と鑑賞六八巻一〇号 二〇〇三、一〇
西田かほる	「近世の身分集団―信濃国における芸能的宗教者―」高埜利彦編『元禄の社会と文化』所収 吉川弘文館 二〇〇三、八	林 雅彦	「熊野比丘尼と絵解き―文献資料に見る」国文学解釈と鑑賞六八巻一〇号 至文堂 二〇〇三、一〇
山下克己	「陰陽道・陰陽師の宗教的特質」第二期第四回サマーセミナー資料集 日本宗教史懇話会 二〇〇三、八	神田由築	「芸能興行の世界」藤田覚編『日本の時代史17近代の胎動』所収 吉川弘文館 二〇〇三、一〇
松尾恒一	「物部の諸職といざなぎ流御祈祷」第二期第四回サマーセミナー資料集 日本宗教史懇話会 二〇〇三、八	吉田正高	「江戸・東京における町内管理者としての修験と地域住民―就任、相続、追身の実態を中心に―」関東近世史研究 五四号 二〇〇三、一〇
西海賢二	「修験・木食―体験としての修行」第二期第四回サマーセミナー資料集 日本宗教史懇話会 二〇〇三、八	井上 攻	『由緒書と近世の村社会』大河書房 二〇〇三、一〇
川島秀一	「怨霊の民俗」三弥井書店 二〇〇三、八	高野 修	「一遍における聖・聖人・上人について試論」時衆文化八号 二〇〇三、一〇
九月		佐々木長生	「職人巻物調査について」民具マンスリー三六巻七号 神
長島尚道	「絵巻にみる捨聖・一遍上人⑥―最終回―捨ててこそ―」大法輪七〇巻 大法輪閣 二〇〇三、九	宮内貴久	「モノとしての番匠巻物」民具マンスリー三六巻七号 神
横山良一	『山頭火と四国遍路』平凡社 二〇〇三、九		
保坂和子	「宿帳に見る女の旅―大正から昭和へ―」女性と経験二二八号 女性民俗研究会 二〇〇三、九		

増田昭子	奈川大学日本常民文化研究所 二〇〇三、一〇	岡本桂典	二二
「会津・只見町の小笠原流礼法巻物と民俗」民具マンスリー三六巻七号 神奈川大学日本常民文化研究所 二〇〇三、一〇		「近世―近世の社会と文化 四国八十八ヶ所霊場」岡豊風日四九号 高知県立歴史民俗資料館 二〇〇三、一一	
鈴木昭英	『修験教団の形成と展開』法蔵館 二〇〇三、一〇	田中宣一	「散米と撒き銭」成城大学文芸学部紀要『成城文芸』一八四号 二〇〇三、一一
杉山幸子	『瞽女さん高田瞽女の心を求めて』川辺書林 二〇〇三、一〇	吉岡 孝	『江戸のベガボンドたち―「通り者」く順わぬ者たち―の社会史』ぶんか社 二〇〇三、一一
田中智彦	「日本における諸巡礼の発達」『聖なるものの形と場』国際日本文化研究センター 二〇〇三、一〇	吉田ゆり子	「万歳と春田打ち―近世下伊那郡の身分的周縁―」飯田市歴史研究所年報(一) 二〇〇三、一一
一月		鈴木孝庸	『越後ごぜうた文芸談義』ブックレット新潟大学二二二〇〇三、一一
西海賢二	「庶民と生きた宗教者たち」北原進編『近世における地域支配と文化』所収 大河書房 二〇〇三、一一	西本安秀	「近世の木製塔婆」関西大学考古学研究会開設五拾周年記念『考古学論業下巻』二〇〇三、一一
白川部達夫	「幕末維新期の村と旅人改め―村をめぐる交流・流通・地域」北原進編『近世における地域支配と文化』所収 大河書房 二〇〇三、一一	二〇〇四年	
池田勇次	「南木曾町の円空仏(一)」むしくら五五号 むしくら交流会ニュースレター 二〇〇三、一一	沖浦和光	『陰陽師の原像―民衆文化の境界を歩く』岩波書店 二〇〇四
末松和孝	『日向国における盲僧の成立と変遷盲僧史への一視座として』欽脉社 二〇〇三、一一	原 慶三	「市と被差別民」『中世景観の復元と民衆像―史料としての地名論―』花書院 二〇〇四
吉田伸之	『身分的周縁と社会』文化構造』部落問題研究所 二〇〇三、一一	東 一人	「廻国供養塔と道しるべ」みよし地方史六五号 二〇〇四
一二月		林 淳	『「指田日記」から見た村の陰陽師(二)』『人間文化』一九号 二〇〇四
時枝 務	「寮の尼僧―群馬県高崎市阿久津町万日堂の事例―」武尊通信九六号 群馬歴史民俗研究会 二〇〇三、一一	田中夕子	「念仏往生と作善―往生伝にみる造像―」印度学仏教学研究 九五二巻二号 二〇〇四
土屋順子	「信仰に見る江戸」国文学解釈と鑑賞六八巻二二号 至文堂 二〇〇三、一一	牧 達雄	『未公開近世往生人伝―江戸期庶民の信仰と死』四季社 二〇〇四
赤澤春彦	「陰陽師と鎌倉幕府」日本史研究四九六号 二〇〇三、	山本秀夫	「遍路と村社会―送りと迎えの論理から―」『四国遍路と

	世界の巡礼』所収 国際シンポジウム委員会 愛媛大学 二〇〇四		究―南会津地方を中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
笠原正夫	「近世の熊野参詣と西国巡礼」鈴鹿国際大学紀要一一号 二〇〇四	増田昭子・小林めぐみ	「会津地における小笠原礼法序説」『平成11、 12、13年度科学研究費補助金成果報告書職人巻物の民俗 学的研究―南会津地方を中心にして―』神奈川大学経済 学部 二〇〇四、三
田上善夫	「地方霊場の開創とその巡拝路について」富山大学教育学 部紀要五八号 二〇〇四	佐々木長生	「屋根葺巻物から見た職人の系譜」『平成11、12、13年度 科学研究費補助金成果報告書職人巻物の民俗学的研究 ―南会津地方を中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
萩原貞雄	「市場神代里神楽その一」郷土つるみ五九号 二〇〇四	宮内貴久	「番匠巻物研究序説」『平成11、12、13年度科学研究費補 助金成果報告書職人巻物の民俗学的研究―南会津地方を 中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
一月		小松大介	「元山・木挽巻物をめぐる民俗」『平成11、12、13年度科 学研究費補助金成果報告書職人巻物の民俗学的研究―南 会津地方を中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
宮崎ふみこ	「動乱の中の信仰」井上勲編『開国と幕末の動乱』所収 二〇〇四、一	小池淳一	「新出の「連釈之大事」をめぐって」『平成11、12、13年 度科学研究費補助金成果報告書職人巻物の民俗学的研究 ―南会津地方を中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
岡田 登	「伊勢御師の町・山田」近畿文化六五〇号 近畿文化会 二〇〇四、一	榎 陽介	「武道に関する巻物について」『平成11、12、13年度科学研 究費補助金成果報告書職人巻物の民俗学的研究―南会津 地方を中心にして―』神奈川大学経済学部 二〇〇四、三
脇田晴子	「遊行女婦・傀儡女・遊女」会報むろのつ一〇号 「嶋屋」 友の会 二〇〇四、一	熊本市民会館	「肥後琵琶を語る―守り伝よう―熱き火の国の調べを」熊 本市民会館 二〇〇四、三
二月		大高康正	「富士参詣曼荼羅試論―富士山本宮浅間大社所蔵・国指
加藤良治	「郷土資料のなかの漂泊の人々」歴史民俗学二三号 歴史 民俗学研究会 二〇〇四、二		
岩淵令治	「幕末・明治初年の庄内川北地域における医者―ある医者 の軌跡から―」国立歴史民俗博物館研究報告一一六集 二〇〇四、二		
長谷川賢二	「阿波の巡礼とその資料」「四国遍路と世界の巡礼」編 集委員会（愛媛大学）編『四国遍路と世界の巡礼』国 内シンポジウム・プロシーディングズ』青葉図書 二〇〇四、二		
三月			
佐野賢治	「職人巻物の世界―書承と口承の交錯」『平成11、12、13 年度科学研究費補助金成果報告書職人巻物の民俗学的研		

	定本を対象に―」山岳修験三四号 日本山岳修験学会 二〇〇四、三		間報告」『宗教研究』第七七卷第四輯 日本宗教学会 二〇〇四、三
田代 孝	「円楽寺の六十六部聖の文書」武田氏研究二九号 二〇〇四、三	大友義助	「堀内村里修験両保院高智の目録」最上地域史(二二六) 二〇〇四、三
馬部隆弘	「戦国期の諜報活動と山伏―毛利領国の事例から―」史敏一 号 史敏刊行会 大阪大学大学院文学研究科 二〇〇四、三	木村 博	「箱根周辺における念仏聖の活動―秀学上人の文字名号塔 ―」日本の石仏一〇九号 日本石仏協会 二〇〇四、三
村山雅史	「中世大和における地域の声聞師」奈良県立同和問題関係 史料センター 研究紀要一〇 二〇〇四、三	山本義孝	「遠江の国における民間宗教者、職能者の動向と地域社会 での位置」『人権教育資料No.11 遠江の国民間陰陽師・職 能者と陰陽師の世界』所収 カトリック中央協議会 二〇〇四、三
中川みゆき	「異土の乞食となるとても―「巡在者」随想」奈良県立同 和問題関係史料センター 研究紀要一〇 二〇〇四、三	田上善夫	「地方霊場の開創とその巡拝路について」富山大学教育学 部紀要第五八号 二〇〇四、三
皆川義孝	「中世を旅した聖と鹿沼」『鹿沼市史通史編原始中世』 二〇〇四、三	田上善夫	「日本海側中北部の地方霊場の開創と寺社分布のかかわ り」富山大学教育学部研究論集第七号 二〇〇四、三
田中智彦	『聖地を巡る人と道』岩田書院 二〇〇四、三	田上善夫	
宮家 準	「里山伏と廻檀する山伏」宮家準編『霊山と日本人』所収 日本放送出版協会 二〇〇四、三	四月	
林 雅彦	「続、熊野比丘尼と絵解き―絵画資料に見る」国文学解釈 と鑑賞六九卷三号 二〇〇四、三	苺米一志	『莊園社会における宗教構造』校倉書房 二〇〇四、四
根井 浄	「補陀落渡海―海の熊野古道」国文学解釈と鑑賞六九卷三 号 圭文堂 二〇〇四、三	赤坂憲雄	「はじめにマレビトありき」部落解放五三二号 解放出版 社 二〇〇四、四
三田村佳子	「江戸近郊の神楽師の近代―興行としての神楽と芝居―千 葉県野田市高橋家の文献資料から―」民俗芸能研究三六 号 二〇〇四、三	五月	
池上良正	「民俗・民衆宗教研究の視角を巡って」『宗教研究』第 七七卷第四輯 二〇〇四、三 日本宗教学会	網野善彦	「序にかえて―偽文書・職人の由緒書」久野俊彦・時枝務 編『偽文書学入門』柏書房 二〇〇四、五
根井 浄	「観心十界曼荼羅と熊野比丘尼」『宗教研究』第七七卷第 四輯 日本宗教学会 二〇〇四、三	網野善彦	「偽文書をめぐって」久野俊彦・時枝務編『偽文書学入門』 柏書房 二〇〇四、五
幡鎌一弘	「巡礼札から見る近世の西国巡礼―一乗寺の巡礼札調査中	丸川 亘	「偽文書と中世史研究」久野俊彦・時枝務編『偽文書学入 門』柏書房 二〇〇四、五
		久野俊彦	「(由来)〈由緒〉と偽文書」久野俊彦・時枝務編『偽文書 学入門』柏書房 二〇〇四、五

山本英二	「近世の偽文書―武田浪人を事例に」久野俊彦・時枝務編 『偽文書学入門』柏書房 二〇〇四、五	新人物往来社 二〇〇四、六
小池淳一	「偽文書と民俗―民俗書誌論再説」久野俊彦・時枝務編『偽文書学入門』柏書房 二〇〇四、五	「職人歌合」成立の背景」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六
時枝 務	「呪符・守札と偽文書」久野俊彦・時枝務編『偽文書学入門』柏書房 二〇〇四、五	「修験・木食―庶民信仰の担い手―」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六
久野俊彦	「職人の由来書―「商人の巻物」に見る表象と民俗」久野俊彦・時枝務編『偽文書学入門』柏書房 二〇〇四、五	「白丁（ペクチョン）」とよればれた人たち―朝鮮の被差別民」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六
青木基次	『乞食僧良寛―差別に抗した自由人―』象山社 二〇〇四、五	七月 山本秀夫 「近世期の「へんろ」村社会―「旅としてのへんろ」の視点で」香川史学三二二 香川歴史学会 二〇〇四、七
森田清美	「一向宗禁制と修験者・愛甲隆司の「一向宗崩日記を中心として」鹿兒島民俗一二五 鹿兒島民俗学会 二〇〇四、五	八月 村上弘子 「高野山における聖方の成立」寺院史研究第八号 寺院史研究会 二〇〇四、八
六月		
市村幸夫	「六十六部の足跡」村山民俗一八号 村山民俗学会 二〇〇四、六	九月 小池淳一 「リーディング・ガイド〈民俗書誌論へのいざない〉」民博通信二〇六 国立民族学博物館 二〇〇四、九
服部英雄	「岩窟に住む家族たち九州の「漂泊民」サンカ像」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六	小田匡保 「近世後期における入峰ルート―八経ヶ岳付近の場合」交通史研究五五号 交通史研究会 二〇〇四、九
赤坂憲雄	「サンカと東北からの漂泊民」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六	小松勝記 「遍路入国禁止政策と三国詣り」泰史談一二三号 泰史談会 二〇〇四、九
高山文彦	「我が故郷のサンカを想う」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六	一〇月 川崎利夫 「出羽国における廻国聖による納経の経塚」米沢史学二〇号 米沢史学会 二〇〇四、一〇
朝倉喬司	「漂泊民の別天地 夢野久作の小説世界別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六	寺島典人 「北領回峰行―相応和尚と無動寺・明王院―」近畿文化六五九号 二〇〇四、一〇
西垣内堅佑	「被差別からの反逆こそ「八切サンカ論」の真髓だ」別冊歴史読本八七第二九号 新人物往来社 二〇〇四、六	十一月 佐伯 修 「「サンカ」の幻影と実像」別冊歴史読本八七第二九号

宗 猛	「反時代的密語 円空の語るもの」朝日新聞 二〇〇四、一一、二三	高橋晋一	「四国遍路へのアプローチ―巡礼者からの視点・地域からの視点」徳島地域史研究会公開シンポジウム四国遍路と地域社会 二〇〇四、一一
森田清美	「隠れ念仏」地帯における修験の活動とその影響について―霧島山系東南麓の「かやかべ頭像の宗教」を中心として」山岳修験三四号 日本山岳修験学会 二〇〇四、一一	水野一典	「接待講の諸相」徳島地域史研究会公開シンポジウム四国遍路と地域社会 二〇〇四、一一
市村幸夫	「白鷹町瀧野の廻国納経帳」山形民俗一八 二〇〇四、一一	浅川泰宏	「地域社会の巡礼者認識―『オヘンロサンとヘンドについて』徳島地域史研究会公開シンポジウム四国遍路と地域社会 二〇〇四、一一
小阪真二	『安倍晴明撰『古事略決』と陰陽道』汲古書院 二〇〇四、一一	森山 進	「巡礼と人の癒し」上州路三六七号 二〇〇四、一一
一二月	世界人權問題研究センター編 『散所・声聞師・舞々の研究』思文閣出版 二〇〇四、一一	平井一雄	「富山県東部に点在する行者「覚明」の石碑と名号軸」北陸石仏の会紀要七号 二〇〇四、一一
長島高道	「時宗・一遍の遊行の意味」大法輪七二卷一二号 大法輪閣 二〇〇四、一一	二〇〇五年	
福西大輔	「高僧による開湯伝承―大分県別府市鉄輪温泉の―一遍上人 開湯伝承を中心に―」西郊民俗一八九号 西郊民俗談会 二〇〇四、一一	横山百合子	『明治維新と近世身分制の解体』山川出版社 二〇〇五
市川祐樹	「近世における鋳物師の地域的構造―丹後・加悦地方を中心に―」地方史研究三二二二号 地方史研究協議会 二〇〇四、一一	大津忠男	「鹿島事触・御師についての考察」茨城県立歴史館報三二二号 二〇〇五
水谷 類	「研究ノート「宗教センター」と「宗教サロン」―中世尾張・三河宗教文化圏のダイナミズム―」一宮研究会編『中世一宮制の歴史的展開下 総合会研究編』岩田書院 二〇〇四、一一	相馬伸吾	「三河における徳本行者の影響について」愛知大学文学部史学科 二〇〇五
原淳一郎	「近世寺社参詣における御師の役割―大山御師の檀廻を通じて―」史学七三―二・三、二〇〇四、一一	塩路善澄	『和歌山での足跡巡礼の旅―徳本行者をたずねて』正覚寺 二〇〇五
		西川正雄・青木美智男監修	『近代社会の諸相―個・地域・国家―』ゆまに書房 二〇〇五
		斎藤君代	「高津における吉橋大師巡拝」史談八千代三〇号 二〇〇五
		浅川泰宏	「巡礼、遍路の現在―歩き・若者、接待のトライアド」『現代仏教情報事典』法蔵館 二〇〇五
		一月	

伊藤唯真編	『浄土の聖者空也』吉川弘文館 二〇〇五、一	ジェラルド・グロマー 「松代替女」信濃六六一号 信濃史学会 二〇〇五、二
杉本苑子	「市の聖空也」伊藤唯真編『浄土の聖者空也』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	藤井洋一 「へんろの難儀と村方」香川の民俗六八号 香川民俗学会 二〇〇五、二
伊藤唯真	「安世の魅力―軸足を民衆に置く―」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	三月
伊藤唯真	「空世の生涯―沙弥を貫く―」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	赤坂憲雄 「あらためて箕の民俗誌へ」部落解放五四七号 解放出版社 二〇〇五、三
伊藤唯真	「現代に生きたる空也」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	内田鉄平 「近世後期、豊前・豊後国における伊勢御師の活動―橋津家大庄屋日記を参考として―」史学論叢三五号 別府大学 二〇〇五、三
大森恵子	「伝承のなかの空也像―靈験教化譚・踊念仏・大福茶・空也僧など―」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	武村充大 「廻国供養塔」大法輪七二巻三号 大法輪閣 二〇〇五、三
今堀太逸	「六波羅密寺と市聖空也」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	松尾剛次 「鎌倉仏教の再発見―戒律復興「個人」救済と叡尊忍性―」本郷No.五六 吉川弘文館 二〇〇五、三
上別府茂	「空也・空也僧と葬送―三昧聖研究の視点から―」伊藤唯真編『浄土の聖者』所収 吉川弘文館 二〇〇五、一	宮家 準 「民俗宗教史の研究―宗教的伝統の解明をめざして―」宗教研究第七八巻第四輯 二〇〇五、三
二月		森 正人 「「マス・メディアの中の四国遍路―一九八〇年代以降のラフスケッチ」徳島地域文化第三三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、三
野尻かおる	「展示批評二つの「安倍晴明展」をめぐる」地方史研究 三二三号 地方史研究協議会 二〇〇五、二	浅川泰宏 「語りわけられる巡礼者―四国遍路ターミノロジー」徳島地域文化研究三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、三
澤 博勝	「書評・長谷川匡俊著『近世の念仏聖無能と民衆』歴史評論No.六五八号 二〇〇五、二	磯本宏紀 「伊島を訪れたヘンドと呼ばれた人々」徳島地域文化研究三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、三
鈴木章生	「社寺参詣をめぐる研究動向と展望―江戸およびその周辺を中心として―」交通史研究五六号 二〇〇五、二	庄武憲子 「五か所参り、十七か所参りについて」徳島地域文化研究三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、三
赤坂憲雄	「読みとしてのオサの民俗誌」部落解放文化五四五号 解放出版社 二〇〇五、二	水野一典 「海を渡る接待―四国外からの接待聞書」徳島地域文化研究三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、三
林 雅彦	「熊野比丘尼と弘通活動―勧進比丘尼から浮世比丘尼への変容―」日本の美術NO.四六五 至文堂 二〇〇五、二	

岩崎慎司	「移植される聖地」徳島地域文化研究三号 徳島地域文化研究会 二〇〇五、二	野萩光子	「坂東徒歩巡礼の道」浅草寺五二九号 浅草寺 二〇〇五、四
前田博仁	「日向国における巡りの文化」『日向市史民俗編』二〇〇五、三	小林准士	「松江藩領における鉢屋の存在形態」部落問題研究一七二号 二〇〇五、四
由谷裕哉	「南加賀における真宗寺院の由緒書をめぐって」加賀民俗研究三六号 加賀民俗の会 二〇〇五、三	横田冬彦	「身分的周縁論をめぐって」部落問題研究一七二号 部落問題研究所 二〇〇五、四
瀬戸鉄男	「逆打ちの女遍路」泰史談一二六号 二〇〇五、三	時枝 務	『修験道の考古学的研究』雄山閣 二〇〇五、四
吉田晶子	「近世鋳物師の地域性―大阪府域における枚方村田中家の位置をめぐって」枚方市史年報八号 二〇〇五、二	玉城幸男	「西方寺の女性西国巡礼三十三度について(1)―智玄尼を中心として―」河内長野市郷土研究会誌四七号 二〇〇五、四
田上善夫	「富山県の霊場とその巡拝路の特色」富山県地理学研究会論文集第一二集 富山地学会 二〇〇五、三	椋本 進	「西国巡礼三十三度行者資料(3)『城下町警察日記』に記された三十三度行者と六十六部」河内長野市郷土研究会誌四七号 二〇〇五、四
森 正人	「空前絶後?」四国八十八ヶ所霊場出開帳―スベクターとしての巡礼と巡礼空間の生産」人文論叢二二号、三重大学人文学部 二〇〇五、三	田畑 勉	「古文書が語る上州史75 遊行上人一行の廻国」『群馬風土記』春季号一九卷二号 二〇〇五、四
村田周佑	「四国遍路から学ぶ長距離歩道整備の方向性」ウォーキング研究九号、二〇〇五、三	豊島 修	『熊野信仰史研究と庶民信仰史論』清文堂 二〇〇五、四
星野英紀	「大都會の真摯国霊場―御府内八十八ヶ所霊場の実態」宗教学年報二五号、大正大学宗教学会 二〇〇五、三	玉城幸男	「ある西国三十三度行者にみる称名寺・極楽寺、浄谷寺の関連性」河内長野市郷土研究会誌四七号 二〇〇五、四
瀧 雅之	「五色台における四国遍路の現状について」香川県自然科学研究報告二五号、香川県自然科学研究報告 二〇〇五、三	石丸正運	「横井金谷のこと」笠井章昭編『文化史学の挑戦』思文閣出版 二〇〇五、四
成瀬高明	「大和国八木村の郷墓と三味聖」椋山女学園大学研究論集 三六 二〇〇五、三	長谷川賢二	「江戸時代に大衆化した四国八十八ヶ所巡り」日経マスタイズ三四 二〇〇五、四
小林紀子	「近世の市場神代神楽」横浜市歴史博物館NEWS二〇号 二〇〇五、三	五月	
四月		杉田美代子・西田堪	「廻国行者一念」安思我良九号 南足柄歴史同好会 二〇〇五、五
加藤岡知恵子	「室町時代比丘尼御所入室と室町殿免許について」史学 七三巻四号 三田史学会 二〇〇五、四	飯尾恭之	「日本廻遊職能民サンカ」小考、サンカ学の誕生」nic he 一八号 批評社 二〇〇五、五

下重清	「道の者」たちの17世紀―徘徊する人びとの実像にせまる―」小田原近世史研究会編『交流の社会史』岩田書院 二〇〇五、五	八月	堀内 真	「商人と「商人の巻物」と市」飯田文弥編『中近世甲斐の社会と文化』岩田書院 二〇〇五、八
小瀬洋喜	「古今集と円空」文学第六卷第三号 岩波書店二〇〇五、五	塚田 孝	「人別帳と掟を通してみた日本近世の身分」部落問題研究 一七三号 部落問題研究所 二〇〇五、八	
森 繁哉	「乞食」季刊東北学三号 東北芸術工科大学東北文化研究センター 二〇〇五、五	田代 孝	「廻国納経の展開―中世の六十六部聖について―」飯田文弥編『中近世甲斐の社会と文化』岩田書院 二〇〇五、八	
松尾剛次	「四国遍路の成立と四国遍路絵図」日本仏教総合研究三号 日本仏教総合研究会 二〇〇五、五	青柳周一	「近世における若狭、熊川番所の通行について―西国順礼略打道中記に見る」地方史研究三二六号 地方史研究協議会 二〇〇五、八	
六月		赤坂憲雄	「沖繩に被差別民は存在したか(中)」部落解放五五三号 二〇〇五、八	
武田 正	『天保元年やかんの年 早物語の民俗学』岩田書院 二〇〇五、六	九月	加藤ミヨ	「円空展」に思う」文化情報二八一号 北海道文化財保護協会 二〇〇五、九
根井 浄	「パラダイ―熊野比丘尼」国際熊野学会会報 国際熊野学会東京事務局 二〇〇五、六	石森長博	「関東の御獄信仰と普寛行者」『せこ道』六号 山地民俗関係フォーラム 二〇〇五、九	
七月		村上圭二	「江戸時代盛行の六十六ヶ国巡礼(前)西美濃の記録」美濃民俗四六〇号 美濃民俗文化の会 二〇〇五、九	
久野俊彦	「由緒と伝承―創られた伝統と歴史認識」歴史たより五六号 栃木県立博物館 二〇〇五、七	鈴木 実	「泉州助松町紀州家本陣田中家の家伝薬売り弘め(下)紀州藩領内における売薬行商の形態」和歌山地方史研究 四九 和歌山地方史研究会 二〇〇五、七	
泉 正人	「由緒意識と地域社会」歴史たより五六号 栃木県立博物館 二〇〇五、七	飯尾恭之	「三角寛の著作活動とセプリサンカの動向 カリスマ三角と遊動職能者たちの戦後」歴史民俗学二四号 歴史民俗学研究会 二〇〇五、七	
鈴木 実	「泉州助松町紀州家本陣田中家の家伝薬売り弘め(上)紀州藩領内における売薬行商の形態」和歌山地方史研究 四九 和歌山地方史研究会 二〇〇五、七	福江 充	『立山曼荼羅―絵解きと信仰の世界―』法蔵館 二〇〇五、七	
松本紀郎	「七つ測参道のハンセン病遍路(1)」泰史談一二九号 泰史談会 二〇〇五、九	福島県歴史資料館編	『峠を越える人々―福島県歴史資料館平成17年度歴史資料展』	

金井清光	『一遍聖絵新考』 岩田書院 二〇〇五、九		
渡辺匡一	「瘦せ黒みたる身体」『アジア遊学79』勉誠出版 二〇〇五、九	福江 充	「荇峠寺日光坊の姥堂別当及び布橋大灌頂法会開催に 関わる勸進活動」富山市日本海文化研究所紀要一九 二〇〇五、一〇
飯尾恭之	「日本の回遊職能民「サンカ」小考「サンカ」の誕生」 豆州歴史通信三四九号 二〇〇五、九	二月	
根本誠二	『行基伝承を歩く』岩田書院 二〇〇五、九	塩見昭吾	「研究発表観音寺六十六部・小牧・上野条廻国塔について」 史談福智山六四四号 福知山史談会 二〇〇五、一一
米崎清美	「村の抵抗―近世後期の公共圏の境界―」法政史学六四号 二〇〇五、九	原 隆夫	「巡拝200ヶ所を記述した「下伊那郡案内道中記」の発見 (上)」伊那五三〇一一 伊那史学会 二〇〇五、一一
一〇月		松尾剛次	『鎌倉古寺を歩く 宗教都市の風景』吉川弘文館 二〇〇五、一一
福江 充	「荇峠寺日光坊の僦堂別当及び布橋大灌頂法会開催に 関わる勸進活動―日光坊所蔵の立山御僦尊別当奉加勸進記 (弘化三年)を中心に―」『富山市日本海文化研究所紀要』 十九号 二〇〇五、一〇	中前正志	「会津金川寺所蔵八百比丘尼伝説関係書類―縁起に成り上 がった俗説―」日本宗教文化史研究一八号 日本宗教文 化史学会 二〇〇五、一一
大原和喜	「秋葉街道に寄せる人々の心(16) 宿帳を通してみるあ きはみち聞話(一)」伊那五三〇一一 伊那史学会 二〇〇五、一〇	中野洋平	「神事舞太夫様神子集団の研究―信濃国における地 域的展開―」日本民俗学二四四号 日本民俗学会 二〇〇五、一一
山本英二	「浪人の由緒と伝説 武田浪人の場合」国文学解釈と鑑賞 七〇巻一〇号 至文堂 二〇〇五、一〇	堀辺 武	「東北地方からの伊勢参宮と常陸国―道中日記からル―ト を採る―」茨城の民俗四四号 二〇〇五、一一
酒匂伸行	「陰陽師と民俗社会」御影史学論集三〇三号 二〇〇五、 一〇	中上敬一	「茨城県の十九念仏供養塔」茨城県立歴史館報四四号 二〇〇五、一一
神奈川県立歴史博物館 図録	『特別展聖地への憧れ―中世東国の熊野 信仰―』二〇〇五、一〇	内田鉄平	「近世後期における旅行と往来手形―島原藩「豊州御領」 の事例を中心に―」西川正男・青木美智男監修『近代社 会の諸相―個・地域・国家―』ゆまに書 二〇〇五、一一
井上定幸	「峠を越えた人と物の交流―上信、上越国境を中心に―」 地方史研究協議会編『交流の地域史』二〇〇五、一〇	高橋 敏	『幕末狂乱コレラがやって来た』朝日新聞社 二〇〇五、一一
高橋久敬	「江戸時代の上州鋳物師と真継家支配」群馬県地域文化研 究協議会 群馬文化二八四号 二〇〇五、一〇	武田和昭	『増伴僧正』株式会社五岳 善通寺創建二二〇〇年記念出
中山 郁	「木食普寛の祈祷活動と御座儀礼の成立」神道宗教		

一二月	版 二〇〇五、一	喜代吉榮徳	「村を出て行く人たちのこと」 新居浜史談三六二号 新居浜郷土史談会 二〇〇六、一
筒井 裕	「昭和期における島海修験者の神札の調製と配札」 山形民俗一九号	金原佳子	「近世初期津島信仰の展開と御師「大吉檀那帳」を中心にして」 神道宗教二〇一号 二〇〇六、一
久野俊彦	「レンジャクの由来説話と表象」 民具マンスリー三八巻九号 二〇〇五、一一	二月	
吉田ゆり子	「地域社会と身分的周縁」 部落問題研究一七四号 二〇〇五、一一	矢島 新	「木喰仏」『柳宗悦の世界』 別冊太陽 二〇〇六、二
藤本清二郎	「江戸期、城下町における行倒人、孤独人の介抱と扶養」 和歌山大学紀州経済史研究所紀要二六 二〇〇五、一一	西海賢二	『近世のアウトローと周縁社会』 臨川書店 二〇〇六、二
二〇〇六年		三月	「四国遍路と世界の巡礼」 公開シンポジウム実行委員会編 『四国遍路と世界の巡礼—アジアの巡礼—』 二〇〇六、二
平塚 胖	「吉橋大師第三十三番札所大寺院について」 史談八千代三一号 二〇〇六	白永 智	「非農業民と網野史学」『神奈川大学評論53号』 二〇〇六、三
村上昭彦	「下総四郡八十八ヶ所について」 千葉史学四八号 二〇〇六	関口博臣	「近世初期北陸の悪党社会断章—走り者・牢人・人商売」『奥能登と時国家』 研究編二 二〇〇六、三
豊島・島づくり委員会	『豊島のお大師さん・豊島の西国三十三箇所めぐり』 二〇〇六	米原 寛	「立山信仰と檀那場」 明治大学リバティ・アカデミー「日本の絵解き」 サミット口頭発表 二〇〇六、三
名古屋民俗芸能研究会	『伊六万歳』 名古屋民俗芸能研究会 二〇〇六	根井 浄	「熊野信仰と熊野比丘尼道城寺」 明治大学リバティ・アカデミー「日本の絵解き」 サミット口頭発表 二〇〇六、三
豊島 修	「忘れられた歴史と宗教—紀伊半島の辺路王子研究（其の一）」 大谷学報八五巻二五号 大谷学会 二〇〇六	川田純之	「徘徊する浪人と村の契約」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三
小林紀子	「近世後期における市場神代御神楽の奉納とその範囲」 横浜市歴史博物館紀要一〇号 二〇〇六	久保康顕	「社会と宗教者・信仰」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三
一月		久保康顕	「木喰行道と白道」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三
小川信雄	「行倒考—指物商人山下米三郎と妻さわの遍歴と流浪」 利根川文化研究会 例会報告 二〇〇六、一	久保康顕	「泉光院成亮」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三
林 雅彦	「伊勢熊野比丘尼」 国際熊野学会会報3 国際熊野学会東京事務局 二〇〇六、一	久保康顕	

久保康顕	「修験者成亮と徳本」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三				
久保康顕	「徳本」『鹿沼史市通史編近世』 鹿沼市 二〇〇六、三	森 弘実	「四国遍路と地域文化レポート」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三		
南 隆尚	「道德教育事業と大学院授業」『四国遍路と地域社会との連携』『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	岩堀康幸	「三遍路ウォーク」に見る子ども、学生への効果についての報告」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト3」』二〇〇六、三		
大西克典	「四国遍路と地域文化エピソードー歩き遍路への更なる挑戦ー」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	田井静明	「香川県の写し霊場の成立（一）館蔵写し霊場史料の紹介」『瀬戸内海歴史民俗資料館紀要一八号』二〇〇六、三		
門田万寿美	「遍路の授業計画」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	加藤征治	「旅日記にみえる三都の芝居」『風俗史学三四号』二〇〇六、三		
後藤和世	「歩く」ということ」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	豊島 修	「忘れられた歴史と宗教ー紀伊半島の辺路と王子研究（其の一）大谷学報八五巻第二号』二〇〇六、三		
高倍昭治	「四国遍路と地域文化」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	坂口博規	「西行の宗教者意識」『駒澤短大國文第三六号』駒澤短期大学国文科研究室 二〇〇六、三		
塚岡政文	「四国遍路と地域文化」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	四月	「ある西国三十三度行者にみる称名寺・極楽寺・浄谷寺の関連性」『河内長野市郷土研究会誌第四八号』河内長野市郷土研究会 二〇〇六、四		
富永由里	「四国遍路と地域社会ー3日間で撮影した写真から連想したことー」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	五月	『境界の現場ーフォークロアの歴史学』辺境社、勁草書房 二〇〇六、五		
三好由香	「四国遍路と地域文化」『四国遍路の研究Ⅲ「四国遍路八十八か所の総合的研究プロジェクト報告書3」』鳴門教育大学 二〇〇六、三	鯨井千佐登	「護符と勸進聖・中世後期から近世初頭を中心に」『国学院大学日本文化研究所報二五〇』二〇〇六、五		
		米村直之	「遊行上人の越後巡回と長岡藩の応接」『長岡郷土史四三』二〇〇六、五		
		本山幸一			

前田博仁	「宮崎市における里修験の報告」みやざき民俗五八号 二〇〇六、五	小谷方明・小谷方明研究会 「民俗学者の見た信太陰陽師―小谷方明の世界(その一)―」歴史民俗学二五号 批評社 二〇〇六、八
六月		
松田澄子	「越後贅女の伝承―米沢市塩井地区の聞き取り調査から―」山形民俗二二号 山形県民俗研究協議会 二〇〇六、六	半田和彦 「秋田藩・富山売薬を排除」秋田史学五二号 秋田大学史学会 二〇〇六、八
本多貴子・松田澄子	「越後贅女の伝承―米沢市塩井地区の聞き取り調査から―」米沢史学二二 米沢市学会 二〇〇六、六	九月 塚田 孝 「身分的周縁論」日本歴史七〇〇号 日本歴史学会 二〇〇六、九
菊池勇夫	「ラクスマン来航と下北の人々―菅江真澄を手掛かりに―」東北アジア研究シリーズ七 東北アジア研究センター 二〇〇六、六	赤坂憲雄 「菅江真澄の見た東北の遊女たち」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
七月		
光田憲雄	「香具師と乞胸」大道芸通信一四六号 二〇〇六、七	辻本正教 「衢・辻と遊女の祖・佃女命」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
藤村耕市	「近世の旅と人々の善意」みよし地方史七〇号 三次地方史研究会 二〇〇六、七	五木寛之・沖浦和光・朝倉喬司 「大座談会 遊女のいる風景 悪所に棲む人々の輝きに魅せられて―」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
塩見鮮一郎	『乞胸江戸の辻芸人』河出書房新社 二〇〇六、七	森栗茂一 「都市遊女」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
前田速夫	『白の民俗学―白山信仰の謎を追って』河出書房新社 二〇〇六、七	筧本正治 「東と西の差別、神と遊女」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
八月		
光田憲雄	「かっぱれの乞胸芸(2)」大道芸通信一四七号 二〇〇六、八	関口博巨 「十八世紀列島社会の差別観念と遊女」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
西海賢二	「念仏行者と地域社会―伊豆の徳本上人巡錫をめくつて―」地方史研究三二二二号 地方史研究協議会 二〇〇六、八	日名子暁 「海を渡り性を売る生き方の今昔―フィリピン系芸能人と日本のからゆきさん」別冊歴史読本第三二巻一九号 新人物往来社 二〇〇六、九
水谷 類	「富士山信仰に見る東西交流史の課題」地方史研究三二二二号 地方史研究協議会 二〇〇六、八	林 耕二 「舞太夫」としての信太陰陽師」歴史民俗学二五号 二〇〇六、九
小林義孝	「陰陽師の末裔たち―特集にあたって」歴史民俗学二五号 批評社 二〇〇六、八	林 耕二 「信太妻」と舞太夫の接点」歴史民俗学二五号

森村健一	二〇〇六、九 「中近世都市、堺と陰陽道」歴史民俗学二五号 二〇〇六、九	塚田孝	「都市の周縁と身分的周縁」塚田孝編『都市の周縁 に生きる―身分的周縁と近世社会4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
森 秀樹	「近世民間陰陽師のイメージとルーツ推考」歴史民俗学 二五号 二〇〇六、九	吉田伸之	「遊廊社会」塚田孝編『都市の周縁に生きる―身分的周縁 と近世社会4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
礪川全次	「菊池山哉が捉えた陰陽師」歴史民俗学二五号 二〇〇六、 九	横山百合子	「屠場をめぐる人々と」塚田孝編『都市の周縁に生きる― 身分的周縁と近世社会4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
吉田幸平	『彈誓譚―ある修験僧の生涯』中日出版社 二〇〇六、九	マーレン・エーラス	「大野藩の古四郎―藩社会のなかの非人集団―」 塚田孝編『都市の周縁に生きる―身分的周縁と近世社会 4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
一〇月		塚田孝編	『都市の周縁に生きる―身分的周縁と近世社会 4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
梅原 猛	『歓喜する円空』新潮社 二〇〇六、一〇	神田由築	「役者村」塚田孝編『都市の周縁に生きる―身分的周縁と 近世社会4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
逸見大悟	「伊勢御師からみた戦国時代後期の信州情勢―しなのの国 道者之御蔽くはり日記」を讀んで」信濃六八一号 信 濃史学会 二〇〇六、一〇	塚田孝	「都市の周縁に生きる―十七世紀の大坂・三津寺町―」塚 田孝編『都市の周縁に生きる―身分的周縁と近世社会 4』吉川弘文館 二〇〇六、一一
高木吉一	「六十六部回国へんろみち」美濃民俗四七三号 二〇〇六、 一〇	澤井浩一	「御回在と村落―奈良県榛原町宗裕寺の事例から―」巡礼研 究会第二十三回例会報告吹田市勤労者会館 二〇〇六、 一一
一二月		下仲一功	「巡礼歌の位相―歌謡史の視点から―」巡礼研究会第 二十四回例会報告吹田市勤労者会館 二〇〇六、一一
若井水絵	「家業から見る伊勢時代の溝口幹」『溝口幹「日乗」(一)』 名古屋大学大学院教育発達科学研究科学環境学研究室 二〇〇六、一一、一〇	根井 淨	「地獄・極楽の絵解き図―熊野比丘尼および熊野観心十界 図の周縁」宗教民俗研究第一六号 日本宗教民俗学会 二〇〇六、一一
小松勝記	「へんろに關係する土佐国の番所」秦史談一三六号 二〇〇六、一一	小栗栖健治	「社寺参詣曼荼羅」論の周縁―」宗教民俗研究第一六号 日本宗教民俗学会 二〇〇六、一一
小嶋博巳	「西国巡礼三十三度行者と供養塔」『大阪狭山市史第7巻 別巻 石造物編』大阪狭山市 二〇〇六、一一	川島秀一	「巫女と妙音講」福田晃他編『巫覡盲僧の伝承世界第3集』 三弥井書店 二〇〇六、一一
宮家 準	「近現代の山岳宗教と修験道―神仏分離令と神道指令への 対応を中心に―」明治聖徳記念学会紀要復刊第四十三号 二〇〇六、一一		

鈴木正崇	「念仏と修験―千葉県船橋市の天道念仏の事例から―」 福田晃他編『巫覡盲僧の伝承世界第3集』三弥井書店 二〇〇六、一一一	豊島 修	「熊野―古代から近世へ―」国文学解釈と鑑賞 別冊 至文堂 二〇〇七、一
鈴木昭英	「信州飯田瞽女の足跡」福田晃他編『巫覡盲僧の伝承世界第3集』三弥井書店 二〇〇六、一一二	萩原龍夫	『中世東国武士団と宗教文化』岩田書院 二〇〇七、一
高松敬吉	「相良講の盲目の系譜―『願成寺文書』からの視座―」 福田晃他編『巫覡盲僧の伝承世界第3集』三弥井書店 二〇〇六、一一一	高松敬吉	「常落院法流球磨教区の動態―その記録の文献資料からの 祖座―」桜文論叢第六八巻 日大法学部 二〇〇七、二一
八千代市立郷土博物館・むつみ街づくり研究会編	『第2回市民企画展 「新四国を歩く」』図録 愛宕山真福寺 二〇〇六、一一一	村上昭彦	「新四国とは何か?」―下総四郡八十八ヶ所が開設されるまで― 『吉橋大師開設200周年記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』二〇〇七、二、一八
町田 哲	「近世後期阿波の倒れ遍路と村―後藤家文書を素材に―」 徳島自治八八号 二〇〇六、一一一	木原善和	「吉橋大師講Ⅰ」組織運営と札所の変遷について― 『吉橋大師開設200周年記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』 二〇〇七、二、一八
田口昌樹	「天明五年菅江真澄の旅―後年の記録から検証する―」菅 江真澄研究六〇号 菅江真澄研究会 二〇〇六、一一一	新井 徹	「吉橋組大師講Ⅱ」―遍路習俗を中心に― 『吉橋大師開設200周年記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』 二〇〇七、二、一八
田上善夫	「巡拝路からみた霊場の構造とその変容について」富山大 学人間発達科学部紀要第一巻一号 二〇〇六、一一一	石戸啓夫	「現在の大師講」『吉橋大師開設200周年記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』二〇〇七、二、一八
二〇〇七年 一月		加藤孝賞	「吉橋大師開設200周年を迎えて」 『吉橋大師開設200周年記念 記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』二〇〇七、二、 一八
内藤正敏	『東北の聖と賤』法政大学出版社 二〇〇七、一	吉橋 清	「父と子の大師信仰」 『吉橋大師開設200周年記念フォーラ ム 吉橋大師の今と昔』二〇〇七、二、一八
林 雅彦	「熊野学」研究の今昔」国文学解釈と鑑賞別冊 至文堂 二〇〇七、一	笹野紫蘭	「吉橋大師」にご縁をいただいで 『吉橋大師開設200周年 記念フォーラム 吉橋大師の今と昔』二〇〇七、二、一八
山崎 泰	「庶民の熊野信仰（近現代）」国文学解釈と鑑賞別冊 至文 堂 二〇〇七、一	宮家 準編	『近現代の霊山と社寺・修験』國學院大學二一世紀COE プログラム「神道と民俗宗教・修験道」研究会
鈴木昭英	「熊野の修験道」国文学解釈と鑑賞別冊 至文堂 二〇〇七、一		
林 雅彦	「熊野比丘尼と絵解き」国文学解釈と鑑賞 別冊 至文堂		

福原敏男	「大和万歳について(1)」コロス一〇八号 常民文化研究会 二〇〇七、二一	前田博仁	「宮崎市南部山岳地の修験、宮崎市における里修験報告」みやざき民俗五九号 二〇〇七、三三
田上善夫	「社寺の分布密度と霊場について」富山大学人間発達科学部紀要第一巻第二号 二〇〇七、二一	横浜市歴史博物館編	『横浜の神代神楽―神楽師たちの近世、近代』 二〇〇七、三三
三月		ジェラルド・グロマー	『瞽女と瞽女唄の研究』名古屋大学出版会 二〇〇七、三三
本間彰子	「最後の瞽女・小林ハル氏の遺言」キリスト教文化研究科研究年報第四〇号 宮城学院女子大学 二〇〇七、三三	宮家 準	「死者と生者の接点―民俗宗教の視点から―」宗教研究 八〇巻四輯 日本宗教学会 二〇〇七、三三
日野西真定	「弘法大師空海の心」大法輪七四巻三号 大法輪閣 二〇〇七、三三	山中 弘	「宗教ツーリズムをめぐって」宗教研究八〇巻四輯 日本宗教学会 二〇〇七、三三
浅川泰宏	「四国遍路はなぜ流行っているのか」大法輪七四巻四号 大法輪閣 二〇〇七、三三	浅川泰宏	「四国遍路の今日的展開―二極化する巡礼実践―」宗教研究八〇巻四輯 日本宗教学会 二〇〇七、三三
菊池勇夫	「絵引」をする菅江真澄」年報人類文化の研究のための非文字資料の体系化 4 神奈川大学二一世紀COEプログラム研究推進会議 二〇〇七、三三	四月	
北原糸子	「近世の日記に見る旅と災害―19世紀庶民の旅日記「虎勢道中記を中心に―」年報人類文化研究のための非文字資料の体系化 4 神奈川大学二一世紀COEプログラム研究推進会議 二〇〇七、三三	横田冬彦	「書物をめぐる人びと」横田冬彦編『身分的周縁と近世社会⑤ 知識と学問をになう人びと』吉川弘文館 二〇〇七、四
武田和昭	「弘法大師空海根本縁起』について」四国八十八ヶ所遍路の成立をめぐって」調査研究報告三号、香川県歴史博物館 二〇〇七、三三	引野享輔	「講釈師」横田冬彦編前掲書に同
大高安正	「多賀社参詣曼荼羅考」山岳修験三九号 二〇〇七、三三	伊藤 太	「徘徊師―与謝蕪村の前と後で―」横田冬彦編前掲書に同
中川光喜	「日光山と円空」山岳修験三九号 二〇〇七、三三	鶴崎裕雄	「連歌師と旅と名所」『日本の美術491号 至文堂 二〇〇七、四
愛媛大学法文学部内田研究室	『四国遍路の研究―歴史的諸相と瀬戸内交通―』(資料編) 二〇〇七、三三	玉城幸男	「西国巡礼三十三度行者の民話―河内長野市を中心に―」河内長野市郷土研究誌四十九号 二〇〇七、四、二二
塚田 孝	『近世大坂の非人と身分的周縁』部落問題研究所 二〇〇七、三三	椋本 進	「西国巡礼三十三度行者資料(4) 河内長野市清水地区地藏寺で新たに確認した満願供養塔」二〇〇七、四
		五月	
		西岡宣夫	「千葉県に残る木食観正塔」房総の石仏一七号、房総石造文化財研究会 二〇〇七、五

太田直之	「中世高野山の勸進活動」日本史研究五三七号 二〇〇七、五	高埜利彦	「私の身分的周縁」部落問題研究一八一 二〇〇七、六
山本博子	「法然上人二十五霊場と御影信仰」日本宗教文化史研究 二一〇・二〇〇七、五	三枝暁子	「中世寺社の公人について」部落問題研究一八一 二〇〇七、六
小野寺正人	「仙台領の『真澄遊覧記』と民俗研究」菅江真澄研究六一号 菅江真澄研究会 二〇〇七、五	後藤雅知	「近世の漁業構造と周縁社会」部落問題研究一八一 二〇〇七、六
内田九州男	『四国遍路と世界の巡礼』法蔵館 二〇〇七、五	碧海寿広	「仏教民俗学の思想―五来重について―」宗教研究三五二号 二〇〇七、六
寺内浩 編		八月	
川岡 勉		小山 博	「中世南九州と四国の交流について」地方史研究三二八号 二〇〇七、八
長谷川匡俊	『近世の地方寺院と庶民信仰』岩田書院 二〇〇七、五	定兼 学	「讃岐を旅した備中の貧窮歌人」地方史研究三二八号 二〇〇七、八
村上徳一	「菅江真澄「天明六年」の日記」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	荻野憲司	「中世讃岐の大般若経書写と熊野信仰」地方史研究三二八号 二〇〇七、八
相原康二	「真澄が記した盛岡藩領の農業・子ども・いたこ・蜃気楼」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	根井 浄	「四国の補陀落信仰」地方史研究三二八号 二〇〇七、八
佐藤英男	『楽山亭日記』に見る真澄の姿」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	根井 浄	「熊野比丘尼を絵解く文字説く―備前国下笠加の熊野比丘尼たち―」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八
菅原昭治	「菅江真澄の金成紀行記から」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	村上 岳	「文書にみる備前国下笠加の熊野比丘尼」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八
赤塚喜恵子	「夕つづのかゆきかくゆき」―天明の旅人菅江真澄・大槻家に逗留―」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	小栗栖健治	「持ち歩かれた説教用絵画―武久家に伝来した熊野比丘尼資料」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八
大内武子	「菅江真澄の交遊・訪問先及び宿泊地」菅江真澄研究第二〇回全国菅江真澄研究会岩手大会記念号 二〇〇七、五	水谷 類	「賽の河原の口寄せのミコ」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八
六月		瀧川和也	「地方に残る熊野観心十界曼荼羅―三重県の事例から―」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八
西海賢二	『江戸の漂泊聖たち』吉川弘文館 二〇〇七、六	細川久美子	「近松浄瑠璃『主馬判官盛久』に描かれた熊野比丘尼の絵解き」絵解き研究二〇、二一合併号 二〇〇七、八

山口博之	「山寺立石寺の社会的景観」考古学ジャーナル五六一号 ニューサンエンス社 二〇〇七、八	山路興造	「三曲万歳の周辺「胡弓」の歴史に及ぶ」大阪人権博物館 編『万歳』図録 二〇〇七、九
大友義助	「山岳宗教と草木塔」『いのちをいただく』山形大学出版 会 二〇〇七、八	太田恭治	「冬仕事万歳」大阪人権博物館編『万歳』図録 二〇〇七、九
岩鼻通明	「草木塔と出羽三山信仰」『いのちをいただく』山形大学 出版会 二〇〇七、八	村田清光・中川晃	「伊勢万歳村田社中の語り」大阪人権博物館編『万 歳』二〇〇七、九
九月		梅澤亜希子	「室町時代の北野覚蔵坊―勸進と造営」佛教藝術二九四号 毎日新聞社 二〇〇七、九
原淳一郎	『近世寺社参詣の研究』思文閣出版 二〇〇七、九	一〇月	
西海賢二	『近世の遊行聖と木食観正』吉川弘文館 二〇〇七、九	根井 浄	「熊野比丘尼の諸国定着と統制―熊野比丘尼文化の残燈―」 日本民俗学会第五九回年会口頭発表 二〇〇七、一〇、七
佐藤忠男	「国定忠治アウトローのモラル」本郷七一号 吉川弘文館 二〇〇七、九	久野俊彦	「熊野信仰と「商人の巻物」」日本民俗学会第五九回年会 口頭発表 二〇〇七、一〇、七
澤 博勝	「書評・塚田孝著『近世大坂の非人と身分的周縁』部落問 題研究一八二号 二〇〇七、九	神田より子	「熊野信仰の芸能への影響」日本民俗学会第五九回年会口 頭発表 二〇〇七、一〇、七
森下 徹	「塚田孝『近世大坂の非人と身分的周縁』によせて」部落 問題研究一八二号 二〇〇七、九	中野洋平	「民間宗教者」研究の再検討―近世期の「民間宗教者」 を理解するために―」日本民俗学会第五九回年会口頭発 表 二〇〇七、一〇、七
塚田 孝	「拙著『近世大坂の非人と身分的周縁』への二、三の補足」 部落問題研究一八二号 二〇〇七、九	山本 琢	「近世中期における「博士」の由緒」日本民俗学会第五九 回年会口頭発表 二〇〇七、一〇
桜井弘人	「遠山谷に生き続けるネギー信仰世界をになった民間宗教 者」伊那民俗学研究所報七〇号 二〇〇七、九	菊池勇夫	『菅江真澄』吉川弘文館 二〇〇七、一〇
大阪人権博物館	『万歳 まことに めでとう そうらいける』図録 二〇〇七、九	西海賢二	「四国遍路」研究をめぐる最近の動向―『旅と祈りの道 ―阿波の巡礼―』展示によせて―」地方史研究三二九号 二〇〇七、一〇
村上紀夫	「総論 祝い込みます御万歳」大阪人権博物館編『万歳』 図録 二〇〇七、九	渡邊哲哉	「「ほめ」研究の「前提」地方史研究三二九号 二〇〇七、 一〇
林 淳	「近世の土御門家と三河、尾張万歳」大阪人権博物館編『万 歳』図録 二〇〇七、九	稲田道彦	「幕末期の四国遍路のとまどい」地方史研究三二九号 二〇〇七、九
吉田栄治郎	「近世の大和万歳」大阪人権博物館編『万歳』図録 二〇〇七、九		

- 二〇〇七、一〇
田井静明 「香川県の島四国の展開と特徴」 地方史研究三二九号
二〇〇七、一〇
荻慎一郎 「金毘羅船の船旅」 地方史研究三二九号 二〇〇七、一〇
林 雅彦 「唱導と芸能 唱導文化の視点小攷」 国文学解釈と鑑賞
七二卷一〇号 至文堂 二〇〇七、一〇
小池淳一 「唱導文化論の構想」 国文学解釈と鑑賞七二卷一〇号 至
文堂 二〇〇七、一〇
阿諏訪晴美 「室町期の桂地藏建立にみる勸進」 国文学解釈と鑑賞七二
卷一〇号 至文堂 二〇〇七、一〇
澤 博勝 「真宗信仰と唱導」 国文学解釈と鑑賞七二卷一〇号 至文
堂 二〇〇七、一〇
鈴木正崇 「修験道と唱導」 国文学解釈と鑑賞七二卷一〇号 至文堂
二〇〇七、一〇
小島孝之 「中世文芸と唱導」 国文学解釈と鑑賞七二卷一〇号 至文
堂 二〇〇七、一〇
菊池政和 「近世文芸と唱導」 国文学解釈と鑑賞七二卷一〇号 至文
堂 二〇〇七、一〇
山田巖子 「青森県における仏教唱導空間と習俗」 国文学解釈と鑑賞
七二卷一〇号 至文堂 二〇〇七、一〇
松金直美 「近江の「廻り道場」 近世後期における「惣」道場の
一形態」 宗教民俗研究一七号 日本宗教民俗学会
二〇〇七、一〇
森田清美 「習合宗教系「隠れ念仏」 講と真宗講の年中行事比較に見
る民俗―宮崎県都城水流通を中心として―」 宗教民俗
研究一七号 日本宗教民俗学会 二〇〇七、一〇
蒲池勢至 「真宗民俗論の方法論的枠組み―御影巡回の民俗を通
して―」 宗教民俗研究一七号 日本宗教民俗学会
二〇〇七、一〇
相馬伸吾 「近世後期における民間宗教者の一考察―三河の徳本を
めぐって―」 地方史研究協議会編 『東西交流の地域史―列
島の境目・静岡』 所収 雄山閣 二〇〇七、一〇
一月
大高康正 「那智参詣曼荼羅考」 日本宗教文化史研究第一一巻第二号
日本宗教文化史学会 二〇〇七、一一
根井浄・山本殖生編 『熊野比丘尼を絵解く』 法蔵館 二〇〇七、一一
(東京家政学院大学人文学部、国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員)
(二〇〇九年五月八日受付、二〇〇九年九月二五日審査終了)